

戰機能ヲ失ハシムル程度ニ至ラシムルヲ目途トシ其ノ実行方法ニ関シテハ爾後ノ國際關係等ヲ顧慮スルノ要アリ」

八六八 八月二十五日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

ユーリン八月二十四日大連著ノ件

第四号

(八月二十六日接受)

「ユーリン」二十四日書記官二名ヲ隨ヘ著連非公式ニ会見シタル処準備ノ都合モアルニ付二十六日ヨリ交渉ヲ開始シタシト述ヘ尙「コゼウニコフ」モ多分来ルコトと思フモ何時到着スルヤ不明ナリト云ヘリ

八六九 八月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在シカゴ桑島領事宛(電報)

我方ノチタ政府トノ交渉ニ関スルシカゴ、デ
イリ、ニュースノ誤報訂正方訓令ノ件

第一五号

往電合第一四五号所載齊多政府トノ交渉ハ大連ニ於テ行フコトトナリタル処右ニ関シ八月二十六日「ウッド」發貴地宛 Daily News 電報ハ誤報勘カラズ就中各種利權獲得「ボシエット」灣割讓及東支鐵道管理權獲得云々ノ如キハ全然

事實ニアラズ我方ニ於テハ本件交渉ニ依リ何等独占の利益ヲ獲得セントスル次第第二非ザルヲ以テ右御含ノ上前記電報新聞ニ掲載セラルル場合ニハ適當ノ方法ニヨリ正誤方取計ハレタシ

華盛頓及紐育ニ転電アリタシ

二 大連會議關係一件

八七〇 八月二十六日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第一回會議ノ要領報告ノ件

合第一号

(八月二十七日接受)

八月二十六日第一回會議要領

本官、本官ハ齊多側代表者ト正式交渉ニ入ルノ權限ヲ有スル処貴官モ正式交渉ヲ為サントスルモノナリヤ「ユーリン」、然リ就テハ互ニ全權委任狀ヲ提示シテ交渉ニ移リタシ

(於是本官ハ或ハ英露協約ノ場合ヲ引用シ或ハ齊多政府ガ未ダ承認セラレザルヲ理由トシテ正式ニ全權委任狀ヲ提示

スルノ必要ナキ旨ヲ説明シタルモ先方ハ齊多政府ヘ報告ノ必要アリトテ強ヒテ委任狀ノ提示ヲ求メタルニ付各自ノ委任狀ノ内容ヲ説明シタル上次回會議ニ於テ互ニ提示スルコトトシ會議ヲ進ム)

本官、交渉ニ際シテハ過去ノ事件ニ触ルルコトヲ避ケ虚心坦懷根本問題ヲ商議シ速ニ會議ヲ終ルコトニ努メタシ

「ユ」、誠ニ同感ナリ

本官、日本ト極東共和国トノ親善關係樹立ノ為大連ニ於テ会商スルコトハ既ニ世間ニ知レ居ル管ナルニ「イマン」方面ニ於ケル貴国官憲ノ日本軍ニ對スル態度及貴国軍隊ノ鐵道守備ノ任ニ在ル日本軍隊ニ對スル最近ニ於ケル襲撃等ハ本官ノ甚タ了解ニ苦シム所ニシテ果ヲ本交渉ニ及ボスモノト信ズルニ付齊多政府ヨリ地方官憲ニ對シ速ニ嚴重訓令スル様取計アリタシ

「ユ」ハ右ニ答フル前ニ互ニ秘密ニスヘシト約シタル本會議ニ関シ日本ノ新聞紙ハ盛シニ論議シ居ル様ナルカ會議ノ秘密ニ関シ將來如何スヘキヤト問ヒタルニ付新聞紙ノ記事ハ哈爾濱ニ於ケル島田「コゼ」ノ非公式会見及本官滿鮮視察ノ途次齊多側ヨリ何等申出アラバ之ニ応ズベシトノ本

官ノ説明等ヲ根拠トシテ新聞記者ガ勝手ニ想像シタルモノナリト説明シ且何月何日会見等ノ事實ハ之ヲ秘密ニスル能ハズ又交渉ノ成行ヲ全然秘密ニスルトキハ新聞記者ハ各種ノ想像ヲ逞ウシ却テ世間ヲ迷ハスノ虞アルニ付會議ノ進行ニ伴ヒ互ニ相談ノ上差支ナキ程度ニ於テ隨時發表スルコトトシテハ如何ト提議シタルニ先方ハ之ニ同意セリ)

「ユ」、齊多側ハ本會議ニ関シ秘密ヲ守リタルヲ以テ地方官憲ニ於テハ何等知ル所ナカルベキモ地方官憲ハ中央政府ト同ジク日本トノ親善ヲ希望シ居ルモノナルヲ以テ最近ノ日本軍ニ對スル出来事ハ齊多官憲側ノ所為ニアラザルヘシト推察ス尤モ念ノ為中央政府ヨリ相当訓令ヲ下ス様取計フヘシ

本官、最近ノ事件ニ於テ敵ヨリ得タル鹵獲品中ニ「イマン」宣伝部ノ宣伝文五十部アリタルニ徴スレバ敵ハ貴国官憲ト關係アリタルコト疑ヲ容レズト雖貴国官憲ニ於テ從來日露ノ親善ヲ企図シ居リ今回更ニ訓令ヲ發セラルル以上ハ今後若シ日本軍ニ敵對行動ヲ取ルモノアラバ貴國ニ關係ナキモノト認メ日本軍ハ之カ撃破ノ手段ヲ執ルベキニ付其旨齊多政府ニ予メ通知シ置カレタシ

「ユ」、貴意之ヲ諒ス茲ニ当方ニ於テモ一ノ希望アリ即チ目下「イマン」ニ在ル「アントーノフ」政權及国民議會ハ正当ニ民意ヲ代表スルモノニ付日本政府ニ於テ之ヲ援助シ沿海州ニ於ケル秩序維持ニ任ジ得ル様セラレタキ旨日本政府ニ電報アリタシ現状ニ於テハ齊多政府ハ沿海州ノ秩序維持ノ責任ズル能ハズ「メルクーロフ」政權ノ如キハ毫モ民意ニ副フモノニ非ズ日本軍ノ駐屯ニ依リ僅ニ生存スルノミ

松島、日本軍ノ駐屯ハ秩序維持ヲ目的トスルヲ以テ秩序ノ維持ニ努力シツツアリ唯露國ノ内政ニ干渉シテ一党一派ニ援助ヲ与フルコト能ハザルニ付「イマン」ニ在ル政權ノ浦潮ニ移ルコトヲ援助スルヲ得ズ但シ「イマン」政權ガ武力ニ依ラズシテ浦潮ニ入ルニ於テハ同政權ノ秩序維持ニ対スル努力ニ援助ヲ与フルハ勿論ナリ「メルクーロフ」政權ノ存在ニ拘ラズ日本カ齊多政府ト交渉ヲ開キタルハ齊多政府カ極東露領ニ於テ最モ有力ナルモノト認メタルガ為ナルニ付安心セラレテ可ナルベシ齊多政府ガ「メ」政權ヲ包容スルトモ或ハ何等カノ妥協ノ途ヲ見出ストモ日本ノ関スル所ニ非ズ尙御希望ノ趣ハ帝國政府ニ伝ヘ置クヘシ

右ニテ第一回會議ヲ終リ明日第二回會議ヲ開クコトトス

八七一 八月二十七日

内田外務大臣ヨリ
在上海山崎總領事
在桑港矢田總領事
在柏林日置公使
各宛（電報）

チタ政府トノ大連會議八月二十六日開始及同

會議ノ目的ニ付通報ノ件

合第二六四号

齊多政府トノ通商其他ノ事項取極方ニ就テハ往電合第一四五号所載ノ通り交渉開始ニ決定シタルモ五月末浦塩ニ政變勃發シタル為メ一時其實行ヲ差控ヘタル処浦塩臨時政府及「セメノフ」一派ノ実力ニ照ラシ交渉ヲ躊躇スル必要ナキノミナラズ齊多側ヨリ其後重ネテ本件交渉速開ノ希望ヲ表明シ来リタルヲ以テ我方ニ於テハ諸般ノ關係上速ニ交渉ヲ開始スルヲ得策ト認メ浦塩派遣軍松島政務部長ヲ代表者トシ先方代表者外務大臣「ユーリン」ト大連ニ会商セシムルコトニ取運ヒ八月二十六日ヨリ交渉ヲ開始セリ右商議ノ主ナル目的ハ通商ニ関スル取極並ニ居留民ノ安全帝國ニ対スル脅威ノ除去過激派宣伝ノ禁止既得權ノ尊重及各種産業ノ自由等ニ関シ保障ヲ求メントスルモノニシテ我方ニ於テ何

大連會議第二回會議ニ付報告ノ件

合第二号

（八月二十八日接受）

等独占ノ利益ヲ獲得セントスルニ非ズ即門戸開放機會均等ヲ実行セントスルモノニシテ又齊多政府ニシテ前記諸件ニ関シ相当ノ保障ヲ与フルニ於テハ速ニ沿海州ヨリ撤兵ヲ実行スル考ヘナリ尤モ尼港事件ノ解決ハ之ヲ後日ニ譲ル答右貴官御含迄

（上海ヘハ）天津、濟南、漢口、廣東「マニラ」「シドニー」ヘ転電アリタシ

（桑港ヘハ）紐育、シカゴ、オタワ、ホノルルヘ転電アリタシ

（柏林ヘハ）在白伊各大使並ニ在欧各公使ニ転電アリタシ

八七二 八月二十七日 陸軍次官ヨリ
浦潮派遣軍參謀長宛（電報）

日本国及極東共和国間軍事上細部ノ協定ニ関スル申出ニ付回訓ノ件

浦參特四〇軍事上細部ニ関スル貴軍ノ意向ニ就テハ異存ナシ然レトモ浦潮要塞裝備ノ撤去ハ露西亞側ヲシテ実施セシメ貴軍ニ於テ之ヲ監督スルノ態度ニ出ヅルヲ可トス

八七三 八月二十七日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八七二

八七三

九一一

右回答前ニ「ユーリン」ハ正式會議錄作成ノ件（無人数ノ当方トシテ外国語ノ正式會議錄作成ハ困難ナル旨主張シタルモ先方ニテ作成スルニ付当方ニ於テ可然訂正ノ上正式會

議録トシタシト執拗ニ要求シタルヲ以テ明白ナル承諾ヲ与ヘズシテ差当リ試ミ見ルヘシト述ヘ置ケリ。齊多トノ連絡通信ヲ確実ニスル件「クローリエ」ノ安全ニ関スル件ニ関シ長々シク述ヘ立テタルヲ以テ議事進行セズ新聞紙ニハ全權委任状ノ相互提示ヲ為シタルコト及交渉ニ入ルニ先チ必要ナル準備の情報及説明ノ交換ヲ為シタルコトヲ発表スルコトニ打合セ閉会セリ

八七四 八月二十九日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第三回會議ニ付報告ノ件

合第三号

(八月三十日接受)

第三回會議(二十九日)

「ユーリン」、合法的の齊多政府ヨリ見レバ叛逆者ニ等シキ「メルクローフ」政權カ浦潮ニ在ル国有貨物ヲ払下グルハ盜賊的行為ニ付秩序維持ノ任ニアル日本軍憲ニ於テ之ヲ阻止スル様セラレタシ

松島、斯ル物資ヲ買入ルルハ望マシカラザルニ付日本商人ニ對シテハ之ヲ避クル様警告ヲ与ヘツツアリ唯内政不干涉ノ態度ニ在ル日本軍トシテハ事實上ノ權力者ノ行為ヲ禁止

リト思考スルモ「ゴンゴダ」協定ノ内容ヲ承知セザルニ付取調ノ上次回ニ御答スルコトトシタシ

松、齊多政府ト勞農政府トノ關係ニ付種々情報アリテ真相ヲ知ルニ苦ム極東共和国憲法ニ拠レバ獨立國ノ外觀アルモ事實ニ於テ齊多政府ハ勞農政府ノ指揮ヲ受ケツツアリトノ報道、極東共和国内ニ勞農軍派遣セラレ居ル事實、齊多政府部内ニ多數ノ勞農露國人士ノ入り居ル事實等ニ鑑ミ眞ニ獨立自主ノ國ナリヤラ疑ハシム此点ニ関スル説明ヲ希望ス「ユ」、(共和国成立ニ至ル迄ノ困難ナル對内關係ヲ詳細説明シタル後)極東共和国成立ノ通牒ニ對シ米國ハ単ニ同情的の回答ヲ与ヘ支那ハ自國民保護ノ關係モアリ代表者ヲ齊多ニ送リタルモ他ノ列國ハ不関焉ノ態度ヲ取り独リ勞農露國ノミ共和国ノ成立ヲ承認シタリ此ノ事情ノ下ニ於テハ國歩艱難ナル共和国カ勞農露國ノ援助ニ頼ラントスルハ当然ナリ時間モ立チタルニ付御質問ニ對スル具體的の回答ハ次回ニ譲リタシ

註 「ゴンゴダ」協定ニ付テハ日本外交文書大正九年第一冊下巻
七五一及七五二文書參看

スルコトヲ得ズ又齊多政權ガ自己ヲ以テ正當ニ民意ヲ代表スルモノト為スト同様ニ「メ」政權ハ自己ヲ以テ合法ノ政權ト称シ居ルヲ以テ第三者タル日本ハ一方ヲ合法政府ト認メ他方ノ行為ヲ禁止スルヲ困難トス加之假ニ日本ハ齊多政府ヲ以テ合法政府ト認ムルモ他ノ列國中「メ」政權ヲ以テ合法政府ト認ムルモノアリトセバ「メ」政權ノ行為ヲ阻止スルカ如キハ國際法違反ナリ

「ユ」、余ノ希望ハ左様ニ強キ意味ニ非ズ「メ」政權トノ各種契約ヲ認メズトノ六月六日ノ宣言ヲ一般ニ周知セシムルノ措置ヲ執ラレバ足レリ

本官、右宣言ハ其ノ當時報告済ニ付日本官憲ハ承知シ居レリ本官モ浦潮ニ於テ該宣言ヲ引用シテ當業者ニ注意ヲ与ヘタルモ尙特ニ我官憲ノ注意ヲ喚起シ置クヘシ

松、「ゴンゴダ」協定ニ於テ所謂緩衝國ハ「セレンガ」以東ノ諸州ヲ以テ組織スルコトヲ約シタルニ貴國側ハ我了解ヲ求メズシテ勸察加州ヲ除外シ沿黑龍州ノ境界ヲ變更セリ右ハ協定違反ニシテ我既得權ニモ關係アルニ付通商問題ノ商議ニ入ルニ先チ予メ注意ヲ喚起シ置クノ要アリ

「ユーリン」、行政區域ノ變更ハ主權ノ發動ニシテ自由ナ

八七五 八月三十日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第四回會議ニ付報告ノ件

合第四号

(八月三十日接受)

三十日第四回會議ニ於テ「ユーリン」ハ前會議ノ説明ヲ繼續シ新共和国民ハ眞ニ獨立自主ノ國家ヲ樹立セント努力スルモノナルモ諸外國カ同情アル援助ヲ与ヘサル今日勞農露國ノ支援ニ俟ツノ已ムヲ得サル所以ヲ繰返シ國家機關ノ組成ノ為ニハ単ニ國內ノミナラス勞農露國ハ勿論外國ニ在ル露國人ヲモ招来スルノ要アリ是レ勞農露國ニ在リシモノカ我政府部内ニ入リタル理由ナリ次ニ勞農軍ノ派遣ニ関シテハ元來共和国ハ其ノ領土内ニ外國軍ノ存在ヲ欲セサルモノナルヲ以テ勞農露國軍ノ派遣ニ對シテモ抗議シタルカ日本軍及支那軍カ其ノ領土内ニ存在スル折柄トテ勞農露國モ其ノ必要アリト認メテ軍隊ヲ派遣スルニ至レリト説明セリ

次テ本官ハ在「ブラゴエ」政權ハ同地ニ在ル特務機關ノ公ノ資格ヲ認メズトノ通告ヲ發シタル趣ナルガ右ハ日露親善關係樹立ノ為會議ヲ開キ居ル趣旨ニモ反シ交渉ノ進捗ニ障礙ヲ及ボスノ虞アルニ付從來通ノ待遇ヲ与フル様地方官憲

へ訓示方請求シタルニ「ユーリン」ハ之ヲ承諾セリ

尙本官ハ「ユ」ノ問ニ答へ日本政府ハ勞農政府ト何等交渉ヲ開始シ居ラザル旨並本官一己ノ意見トシテ勞農政府カ共產主義ヲ棄テザル限り日本政府ハ同政府ト交渉ヲ開始セザルベシト思考スル旨答へ置キタリ

最後ニ「ユーリン」ハ談判ニ入ルニ先チ目下來連ノ途ニ在ル「コゼウニコフ」一行ヲ俟ツ必要アルニ付夫レ迄會議ヲ中止シタシト述へ本官ハ之ニ同意シ置キタリ

八七六 八月三十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

日本ノ対チタ政府交渉ニ関シ浦潮在留邦人ヨリ

リ上申ノ計畫中ナル希望事項報告及請訓ノ件

附屬書 東方經濟調查會作成ノ日露協商ニ対スル希望条項 (九月五日接受)

機密第六〇号

大正拾年八月三十日

在浦潮斯德

總領事代理 領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

ニ対スル希望条項』ト題スル意見書ヲ作製シ不日当地商工会議所ノ討議ニ附シ同所ノ決議文トシテ追テ本官ニ提出ノ管ニテ不取敢右意見書ヲ本官ニ内進シ一面可成速ニ我当局ニ願意ノ徹底ヲ願ヒ他面之ヲ可成速カニ公表シテ輿論ヲ喚起シタキ旨幹部ヨリ内請有之候

本書ノ内容ハ大体ニ於テ傾聴ニ値スヘキ相当理由アル申立ト被相認候ニ付キ右ハ多分今回ノ我提案中ニ大様網羅セラレ居ルモノナルヘシト被存候得共御参考ノ為メ玆ニ及進達候間御査閱ノ上可然御取計相成候様致度尤モ本意見書ハ多分不日提出スヘキ当地商工会議所ノ決議文ノ骨子トナルヘキモノニシテ或ハ列記条項以外ニ我利の条項ノ追補セラレ其他幾分訂正条補可有之被存候得共何分今日此儘直チニ本意見書ヲ新聞等ニ發表スル儀ハ或ハ我当局目下ノ御交渉上障害トナルヤノ憂有之候ニ付本官ハ右發表ハ当局ヨリ何等御回示ニ接スル迄ハ之ヲ見合ス様同幹部代表者ニ諭示致置候間本信御接手ノ上ハ可成速カニ何分ノ儀御電示相成候様致度將又本件討議ヲ重ネツツアル前掲居留民會、商工会議所乃至当地本邦新聞記者団等ニ対シテハ今後共輕拳盲動ヲ戒メ大局ヲ過ラサシムル様周到ナル注意ヲ相加ヘ可申候

對「チタ」交渉ニ対スル在留民ノ態度及希望事項ニ関スル件

帝國政府ノ對「チタ」政權交渉開始ハ我撤兵問題ヲ解決スルモノニシテ内外ノ情勢上我軍隊ハ早晚当方面ヨリ撤退セラルルモノナラント推測シ來リタル当地在留民ハ直接蒙ルヘキ利害關係上輒近盛ニ新聞紙等ニ於テ論議ヲ試ミ当地在留民會及商工会議所幹部其他有力者等ハ熱心ニ本問題ヲ研究致居リ時ニ本官ノ意見ヲ問ヒ來ル者アルニ付本官ハ其態度彼等ニ対シ慎重ノ態度ヲ以テ応答シ居留民一般カ克ク我当局ノ措置ニ信賴シ苟モ動搖乃至我利の態度ニ出デ当局ニ迷惑ヲ懸クルノミナラズ大局上國策ヲ過マルカ如キコトナキ様内論ヲ加ヘ若シ居留民側ニ於テ何等時局ニ関シ当路ニ請願ノ事項モアラバ冷靜内密ニ之ヲ評議シ具體的ニ本官迄申出ヅヘキ旨内示シ置候処居留民會幹部ハ爾來内密ニ評議ヲ重ネタル上目下内々各部代表者ノ意見ヲ徴シ近々之ヲ總括シテ本官ニ願出ヅルコトナリ商工会議所亦略々同様ノ処置ヲ採リ居リ候処事実同所ノ頭腦部タル東方經濟調查會(三井、三菱、鈴木、日露實業、大阪商船、鮮銀、正金等各支店長ヲ主力トスルモノ)ハ本日別紙ノ通り『日露協商

得共尙此際特ニ本問題ニ関シ本官ノ居留民ニ対シ持スヘキ態度上心得ヘキ事項有之候ハバ詳細御回訓相仰度此段報告旁々及請訓候 敬具

写發送先 松島政務部長

(附屬書)

八月二十九日附東方經濟調查會作成ノ「日露協商ニ対スル希望条項」

日露協商ニ対スル希望条項

第一 相当長期ナル不動產上ノ權利

第二 勞働ノ自由

第三 極東ヲ自由貿易地帶トスルコト若クハ關稅制度ノ根本的改革

第四 森林伐採權

第五 鉱山採掘權

第六 漁業權

第七 沿岸及内水航行權

第八 小船舶及艇等ノ所有權

第九 牧畜及農地經營權

第十 商工業其他一般ニ營業自由ノ原則

第十一 渡航、移住及内地居住ノ自由

第十二 一般ニ国籍人種ノ別ニヨリ待遇ヲ異ニセザル原則

第十三 既得權又ハ既成事實ノ尊重

第十四 外国貨幣流通ノ公認

我等在浦塩居留民ハ露領ニ於ケル我が国民ノ經濟的發展ノ先驅者トシテ夙ニコノ朔北沍寒ノ異域ニ移リ住ミ偏狹ナル旧露西亜帝國ノ排他政策ノ下ニ長キハ三十余年短キモ尙概ネ十数年ヲ經生涯ノ心血ヲ注ギテ自家生活ノ根柢ヲ此処ニ築クト共ニ自ラ国力ノ進展ニ資スルヲ以テ念トナシ来リシモノナリ顧ミレバ大正七年夏我廟議西比利亞出征ノ議ヲ決シテヨリ以来西比利亞各政權ノ起伏興廢ト之ニ対スル國際政局ノ経緯並ニ母國ノ輿論及政府ノ軍事外交上ノ方針トハ轉變極マル処ヲ知ラズ交互因縁錯綜シ真ニ且ヲ以テタヲトシ難キモノ既ニ滿三年其間我等居留民又各々見ル処ヲ異ニシ俄ニ之ガ是非ヲ定ムルヲ知ラザリシモ只衆ノ等シク翹望シテ止マザリシモノハ露國政情ノ安定トソノ國民經濟ノ復旧並ニ貿易ノ再興ヲ見ルコト之ナリキ然ルニ頃日来内外諸

ニ表明セラレタル露國國民ノ意向ニ鑑ミルト共ニ國際關係ノ現状並ニ其慣例ヲ重シ極東ニ在住セル露國人ノ國家的自尊心ヲモ顧慮シタル上尙我等ガ多年業務上露國ノ官民ニ接シ其經濟事情ニ幾分通曉シ居ル經驗ヨリ見テ此際是非共先ヅ其着手トシテ解決シ置キタシト切望セル事項ノミヲ揚グ固ヨリ此等ハ日本人ノミノ享有スベキ特殊ナル權利トシテ要求スルニアラズ漁業權ノ如キ特別ノ沿革アルモノノ外我等ハ諸外國人ト均等ノ立場ニ立チテ其要望セル權利ヲ享有セントスルモノナリ又露國ガ我國ニ対スル何等カノ代償賠償又ハ保障ト云フガ如キ意味ヲ夫々權利ニ按配シテ要求セントスルモノニモ非ザルナリソハ恐ラクハ別ノ立場ヨリ考慮セラルベキ問題ナルベシ我等ハ只我等ノ立場ヨリ見テ要望シタシト思フモノノ中直チニ要望シ得ベシト信ズルモノヲ便宜十四ノ項目ニ分ケ逐次ニ列記スルノミ

第一 相当長期ナル不動產上ノ權利

極東露領ハ我が過剩ナル人口ガ移住ニ適スル未開地ノ中ノ随一ノ天与ノ候補地ニシテ列強モ亦此ノ正當ナル移住ノ大勢ヲ承認シツツアリト聞ク然ルニ從來ノ当方面在留者ハ稍モスレバ浮腰ニシテ一時ノ腰掛ニ来リ居ルヤノ觀ヲ免レ難

般ノ情勢ヲ顧ミルニ当方面駐屯軍ノ撤兵ガ早晚實現セラルルコト最早疑ナキカト覺エラルルニヨリ我等志ヲ同シクスルモノ幾度カ相集リ当地居留民ガ日露共存共榮ノ大義ニ基キ兩國國民ノ經濟生活ノ上ニ真個善隣ノ誼ヲ確立助長セシメシガ為此際是非共露國ノ責任アル政府ヲシテ承認セシメ置キタキ諸種ノ權利又ハ公然ノ慣行或ハ是非廃棄セシメタキ惡慣習ヲ取調ベ尙広ク在留邦人ノ間ニ意見ヲ求メタル上之ヲ左ノ如キ体裁ニ纏メタリ今之等ノ事項ヲ列記スルニ先ダチ一言其ノ總序トシテ我等要求ノ基ク所ヲ明カニセントス我等ハ旧露西亜帝國ノ西比利亞占領ノ沿革殊ニ極東露領侵略當時ノ史實並ニ其後ノ極端ナル偏武排他ノ政策ガ此ノ天与ノ富源ヲ何等世界ノ文化ニ寄与スルコトナカリシノミナラズ却テ東洋渦乱ノ源タリシコトヲ理由トスレバ渺クモ極東露領ハ之ヲ世界各國ニ対シ徹底的ニ開放セヨト要求シ得ベシト信ズ此レ實ニ過剩ナル人口ノ捌ケ口ニ苦シメル我國民ガ率先シテ稱ヘ得ベキ大義ノ論ナリ早晚ハ必ズ實現スベキ公明ニシテ些ノ恥ヅルトコロナキ理想ナリ國是ヲ改メタル露國ノ否ム能ハザル所ナリ乍然我等ハ今斯カル予言者のノ理想ニ付テ云為スルコトヲ姑ク措キ今春知多ノ國民議會

キモノ多ク滿鮮各地ノ邦人ニ比シ遠大ナル事業計畫乏シキモノアリシ幾多ノ理由アルベシト雖モ其ノ尤モ大ナル理由ハ實ハ極東露領ノ不動產法規ガ絶對ニ外國人ノ所有權ヲ認メザリシ事實ニ因由セズンバアラズ偶々種々ノ煩瑣ナル手續ノ後漸ク長期ノ借地權ヲ得ルコトアルモ所有名義ガ常ニ露國人ニ存スルガ故ニ之ニ基ク紛擾ト不便ト不安トハ遂ニ如何トモスベカラザルモノアリ要スルニ永代借地權ノ必要ト其ノ理由トハ露領ニアルモノニトリテハ殆ド自明ノコトトシテ恐ラクハ官民共ニ衆口ノ一致スルところ今更贅説ノ要ナク商業工業農牧業其ノ他一切ノ事業經營ノ基礎トシテ孰レノ權利ヨリモ一般的ニ要求セザルベカラザルハ實ニ此ノ權利ナリトス

露國民ノ立場ヨリ見ルモ此ノ權利ヲ外人ニ容認スルコトニヨリテ個人ハ金融ノ道ヲ開キ得ベク一般ニハ外資ヲ誘致シ着実ナル事業ヲ勃興セシメ極東露領富源ノ開發モココニ始メテ堅実ナル基礎ニ立チ得ベク自他共ニ利スルところ計ルベカラザルモノアリ

之ガ実行ノ理想トシテハ所有權享有ヲ承認セシメタシト雖モ露國ノ方ニテ都合惡シキ事情アラバ之ニ準ズベキ永代借

地權名義ヲ以テスルモ妙ナラン若シ又此レ亦不可能ナリトセバ下策トシテ五十年以上ノ長期賃借權ヲ認メシムルニ止ルモ亦致シ方ナシ但此ノ際ハ現行法上土地所有者ノ權利甚大ニシテ其ノ上ニ營業居住スル地上權者ノ權利輕視セラレ居ル傾アレバ特ニ此レヲ改メシムル様留意ヲ要ス尙執レノ場合ニ於テモ抵當權設定ノ自由ヲ認メ置ク必要アリ

第二 労働ノ自由

此ノ項ノ下ニ我等ノ要求セントスルトコロニアリ其ノ一ハ旧露国ノ排他的ナル移民制限並ニ此ニ基クゴンダツチ總督流ノ露国労働者保護ノ独占ノ規定ノ撤廃ナリ其ノ二ハ革命後ニ於ケル露国労働組合ノ専恣ヲ制限シ組合以外ノ労働者ノ労働ノ自由ヲ制限禁遏セシメザルコト此レナリ前者ハ極東門戸開放ノ大義ニ基キ当然要求シ得ベキトコロ如斯ニシテ日鮮支ノ労働者ハ此ノ未開富源ノ地ニ菌集シ在来ノ露国労働者ト共ニ各其ノ長トスル処ニヨリ其ノ生ヲ完フスルト共ニ富源ノ開發ヲ促進スベキナリ次ニ後者モ亦前者ノ解決ニヨリ幾分緩和セラルルヤニモ思ハレドモ若シ現在ノ如キ露国労働者組合ノ専恣ヲ放任シ置クトキハ條約上獲得セル労働自由ノ原則モ露国労働組合ノ压制ニヨリ全然其実ヲ

収メ難キ場合必然生ジ来リ種々ノ有利ナル事業モ労働者ノ専横ノ為メ之ヲ企画スルニ由ナキコト今日ト何等撰ブトロナキニ至ルベシ之レ却テ文化未ダ開ケズ産業勃興ノ緒ニアル当方面永遠ノ策ニアラズ故ニ我等ハ露国今次ノ革命ノ趣旨ヲ没却セザル程度ニ於テ労働組合ノ専恣ヲ制限スベキ労働法規ノ制定ニヨリ国籍人種ノ別ナク又事業家、労働者ノ別ナク共ニ等シク其ノ生ヲ營ミ事業ヲ起シ得ベキ條約上ノ根拠ノ確立セラレンコトヲ要求ス之レ実ニ単ニ商人又ハ企業家ノ立場ヨリシカ云フニアラズ今後恐ラクハ日ニ増シ渡来スベキ移住労働者ノ利益ヲ露国労働者ノ既得權の横暴ヨリ予メ保護セントスル微衷ニ出ツ

第三 極東ヲ自由貿易地帶トスルコト

若クハ関稅制度ノ根本的改革

旧帝政時代ニ於ケル露国ノ関稅政策ハ所謂保護關稅ナリシト雖モ革命以後ニ於ケル極東露領關稅ノ實際ヲ見レバ保護セラルベキ産業ハ夙ニ荒廢シテ影ヲ止メズ只其殘骸タル煩瑣ナル通關規則ト高率ノ稅率トハ戰爭以來ノ輸出入管理施設ト相俟チテ其ノ一切ノ製造工業品ヲ外国ニ仰グ露国人民ニ苛重ナル負担トナリ居ルニ過ギズ故ニ一日モ早ク之ヲ撤

廢シ曾テ極東露領ニ於テ行ハレタル如ク自由貿易政策ヲトルコトガ極東今日ノ産業發展ノ程度ニモ協ヒ消費者タル露人ニモ輸出國ノ商人ニモ共ニ至大ノ便宜ヲ供スベシ只關稅ノ撤廢ニ付キ考フベキモノニアリ其一ハ極東ノ關稅收入ガ歴代政權ノ收入ノ重要ナルモノトナリ將來トモ重要ナル財政關稅トシテ容易ニ全廢シ難キ事情アルコトナリ、其ノ二ハ單ニ輸出入商ノ立場ヨリ見ズ將來極東露領ニ製造工業ヲ營ムベク企画セル邦人企業家ニトリテハ自由港說又ハ關稅

ジテ其ノ前提ヲ現在ノ如キ不都合ナル關稅制度ノ存続ニ求ムベキモノニ非ザルナリ（輸出稅ハ既ニ廢止ノ氣運熟シ實行ノ機近シト聞ク故ニ特ニ說カズ）尙若シ前述ノ自由貿易ノ要望達セラレザル場合ニハ現行ノ煩雜ナル關稅制度ノ徹底的改革ヲナサシメザル可カラザルヤ論ナシ

第四 森林伐採權

所謂極東露領ノ利權ヲ以テ數ヘラルル大ナル事業ノ中比較的手輕ニ着手セラレ短期間ニ其ノ成績ヲ挙グルヲ得シカモ露国側ニ最モ異議尠カルベシト想像セラルルモノハ實ニ此ノ森林伐採權ナリ極東ノ森林ハ一ヶ年二千万本宛ヲ輪伐シ行クモ優ニ百五十年ヲ要スル程ノ富源ナリ露領内地ノ開發ヲ伴ヒ国力恢復ノ捷徑トナルベキモノ実ニ之ヲ第一トナスシカモ我國ニトリテハ建築、製紙及燐寸軸木原料材欠乏ノ問題ヲ解決シ得ル途ヲ開キ且ツ伐採ニ伴ヒ本邦人ノ内地移住ヲ促進シ得ルモノニシテ其利挙ゲテ數ヘ難シ斯ク好望ニシテ割合ニ安全ノ事實ナルヲ以テ今日既ニ之ガ經營ニ着手スルモノ尠シトセザルモ其ノ名義ヲ露人ニ借ルヲ要スル為メ無用ノ不便ト危險トヲ忍バザルベカラザルハ遺憾ナリ故ニ此ノ際は非共其ノ伐採權ヲ確保シ労働ノ自由沿岸及内水

ノ航行、永代借地等ノ諸權利ト相併セ尙特ニ露国政府ヲシテ責任アル内地居住者ノ生命財産ヲ安全ニ確保セシムルニ足ル警察秩序ノ確立ニ努メシメ法規上並ニ實際上此ノ有望ナル事業ガ露人ト外国人トヲ共ニ均シク幸スル日ノ一日モ早く来ランコトヲ切望シテ止マザルモノナリ

第五 鉅山採掘權

此ノ權利ヲ外国人ニ認メシムルコトノ必要ナル理由モ略前項ノ場合ト同様ナレバ特ニ贅セズ只帝政時代ニ於ケル露国ノ鉅業法ハ煩雜ニシテ無用ノ制限多ク国内ノ資本ヲ吸收スル上ニ支障アリタリト聞ク今後ノ極東露領鉅業ノ盛ヲ期セントセバ先ヅ第一ニ之ガ採掘權ヲ露人同様ニ外人ニ認ムルト共ニ斯クノ如キ無用制限ヲ全廃シテ可成簡明ナル鉅業法ニヨリ外資ノ輸入ニ努ムルコト緊切ナリト信ズ即チ反面ヨリ云ヘバ国内法上ノ無用ノ制限ヲ撤廃セシムルニ非ザレバ此ノ權利ハ稍モスレバ空文ニ陥リ易キヲ覺エシム

第六 漁業權

漁業權ハ「ポーツマス」條約ノ結果既ニ我國ノ特殊ノ權利トシテ獲得スル所ナレドモ尙多クノ制限ヲ受ケ其ノ漁場地域從業労働者又ハ漁区ノ期限等ニ付テ露人漁業家ト格段ノ

相違アリ然ルニ露人ハ其性漁撈ニ適セズ天与ノ漁場ガ可惜放棄シテ省ミラレザルモノ數フルニ違アラズ故ニ此際是非既得ノ條約上ノ權利ヲ擴張シテ一時的ノモノヲ永久のニシ地域ニ付テモ黑竜江ヨリ尼港マデ四十露里間ノ好漁区ノ如キ是非ニ編入セシメタシ更ニ出来得ベクンバ内水一般ノ漁撈ニ及ボシ以テ露国ノ地方財政ヲ豊カニスルト共ニ我ニアリテハ通商航海移住ノ氣運ヲ津々浦々ニモ及ボスベキ機縁ヲ玆ニ据エ置カント欲スルモノナリ

第七 沿岸及内水ノ航行權

露国現在ノ産業荒廢ノ因由ハ一ニシテ足ラズ數フルノ煩ニ堪ヘザルモ翻テ今之ガ復興ヲ策スルニ當リ焦眉ノ急トスル所ノ一ガ交通機關ノ整備ニアリトスルハ恐ラク衆口ノ一致スルトコロナルベシ然ラバ今諸外國刺スルトコロノ船舶ヲ率ヒ来リテ極東露領ノ沿岸並黑竜江烏蘇里江等ヲ航行セシメ先ヅ物々交換貿易ヨリ着手シテ所在住民ノ生活狀態ヲ改善シ産業ノ復興ヲ庶幾スルハ寔ニ一挙ニシテ數得ナルモノナリ露国政府十數年前自国船保護ノ目的ヲ以テ極東沿岸ニ外國船舶ノ航行ヲ禁止シ義勇艦隊又ハ「グラフ、ケーゼルリンク」等ノ汽船ニ命令補助航路ヲ經營セシメ来リシモ其

現状ハ經營極メテ困難ニシテ殆ド休航同様トナリ為ニ沿岸ノ住民ニ不便苦痛ヲ与フルコト甚シク邦人ニシテ沿岸各地ニ森林漁業關係ノ投資ヲナス者ニ困惑セシムルコト多ク故ニ之レガ実行ハ寔ニ一日モ早カラシムコトヲ欲ス

次ニ河川ニ関シテハ哈爾武市方面ノミナラズ尤モ重要ナル哈爾濱ニモ溯江シ得ベキ松花江航行ノ問題ヲモ眼界ニ置キ永遠ノ策ヲ画シタシ單ニ黑竜江ニノミ就テ云ヘバ現在既ニ「マゴ」マデノ溯航ハ認メラレ居レリ之ヲ延長スルコト必ズシモ不可能ナラザルベシ

第八 小船舶及舢舨等ノ所有權

大船舶ノ所有權ハ前項ノ權利認メラルトセバ必ズシモ必要ナラズ(若シ認メラレザル場合ハ本項ヲ大船舶ニモ及ボシテ其不利ヲ補ハザルベカラズ)ト雖モ港灣内ニ於テ船舶業者ガ極メテ近距離ノ船客又ハ貨物輸送ニ充ツルニ用キル舢舨小蒸汽等ノ所有權ニ至ルマデ例ノ如ク旧帝政時代ノ排他的政策ノ結果外国人ニ認メ居ラズ乍然此ノ制限モ之ヲ其儘実行スルトキハ事實露人今日ノ經濟交通ヲ支持シ難キヲ以テ最近ハ實際外人殊ニ日本人所有ノモノヲ單ニ露人名義ノ下ニ使用シ居ル実例極メテ多シ故ニ此ノ權利モ既ニ露人

ノ事實上承認セル所ヲ將來ノ為メニ特ニ協約ニ明カニセシムルモノナレバ交渉必ズシモ困難ナルコトナシト信ズ要スルニ名実相伴ハザル現行法規ヲ改正セシムルトコロ永代借地權ニ付テ述ベタルト趣相同ジ

第九 牧畜及農地經營權

前述ノ各項目ニ述ベタル中ニ自ラ本項ノ必要ナル所以モ亦明カナルモ要スルニ永代借地、内地居住ノ諸權利ト相伴ヒ旧帝政時代以來如何ニ奨励スルモ少數且ツ懶惰ナル露国移民ノ力ヲ以テシテハ朱鋤未ダ普ネカラズ性急ナル觀察者ヲシテ極東三州ノ瘠薄ヲ叫バシメタル地域ニ於テ麻小麦大豆等ヲ栽培シ或ハ又水田ヲ經營シ期年ナラズシテ北滿ニ雁行スベキ新天地ヲ創設シ普遍且ツ徹底的ニ黃色人種永住ノ地盤ヲ築キ得ル第一歩トシテ此權利ノ貴重ナルコト後日恐ラクハ何人ノ意料ノ上ニモ出ヅヘキカ

第十 商工業其他一般ニ營業自由ノ原則

斯ル自明ノ原則ヲ玆ニ掲グルハ労働ノ自由ニ付テ述ベタル理由ト略相等シク露国特有ノ事情ニ基ク即チ其一ハ旧帝政時代ニ制定セラレ今ナホ適用セラレ居ル排他的独占の殖民地的辺境防備のニシテ加フルニ人種差別的ナル極東總督一

流ノ外国人營業制限ノ規定ヲ一掃セシムル原則ヲ認メシムルコト之ナリ其ニハ今後必然ニ起ルコトアルベキ共產經濟組織ヲ肚裡ニ藏スル個人企業圧迫ニ対シ確固タル前哨線ヲ設ケ所謂知多共和国憲法ノ明約スルトコロヲ勵行セシムル保障ヲ得ントスルモノナリ最近數年來露国官憲ノ出鱈目ニ泣キタル我等露領在留民ハ武力の後援ヲ失フ今後ヲ思ヒテ殊更此原則ノ承認ニ囑望セザルヲ得ズ課税上ニ手心ヲ加ヘ外国人ヲ圧迫スル場合ニ備フベキ方策又ハ醫師開業ノ自由ノ如キモ亦此原則ノ裡ニ含マルベキモノナルベシ

第十一 渡航移住及内地居住ノ自由

特ニ説明スル迄モナク諸外国人ガ機會均等ノ原則ニヨリ露人ト協力シテ極東ノ經濟振興ニ参与スル必要ナル理由ヨリノ当然要求セラルベキモノナリ(只此レト同時ニ我が政府モ出来得可クンバ支那渡航ト同様旅券制度ヲ廃止スルヲ要ス尠クモ旅券下附ノ手續ヲ極メテ簡單トスルコト絶対ニ必要ナリ)

第十二 一般ニ国籍人種ノ別ニヨリ待遇ヲ異ニセザル

原則

本項亦既ニ述ベ来リタルニヨリテ明示シ置ク必要アルコト

ル人民ハ其ノ代用ヲ外国ニ求め我金円、米金ノ弗券、支那人ノ大洋銀等相並ビテ極東各地ノ市場ニ流通スルニ至レリ然ルニ其時々ノ地方政權ハ自己ノ發行スル無準備無保証ノ不換紙幣ヲ強制センガ為此ノ自然ノ必要ニ背キ外国貨幣流通ノ禁遏ヲ企テタルコト一再ニアラズシカモ遂ニ寸効アルナク徒ニ市場一時ノ混乱ヲ招ケルノミ故ニ我等ハ今後共仮令或ル程度ノ幣制改革ガ着手実行セラル場合ト雖モ人爲的ニ外国貨幣ノ自然ナル流通ヲ禁絶セントスル如キ制限取締ヲ行ハザルノ保障ヲ茲ニ得置カントス(本項ハ前項ノ既成事実ノ承認中ニ含マルベキ実例ノ一ナリシカモ事甚ダ重要ナルヲ以テ特ニ独立ノ一項トセリ)

以上十四項ノ要求ヲ露国ノ政權ニ提出セラルコトヲ希望スルト共ニ尙此ト不可離ノ關係ヲ有スル一事ヲ我政府ニ希ハザルヲ得ズ其ハ他ニ非ズ新ニ交渉ヲ締結スベキ露国政權ニ對スル借款コレナリ

我カ軍ガ欧州大戰参加ノ結果遂ニ西比利亞ニ出兵セル以來其声明スル処ト執リタル態度ト幾多變転アリ固ヨリ此等ハ皆相当因由スル処アリタルベシト雖モ暫ク眼ヲ我等居留民ノ立場ニノミ限レバ我が西比利亞出兵ハ露人自身ハ勿論世

ハ營業ノ自由ヲ認メシメントスル理由ト相同ジ即チ個々ノ權利ニ含マレザル諸般ノ實際問題モ營業自由又ハ本項ノ原則ヲ明カニ認メシメ置クトキハ露人ニ比シ特ニ不利ナル立場ニ置カルルコト無カルベシ又支那人朝鮮人モ此原則ノ保護ヲ受クルコトニヨリテ我等ト協力一致スル機縁ヲ作ルコトナルベク殊ニ内地人ガ今後露国ニ帰化セル鮮人ノ特殊ナル地位ヲ利用スル必要起リタル場合其必要多シト考ヘラル

第十三 既得權又ハ既成ノ事實ノ尊重

革命變亂秩序紊亂法規不備ノ裡ニアリテ我等居留民ハ其ノ實際ノ必要ニ迫ラレ地方政府トノ契約又ハ露人トノ私法上ノ契約ニ基キ事實上獲得シタル大小幾多ノ權利枚挙ニ遑アラズ固ヨリ此等ノ中ニハ稀ニ契約ノ内容不法ニシテ速ニ廢止スルヲ要スルモノ無キニ非ザルベキモ其ノ多クハ實際ノ必要ニ基キタル既得ノ權利トシテ今後ノ如何ナル政府モ之ヲ尊重スベキコトヲ要求スルモノナリ

第十四 外国貨幣ノ流通ノ公認

革命以後逐日露国ノ不換紙幣ノ声價地ニ墜チ遂ニ貨幣本来ノ職能ヲ全ウシ能ハザルニ至ルヤ貨幣一日モ無カル可カラザ

界ノ列強ヨリ稍モスレバ領土侵略或ハ単ニ利權獲得ニ之レ急ナリト認メラレアルハ遺憾ナラズトセズ故ヲ以テ吾人ハ茲ニ此等ノ要求ヲ露国ノ相当ナル政權ニ交渉確保セントスル場合ニモ既ニ幾度カ説述セル如ク飽迄公明ニシテ堂々タル態度ヲ採ルコトヲ要シ且此等要求ノ真精神ガ露人及諸外国人ノ等シク相協力シテ極東ノ富源ヲ開發セントスル一事ニアルコトニ鑑ミ我が中央政府ハ今後露国政府ノ提供スル富源ヲ担保トシテ秩序復舊産業振興ノ為ニスル財政的又ハ經濟的ノ借款ニ応ゼンコトヲ切望スルモノナリ

露国ノ復興ニ對スル此具體的同情ノ表明ナクシテ率然トシテ此等要求ヲナスコトハ其成效ヲ困難ナラシムルモノナルベク又此ノ投資ナクシテ富源ノ開發ヲ現実ニスルハ勞多クシテ効ナルコト遅々タルコト特ニ言フ要セズシテ明ナリ

附記

此外尙露国政府ニ對シ在留外国人ノ生命財産ノ安固ヲ脅ス如キ不秩序ヲ除去シ完全ナル警察上ノ秩序ヲ保タシメ万一ノ場合アルモ之ヲ賠償スベキ責任ヲ明カニスルコトヲ要求スルモノ又ハ個人所有權ヲ確認シ今後如何ナル形ニ於テモ共產制度ノ施行ヲナサシメザル保証ヲトリ置ク

コト或ハ過去ノ変乱ニ基ク帝国及帝国民ノ諸種損害殊ニ不法ナル徵発令滞貨処分等ノ賠償ノ要求又ハ露国政府ヲシテ速ニ外資ニヨリテ鉄道其他ノ交通機關ヲ整備セシメント要求スルノ声アリ又日本政府ニ対シテモ撤兵後ニ於ケル居留民保護ノ必要又ハ政府ノ在留民今後ノ事業ニ対スル金融上ノ後援又ハ過去ノ損害ニ対スル救済ノ請願ヲナサントスル声アリ此等ハ皆夫レノニ理由アル要求ナリト信ズルモ今此ヲ前述ノ要求希望ト一括スルコトハ却テ趣旨ノ混淆ヲ来タシ不便多シト信ズルヲ以テ此所ニハ單ニ冒頭ニ於テ述ベタル如キ意味ニテ此際露国政府ヲシテ承認セシメタキ權利又ハ慣行ノミヲ列記スルニ止メタリ

八七七 九月二日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長（大連出張中）宛（電報）

ゴンゴダ協定ノ性質及チタ政府トノ大連交渉
ノ性格ニ関シ訓示ノ件

第八号

貴電合第三号ニ依レハ所謂緩衝国ノ範圍ニ関シ「ゴンゴダ」協定ヲ援用セラレ居ル処同協定ハ後貝加爾州撤兵ニ際

シ停戦ヲ主タル目的トシ彼我軍憲間ニ取結ビタル一時的ノ取極ニシテ極東共和国ノ資格又ハ境界ニ関スル兩政府間ノ取極ト認ムル能ハズ本件ハ勘察加等ノ極東共和国領内へ復旧希望ノ伏線トシテ述ヘラレタルモノト思ハルル処右ノ為メナラバ本協定乃至附屬覚書ニ深入リスルコトハ避ケラレタシ寧ロ「ユーリン」ニ於テ極東共和国ヲ独立国ト称シテラ管テ天下ニ宣明セル領域ノ變更ヲ以テ「行政区域ノ變更ハ主權ノ發動ニシテ自由ナリ」等ト輕々ニ論シ居ル不条理ト不誠意トヲ指摘シテ注意ヲ喚起スル方可然
尙ホ今次交渉ハ齊多政府現在ノ狀態其他諸般ノ關係ニ顧ミ正式ニ之ヲ行フニ非ザル次第ハ貴官御承知ノ閣議決定方針ニ照ラシ明カナリ

八七八 九月三日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第五回會議ニ於テペトロフト今次交渉ノ目的及交渉進行方法等ニ付會談ノ件

合第六号

（九月四日接受）

九月三日第五回會議開催出席者日本側從前ノ通齊多側「ユーリン」「ペトロフ」「コゼウニコフ」「アノーヒン」及書記官二名「ユーリン」ハ「ペ」以下ヲ紹介シタル後日本側代表者ト政治經濟等ニ関シ交渉ノ全權ヲ有スル「ペトロフ」一行着連シ自分ハ外務大臣トシテ外務省ノ省務ヲ見ルノ必要アルニ付交渉事務ヲ「ペトロフ」ニ引継ギ齊多ニ赴クベシト云ヘルニ付本官ハ之ヲ諒トシ既ニ「ユ」トノ間ニ種々意見ノ交渉ヲ終ヘタルコトナレバ直ニ談判ニ移ルコトトシ具体案ノ提議ヲ望ムト述ベタルニ「ペ」曰ク主義トシテ日本政府ハ極東共和国トノ親善關係通商開始ヲ希望セラルルモノナリヤ先ヅ此ノ点ヲ明確ニシ置キタシ松島曰ク右ハ目的ナリ此ノ目的ヲ達スル為ニ本會議ヲ開クニ至リタルモノナルニ付速ニ具体案ノ提議ヲ希望ス「ペトロフ」曰ク日本政府ハ極東共和国ノ法律上ノ關係（説明ヲ求メタル結果國際法上ノ地位ノ意味ニ解セラレタルモ「ペ」ノ云フ所ハ兎角曖昧ニシテ要領ヲ得ズ法律的知識ナキニ起因スルモノナルベシ）ヲ如何ニ見ラルルヤ本官曰ク日本ガ齊多政府ト交渉開始ニ決シタルハ同政府ガ極東露領ニ存スル政權中基

礎鞏固ナルモノト認メタルガ為ニシテ通商問題等ニ関シ協定成立スルニ至ラバ國際法ハ或程度マデ兩國關係ニ適用セラルベシ彼曰ク日本ハ本交渉ニ関シ何等提議セラレザルヤ我曰ク齊多政府ハ是マデ幾度カ親善關係ノ樹立及通商開始ノ希望ヲ日本政府ニ致シタルヲ以テ日本政府ハ之ニ応ジ先ヅ齊多政府ノ提議ヲ基礎トシテ協議ヲナサムトスルモノナリ之レ余ガ曩ニ具体案ノ提出ヲ促シタル所以ナリ「ペトロフ」曰ク具体案ノ作成ニ際シ日本ノ希望ヲ知ラ得バ右作成容易ナリト思考スト松島曰ク具体案作成上ノ便宜ニ供スル意味ニ於テ日本政府ノ希望ヲ述ブレバ

一、非共產主義ノ実行
二、交通居住營業等ノ自由
三、政治的問題ナルガ過激主義ノ宣伝ヲナサザルコト
四、門戶開放機會均等ノ主義
等ニシテ其他詳細ノ点ハ具体案審議ノ際ニ譲ルベシ彼曰ク第一及第三ハ共和國憲法ノ保障スル所ニシテ其ノ他ノ点ニ付キテモ日本ノ希望ヲ満足セシメ得ベシ（通商貿易ノ自由ガ保障セラレ居ルニ拘ラズ之ニ反スル事実アルコトヲ指摘シタルニ「ペトロフ」ハ各種物資ニ対シ「モノポリー」ヲ

実行シ居ルコトヲ引用シテ弁解ニ努メタルガ結局「モノボリー」ノ濫用ハ通商貿易ノ發展ヲ妨グルモノナリトノ本官ノ説ニ同意シタリ)

最後ニ「ペ」ハ政治の問題ヲ議シ次ニ通商問題ヲ議セムト述ベタルニ付本官ハ政治の問題ト通商問題ノ根本主義トヲ同時ニ協定シ関稅其他詳細ノ事項ハ更メテ専門委員會ノ議ニ附スルコトト致シタシト答ヘタルニ彼ハ具体案ノ討議ニ入ルニ先立チ尙政治の問題ニ関シ意見ヲ交換シタシト繰リ返シタルニ付本官ハ已ムヲ得ズ之ニ同意シ本日ノ会ヲ閉ヂタリ

八七九 九月四日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第六回會議ニ於テペトロフヨリ兩國親善關係樹立並日本及勞農露國間關係等ニ付協議ヲ提案ノ件

合第七号 (九月五日接受)

第六回會議(四日)ニ於テ「ペトロフ」ハ一、兩國間親善關係ノ樹立ニ、兩國關係ハ相互的ニシテ平等ナルヘキコト三、門戶開放主義四、日本ト勞農露國トノ關係五、通商間

題ノ順序ニテ話ヲ進メタシト前提シ第一ニ関シテハ兩國政府ノ意向ノ存スル所ヲ兩國國民ハ勿論世界ニ知ラシムル為宣言書ヲ發スルノ必要アルコトヲ極力主張シ本官ハ前掲第一乃至第四ハ今日迄ノ會談ニテ概ネ釈明セラレタル筈ナリ親善關係樹立ノ目的ヲ以テ會議シツツアルハ勿論第一乃至第三ハ協約ノ内容トナリテ現ハルヘキモノニ付今更スル無用ノ手数ニ時間ト勞力トヲ費スコトナク直ニ第五ニ移リタシト述ヘ議論尽キサルモノト認メタルニ付本問題ノ打切ヲ提議シタルカ「ペ」ハ同僚トモ相談ノ上明日更ニ何分ノ儀申出ツヘシト云ヘリ按スルニ先方カ本件ニ重キヲ置クハ之ヲ以テ齊多政府ノ權威ヲ増スノ材料ト為サントスルニアリト察セラル

次ニ「ペ」ハ第四ノ問題ニ関シ「ユーリソ」ト同様ノ質問ヲ為シ且日本ハ勞農政府ト交渉ニ入ルノ考ナキヤト問ヒタルニ付本官ハ「ユ」ニ対スルト同様ノ返答ヲ為シタル上本官ハ勞農政府ト交渉ニ入ルコトハ近キ將來ニ於テ實現セラレサル様思考スルニ付本會議ニ於テ勞農政府ニモ關係アル問題ヲ議スルノ必要生シタルトキハ極東共和国代表者ヲ介シテ又ハ勞農政府ノ委任ヲ受ケタル極東共和国代表者ト協

議スルコト便宜ト思考スト答ヘタル処「ペ」ハ更ニ本會議ニ勞農政府代表者ヲ参加セシムルコト如何ト問ヘルニ付本官ハ日本ト極東共和国トノ關係ヲ定ムル目的トスル會議ニ勞農代表ヲ加フルトキハ會議ノ議題ヲ増加セシメ會議ノ目的達成ノ障礙トナルヘキニ付之ヲ欲セス唯特殊ノ問題例ヘハ漁業問題ニ関シ日本極東共和国及勞農露國三者間ニ會議スルノ必要起ラハ是カ為特別委員會ヲ設クルヲ可トスヘシト述ヘ置タリ

(昨日及本日ノ會議ニ関シ新聞紙ニハ「ユ」ト「ペ」トノ交代及交渉ノ手続順序ニ関シ意見ヲ交換シタルコトヲ發表スルコトニ打合セタリ)

八八〇 九月五日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ペトロフガ日本国及極東共和国間親善關係樹立ノ宣言主張ノ場合ニ対スル措置ニ付請訓ノ件

合第八号 (九月五日接受)

都合ニ依リ五日ノ會議ヲ休止シ度キ旨齊多代表者ヨリ申込ミ來レリ右ハ兩國政府ハ兩國間親善關係樹立ニ努力スヘシ

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八八〇 八八一

トノ意味ノ宣言書ノ件ニ関シ齊多政府ノ指令ヲ仰ク為ナルヤモ知レザル処齊多代表カ本件ニ重キヲ置クハ之ニ依リテ齊多政府ヲ帝國政府ト對等ノ地位ニ置キ且將來ノ交渉ニ際シ之ヲ利用セムトノ底意アルモノト思考セラルルニ付本官ハ依然其ノ不必要説ヲ固持スル積ナルモ若シ万一之カ為交渉斷絶ノ形勢ト成ルカ如キコトアラバ先方ノ希望ニ応シ差支無キヤ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

八八一 九月六日 内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

日本国及極東共和国間親善關係樹立ノ宣言提議並交渉ノ進行方ニ関シ回訓ノ件

第九号

貴電合第八号ニ関シ先方提議ハ御推測ノ如キ魂膽アルベキノミナラス未ダ交渉ノ將來逆睹シ難キ今日此ノ種宣言ヲ為スハ面白カラザルニ付先方ノ提議ハ拒絕セラルベシ又貴電合第六号ニ依レバ日本政府ノ希望事項ニ付先方ヨリ質問アリタル趣ノ処我方針ハ御承知ノ通り一先ツ「コゼウニコフ」「ソーモフ」ノ提案ヲ基礎トシテ交渉ヲ進メントスルモノナルニ付貴官ハ右ノ趣旨ニ依リ可成速ニ具體的交渉ニ入

ル様努メラレタシ

八八二 九月六日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第七回會議ニ於テペトロフ協約案ヲ
提出ノ件

合第九号 （九月六日接受）

六日第七回會議ニ於テ先方ハ往電合第八号宣言書ニ関スル主張ヲ固執セズ協約案ノ提議ヲ為シタリ一読ノ後本官ハ極東共和国ガ未ダ列国ノ承認ヲ得ザル事實ニ鑑ミ書振ニ変更ヲ加フル必要アル個所アル旨並ニ削除若クハ追加スヘキ事項モアルベキニ付篤ト講究ノ上当方ノ対案ヲ出スヘシト述ベタルニ「ペトロフ」ハ協約ハ相互平等主義ニ則ルニ非ザレバ兩國親善關係樹立ノ目的ヲ達スルヲ得ザルニ付屈辱の条項ノ挿入ハ之ヲ避ケラレタシト云ヘリ先方提案並之ニ対スル本官等ノ意見ハ別ニ電報ス

尙「ペトロフ」ハ「イマン」方面ノ「バルチザン」ノ行動ニ関シ齊多政府ハ地方官憲ニ対シ彼等ノ日本軍ニ対スル敵対行動ヲ阻止スルノ措置ヲ講ズベキ訓令ヲ為シタル旨ヲ述べ日本軍憲ニ於テモ極東共和国ニ反抗スル分子ニ援助ヲ与

極東共和国政府ハ……………

右全權ハ相互ニ其ノ全權委任狀ヲ通知シ其ノ妥當ニシテ合法的ニ作成セラレタルモノナルコトヲ認メ左記条項ヲ決議締結セリ

第一条 極東共和国政府及日本帝國政府間並極東ニ於ケル日露兩國民間ニハ場所及人ニ付キ何等例外ナク常ニ平和及親善存在スヘキモノトス

第二条 日本並極東共和国政府ハ其ノ領域ニ於ケル各自國民ノ主權ヲ承認スル主義ヨリシテ相手国ノ内政ニ干渉セサルコトヲ協定ス

兩國政府ハ其ノ領域ニ於テ政府ノ地位ヲ僭稱スル各種ノ団体及機關並締約国一方ノ政府顛覆ヲ目的トスル団体ノ存在及行動ヲ容ササル義務ヲ負フモノトス

第三条 極東共和国及日本人ハ締約国一方ノ領域ノ如何ナル場所タルヲ問ハス商業職業及労働ノ目的ノ為又ハ個人ノ必要上自由ナル到着旅行若クハ居住ノ權利ヲ有ス但シ其ノ国ノ法律ヲ遵奉スルヲ要ス

第四条 極東共和国ニ居留スル日本人並日本領土ニ居住スル極東共和国人民ノ生命ノ安全及財産ノ不可侵ハ常ニ其

ヘラレザル様希望スト附言シタルニ付本官ハ日本軍ハ攻撃ヲ受ケザル限り何等積極的行動ニ出ヅルコトナク又厳正中立ヲ守リ居ルニ付如何ナル団体ニモ援助ヲ与フルモノニ非ズト答ヘ置キタリ

（新聞發表事項、本日ノ會議ニ於テ齊多側ハ協約案ヲ提出セリ）

八八三 九月六日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

大連會議ニ於テペトロフ提議ノ協約案報告ノ
件

合第一〇号 （九月七日接受）

齊多側提案左ノ通

極東共和国政府及日本帝國政府ハ日露兩國民間ノ親善且隣關係ノ發達及鞏固並經濟關係ノ確立及發展ヲ相互ニ希望シ相互對等公平及相互利益ヲ主義トシ且兩國ノ全領域ニ於ケル主權ノ完全ナル相互承認ノ基礎ノ下ニ平和親善通商ニ関スル協定ヲ締結スルニ決シ此ノ目的ヲ以テ下記全權ヲ任命セリ

日本皇帝陛下ハ……………

ノ国法ノ庇護及保護ノ下ニアルヘキモノトス

第五条 極東共和国全領土内ニ於ケル日本人並日本全領土内ニ於ケル極東共和国人民ハ支障ナク其ノ職業ニ從事シ又自由ニ売買ヲ許可セラレタル總テノ物品ヲ交易スル權利ヲ有ス

第六条 何等カノ目的ヲ以テ極東共和国ニ赴ク日本臣民並日本領域ニ赴ク極東共和国人民ハ其ノ国籍ヲ証明シ規定ノ官憲ニ依リ交付セラレタル外国旅券ヲ所持セサルヘカラス日本臣民カ極東共和国ニ赴キ又ハ帰国スルニ当リテハ旅券ニ領事ノ査証ナカルヘカラス

第七条 極東共和国人民カ日本領域ニ居住スル間並日本國民カ極東共和国内ニ居住スル間各自宗教及政治的意見ヲ自由抱持スルノ權利ヲ有ス

第八条 兩締約国ノ一方ハ他方ノ領域ニ於テ其ノ人民及商業上ノ利益ノ為有益ト認ムル場所ニ於テ其ノ領事館、総領事、副領事、代弁領事ヲ置ク權利ヲ有ス尙兩締約国間ニ特別協定ヲ定ムル迄領事官職務ハ國際關係並國際慣例上採用セラレタル方式ニ依ルモノトス

第九条 兩締約国人民ハ刑事民事事件ニ付テハ關係事件ノ

發生シタル領土所屬國ノ裁判ニ附セラルヘキモノトス

第十条 兩締約國政府ハ相互ニ自国内ニ居住スル他ノ締約國人民ノ生命不可侵ラ定ム

兩締約國人民ニシテ他ノ一方ノ領土内ニ居住スル間ハ当該司法機關ノ令状ニ依リ且犯罪行為ニ依リ告発セラルル場合ニ限り捕縛セラルルモノトス

捕縛ノ際ハ二十四時間中ニ最寄領事館ニ通告スヘキモノトス

第十一条 兩締約國ハ締約國一方ノ領土内ニ於テ犯セル一定犯罪ノ為ニ訴追セラレ若ハ有罪ノ宣告ヲ受ケ他方ノ領域ニ逃亡スル者ノ引渡ニ関スル特別協定審議ノ為最近本協約署名ノ日ヨリ二個月以内ニ於テ兩國代表者會議ヲ開催スヘキ義務ヲ負フ

第十二条 兩締約國領域間ニ通商航海ノ相互自由存在セサルヘカラス

第十三条 日本領土内ニ在ル極東共和国人民並極東共和国領土内ニ在ル日本臣民ハ其ノ行為ノ性質ニ応シ國家、州及自治団ノ各種義務及租税ヲ負担セサルヘカラス

兩締約國人民ハ現時土着人民カ支払ヒ若ハ将来支払フヘキ

リ定ム但シ本協約署名ノ日ヨリ三個月以内トス

第十八条 兩締約國ハ日本及極東共和国間ニ速ニ郵便電信關係ヲ開キ之ニ対スル規定ヲ定ムル為本協約署名後速ニ兩國政府代表者ノ委員會ヲ召集スルコトヲ協定セリ

日本ヨリ勞農露國ニ向ヒ若ハ後者ヨリ前者ニ向フ通信転送ニ関スル問題確定ノ目的ニ於テ前記委員會ニ勞農露國政府代表者ノ参加ヲ求ムルモノトス

第十九条 日本及極東共和国政府ハ本協約署名後本協約所掲ノ主義ニ基キ通商條約ノ速ナル共同審議ニ着手スヘシ

第二十条 日本及極東共和国政府ハ速ニ漁業協約改訂ニ着手セントス而シテ該協約ハ日本政府及露西亞帝國間ニ締結セラレシモノニシテ且勞農露國ノ利害關係ヲ有スルモノナルヲ以テ兩締約國政府ハ将来ノ會議ニ勞農露國代表者ノ参加ヲ必要ト認ムルモノナリ

第二十一条 極東共和国政府ハ門戸開放主義ヲ認メ兩締約國ノ為有利ナルヘキコトヲ原則トシ法令ニ依リ日本起業家ニ「コンセンション」ノ提供上十分ナル援助ヲ与フヘシ

第二十二条 日本帝國政府ハ速ニ極東共和国領域ヨリ自國軍隊ノ撤退ニ着手シ撤兵完了ノ為事實上必要ナル期間内ニ

モノ以外ニ若ハ多額ノ租税支払ヲ強制セラレサルヘキモノトス

第十四条 兩締約國政府ハ相互ニ好都合ナル関税率制定ノ目的ヲ以テ税率及税関規則適用ニ関スル一般規程制定ノ為協定委員會ヲ速ニ設立スルコトニ協議セリ同委員會ノ決議ハ兩政府ノ承認後本協約追加條項トシテ効力ヲ有スヘキモノトス

第十五条 兩締約國政府ノ領土内ニ於テ多數ノ自國民集合セルトキハ是等ノ人民ハ地方法令ニ遵ヒ商業会社ヲ設置シ同邦人ノ為取引所、商業會議所、職業其他ノ組合、俱樂部及學校ヲ設立スルコトヲ得

第十六条 兩締約國政府ハ相手方ノ商船ニ対シ相互ニ自國ノ有ラユル開港場ニ自由寄港ノ權利ヲ附与スヘキモノトス日本港湾ニ於ケル極東共和国ノ総テノ船舶及極東共和国港湾ニ於ケル日本ノ総テノ船舶並載貨船舶財産ハ如何ナル條件及事情ノ下ニモ抑留或ハ差押ヘラルルコトナシ

第十七条 兩締約國政府ハ兩締約國海港間ノ船舶ノ航行ヲ規律スヘキ方法ヲ詳細審議センカ為兩締約國代表者ノ特別委員會召集ヲ議決セリ右召集期日ハ兩政府ノ相互協定ニ依

於テ之ヲ終了ス但シ本協約締結ノ日ヨリ一個月以内トス

第二十三条 日本及極東共和国政府ハ日本軍ノ撤退ニ援助ヲ供与シ極東共和国所屬ノ財産ヲ保存シ合法的官憲ニ完全ニ交付スヘキ義務ヲ有スル全權委員ノ任命ヲ協約ス

第二十四条 兩締約國政府ハ順当ナル外交關係ヲ速ニ樹立スル為措置ヲ執ルヘシ正式外交代表機關設置ノ交渉ハ兩國政府ニ於テ三個月以内ニ之ヲ終了スヘキモノトス

第二十五条 本協約ノ條項ハ批准交換ノ日ヨリ十個年間存続スルモノトス而シテ若シ本協約期間満了六個月前ニ兩締約國ノ一方ヨリ何等變更若ハ追加ノ希望ヲ表明セサルニ於テハ本協約ハ引續キ更ニ十個年間有効トス

第二十六条 兩締約國ノ一方ハ親善國家ノ表象トシテ他ノ一方ノ国旗及徽章ヲ認メ且尊重スヘシ国旗及徽章ノ模様若ハ其ノ變更ハ相互外交手續ニ依リ相互ニ通告セラルルモノトス

第二十七条 本協約ニ基キ召集セラルル諸委員會ノ決議ハ兩國政府承認後本協約ノ追加條項トシテ効力ヲ有スヘシ

第二十八条 本協約事項中追加若ハ擴張ヲ要スル總テノ問題ニ関シ兩締約國ハ相互協定ノ上本條項ニ対シ追加條項ヲ

締結スルコトヲ得ルモノトス

第二十九条 本協約ハ各自ノ憲法ニ基キ兩締約国ニヨリ批准セラルヘキモノトス而シテ批准ハ可成短期間ニ遅クトモ本日ヨリ一個月以内ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ

右証拠トシテ下記署名者ハ相互ノ全権ニ基キ露文ヲ以テ二通作成シタル本協約ニ相互ニ署名シ相互ニ捺印スルモノナリ

~~~~~  
八八四 九月七日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ペトロフ提出ノ協約案ニ対スル日本側ノ修正

案ニ付請訓ノ件

別電 同日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第一

二号

右日本側ノ修正案

合第一一号

(九月七日接受)

往電第一〇号先方提案ニ関シ別電合第一二号ノ通修正セシメ同時ニ沿海州ニ於ケル要塞の設備ノ撤廃及浦潮ヲ商港トスルコト(閣議決定第五項第六項)ニ関シテハ先方ヲシテ文書ニ依リ誓約セシムルコトトシタキ所存ナル処右ニテ差支ナキヤ何分ノ儀至急御訓電アリタシ尤モ当方ニ於テハ右

御訓電ニ接スル以前ニ先方ヲシテ(一)帝國政府ハ條約上ノ權利及日本人ノ既得權ノ尊重ヲ要求スルコト(二)日本ハ極東共和国ニ対シテニ保障ヲ要求スルノ理由アルコト從テ條約ハ片務的トナルヲ免レザルコト(三)日本ノ利害關係ハ主トシテ極東共和国ニ在ルニ付先ツ之ト協議シ次テ必要ニ応シ勞農露国ト協議スルコト(四)本件協約ニシテ成立セバ日本ハ自主的ニ撤兵スルニ至ルヘキコト(五)本協定ハ露国正式政府承認ニ至ル迄ノ暫定協約ナルコト等ヲ納得セシムル為會議ヲ繼續スル積ナリ

(別電)

九月七日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第一二号

ペトロフ提出ノ協約案ニ対スル日本側ノ修正案

合第一二号

(九月七日接受)

一、前文「相互対等」以下「モノナルコトヲ認メ」迄削除  
二、第一条及第二条ヲ削除シ左ノ条文ヲ設ク

締約国ノ一方ハ他方ニ対シ敵対的の行為及企圖ヲ為シ又ハ各自国領域外ニ於テ相互ニ日本帝國又ハ極東共和国政府ノ制度ニ対シテ直接間接ニ何等ノ宣伝ヲ為スコトナカルヘク且各自ノ領土内ニ於テ相手国ノ統治權ヲ乱サントス

ル各種団体及機關ノ存在及行動ヲ防遏スルノ措置ヲ執ルヘシ

三、左ノ一条追加

帝國政府ト旧露西亞國政府トノ間ニ締結セラレタル條約上ノ權利ハ尊重セラルヘク兩國國民ノ既得權ハ其ノ儘承認セラルヘシ

四、第三条ヲ左ノ通改ム

極東共和国ハ一般外國人ノ為出入國居住營業產業交通及沿岸貿易ノ自由ヲ与ヘ並土地所有權(交渉ノ成行ニ依リ永租權)ヲ許与ス

黒竜江上ニ於ケル外國船舶ノ航行權ヲ承認シ外國船舶カ松花江ノ航行權ヲ獲得スルコトニ異議ヲ有セズ

五、第四条ニ「締約国ハ非共產制度ヲ維持スヘシ」ノ一項ヲ加フ

六、第五条削除

七、第六条二項削除

八、第七条「政治的意見」削除

九、第八条領事館ノ列記ヲ精細ニス

十、第九条以下第十二条迄削除

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八八四

十一、第十三条ニ左ノ通追加

當事国ノ一方ノ領域内ニ在ルモノハ民事陸軍海軍若ハ其ノ他ノ一切ノ強制服役ヲ免カレ且個人的服役ノ代リトシテ課セラルル金錢或ハ物品一切ノ公納ヲ免カルヘシ  
正当手續ニ依リ他國ニ輸入シタル一國ノ商品生産品若ハ製造品ハ政府若ハ地方官憲ニ依リ強制徴収ヲ受クルコトナカルヘシ

十二、第十六条削除第十七条但書削除第十八条二項削除  
十三、第二十條ヲ左ノ通改ム

日本及極東共和国政府ハ日露漁業協約ヲ基礎トシ暫定協定ノ締結ニ着手スヘシ

十四、第二十二條第二十三條削除

十五、第二十四條期間ヲ定ムル代リニ「可成速ニ」トス  
十六、第二十五條「批准交換ノ日ヨリ」ヲ「調印ノ日ヨリ」ニ

改メ而シテ以下削除  
ニ「十個年間」ヲ「列國ノ承認スル露國政府成立迄」ニ

十七、第二十九條ヲ左ノ通トス

本協約ハ日本語及露西亞語ヲ以テ認メ共ニ一切ノ目的ニ於テ公正ト見做サルヘシ

八八五 九月七日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

島田領事二大連出張ヲ命ジタル旨通知ノ件

第一〇号

貴電第七号ニ関シ浦塩滞在中ノ島田領事ニ貴地出張ヲ命ジ  
貴官ノ指揮ヲ受クヘキ旨電報セリ尙ホ同官ハ至急陸路貴地  
ニ赴ク筈

註 九月一日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報第七号ヲ省略セ  
リ該電報ハ會議ノ席上露語通訳ノ任ニ当ル者一名ヲ大連ニ差  
遣方稟請セルモノナリ

八八六 九月七日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

張作霖ガ対チタ交渉ニ関シ日本ト同一歩調ヲ

採リ度旨本庄大佐ニ語リタル趣ニ付請訓ノ件

第九号

(九月八日接受)

張作霖ハ大連會議ニ多大ノ注意ヲ払ヒ居ルモノノ如ク交渉  
署科員焦桐(于冲漢派遣ノ積ナリシモ都合アリテ焦トシタル  
由)ヲ大連ニ派シ交渉ノ成行ヲ知ラント努メツツアリ又  
本庄大佐ノ語ル所ニ拠レバ張巡閱使ハ同大佐ニ対シ齊多ト

在浦潮斯德

總領事代理 領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

時局ニ関スル浦潮日本商工会請願事項進達ノ件

本件ニ関シテ八月三十日機密第六〇号拙信中具申ニ及ヒ置  
候次第有之候処当地商工会議所ハ曩ニ提出シタル当地東方  
經濟調査会ノ原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ本日別紙ノ通り同所  
請願書トシテ閣下ニ進達方願出候ニ付同所幹部ニ対シテハ  
前信申進候態度ヲ以テ答ヘ置キ茲ニ別冊及進達候間御査閱  
相成度此段申進候 敬具

追テ別冊ハ請願者ノ希望ニヨリ松島政務部長ニモ送付致  
置候尙又本希望条項新聞発表ニ対スル本省ノ御都合如何  
ニヤ至急御回示相成候様致度当事者ノ願出ニヨリ右重ネ  
テ御伺申上候

註 別冊「日露協約ニ対スル希望条項」省略

八八八 九月七日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛

日本政府及チタ政權間交渉開始ニ関聯シ浦潮

居留民会ヨリ提出ノ請願書進達ノ件

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八八八

ノ交渉ニ関シテハ支那ハ日本ト歩調ヲ一ニシ度キニ付出来

得ベクンバ交渉ノ内容ヲ承知シ度キ旨及齊多トノ交渉ニ際  
シテハ日本ノ指導ヲ受ケ度キ旨ヲ述ベタル趣ナリ卑見ニ依  
レバ交渉ノ内容ヲ全然秘密ニ附スル時ハ支那ノ利益ヲ無視  
スルガ如キ協定ヲ為スニ非ズヤト疑ヒ(現ニ東支鉄道ニ関  
シ疑惧シ居レリトノコトニ付島田ハ焦ニ対シ東支鉄道ニ関  
シ何等協議セズト言明シ置キタリ)交渉ノ妨碍ヲ為スガ如  
キコト無シトモ限ラズ然ルニ支那ヲシテ我方ト歩調ヲ共ニ  
スル様操縦スルニ於テハ北滿ニ於ケル本邦商人及企業家ノ  
活動ヲ容易ナラシメ松花江航行權問題ノ解決ヲ速ナラシメ  
得ベキニ付或程度迄張ノ希望ヲ満足セシムル方然ルベシト  
思考ス御詮議ノ上何分ノ儀御回訓アリタシ  
右奉天並ニ政務部ヘ転電セリ

八八七 九月七日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛

浦潮日本商工会議所ノ「日露協約ニ対スル希

望条項」進達ノ件

機密第六八号

(九月十二日接受)

大正十年九月七日

附屬書 右請願書

機密第六九号

大正十年九月七日

在浦潮斯德

總領事代理 領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

時局ニ関スル居留民会請願書進達ノ件

帝國政府ノ対「チタ」政權交渉開始ニ関聯シ当地居留民会  
ヨリ近々当館ニ請願事項ヲ申出ツル筈ナル旨ハ客月三十日  
付機密第六〇号ヲ以テ申進置候処今般同会会頭ヨリ別添請  
願書進達方申出候ニ付一応右請願ノ内容ヲ査スルニ執レモ  
当局ニ於テ已ニ考慮ヲ加ヘラレ居ル事項ト察セラレ候間其  
旨右会頭ニ申聞ケ置候猶該内容ハ本月七日付機密第六八号  
ヲ以テ及進達置候当地日本人商工業會議所ノ希望事項ト大  
差ナキモノト認メラレ候右御了知ノ上御査閱相成度別紙請  
願書相添ヘ此段申進候 敬具

追テ本件請願書公表方御差支ノ有無ニ関シ本月七日付

機密第六八号商工業會議所請願事項ニ関スル分ト共ニ

何分ノ儀御回示相煩度此儀申添候

## (附屬書)

浦潮居留民会ヨリ提出ノ請願書

## 請願書

西伯利駐屯軍ノ撤退モ愈近キ将来ニ実行セラレンコトヲ推知致シマシタル吾人在留民ハ撤兵後ニ於ケル吾人ノ立場ニツキ甚シキ不安ヲ感ジツツアル折柄大連會議ナルモノガ開カレマシテ世上或ハ通商協定ノ為ナリトシ或ハ撤兵準備行為ナリトシ巷説区々トシテ適帰スル所ヲ知りマセヌケレドモ要スルニ撤兵ノ時期ハ遅クモ年度内ナラントノ予測ハ蓋シ大誤ナキモノト存ジマス就テハ此ノ機会ニ於テ吾人ノ希望ヲ列挙致シマシテ貴官ノ御賢慮ヲ煩ハシ度存ジマス之ハ徒ニ利己ノ為ノミニアラズシテ一面国家ヲ思フノ至情ニ出ヅルモノナルコトヲモ御高察下サイマシテ何卒吾人在留民ノ冀望ノアル所ヲ諒セラレ御聴許アランコトヲ茲ニ当地在留民一同ヲ代表シ別紙吾人ノ希望条件ヲ添付致シマシテ偏ニ懇願仕リマス

大正拾年九月六日

浦潮斯德

ク吾人ノ生命財産ニ対シ確實ナル保障ヲ与ヘラレンコトヲ之レ吾人ノ切望スル処ナリ

## 二 既得權ヲ尊重セシメラレタキ事

茲ニ約半世紀ノ歴史ヲ有スル吾人在留民ハ大小各種ノ既得權ヲ有ス露國ノ政府ニシテ若シ是等ノ權利ヲ認容セザランカ吾人ノ生活ハ忽チ脅カサレ吾人将来ノ発展ハ絶エテ望ムベカラザルニ至ル故ニ吾人從來ノ既得權ハ政府ノ如何ニ拘ラズ必ズ尊重確保セシメ以テ吾人ノ安全ヲ留保セシメラレンコトヲ望ム

三 西伯利在留邦人ニ対シ共產制ヲ適用セシメラレザル事  
露國ノ政情安定シ極東露領ノ秩序恢復スルニ至ルト雖露國政府ガ若シ極端ナル共產制ヲ以テ吾人在留民ニ適用センカ吾人ノ所有權ハ之レヲ認メラレズ吾人ノ財産ハ直チニ之ヲ沒收セラルルニ至ルベシ此ノ如クンバ政情ノ安定秩序恢復ハ無意義ナルノミナラズ吾人ヲシテ退去セシムルノ止ムナキニ至ルベシ故ニ将来露國ニ共產主義ノ政府樹立スルコトアルモ吾人ニ対シテハ之ヲ適用セシメラレザルコトヲ望ム

## 四 過去ノ損害賠償ヲナサシメラレタキ事

露國ノ革命ニ伴フ政情ノ紊乱ハ帝國並帝國民ニ多大ノ損害

日本居留民会頭 細井 良吉(印)  
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

追テ本文写ハ松島政務部長ヘモ同時ニ差出シテ置キマシタカラ御承知ヲ願ヒマス

## (別紙)

時局ニ伴フ在留民ノ要望

一 生命財産ノ保護若クハ保障ヲ与ヘラレタキ事  
露國革命以來吾人在留民ノ生命財産ヲ侵害セラレタルコト渺シトセズ然ルニ皇軍ノ駐屯ニ依リ局面ノ展開ヲ見ントスルニ際シ若シ一朝撤兵セラレンカ一部露國人ノ邦人ニ対スル反感ハ譬ヒ尼港事件ノ如キ大慘劇ハ之レヲ見ルニ至ラズトスルモ掠奪強盜其他アラユル圧迫ヲ吾人ノ頭上ニ加ヘ其結果遂ニ吾人ヲシテ退去スルノ余儀ナキニ至ラシムルナキヲ保セズ之レ吾人在留民ノ深ク憂慮シテ止マザル処ナリトス然ルニ從來ノ実例ヲ以テ推考スル時ハ露國政府ハ能ク如上ノ掠奪強盜乃至諸圧迫ヲ制御スルノ実力ナキノミナラズ寧ロ政府自ラ之ヲ省ミザルノ嫌ナシトセズ此クノ如クンバ到底吾人ノ堪ユル処ニ非ザルナリ帝國政府ハ深ク吾人ノ憂慮スル処ヲ諒トセラレ撤兵後ト雖從來屢々声明セラレシ如

ヲ蒙ラシメタリ是等国家の損害ニ対シテ政府ハ相当ノ賠償要求アルヲ疑ハザルヲ以テ今更メテ之レヲ云ハズ依テ吾人ハ唯單ニ在留民ノ立場トシテ茲ニ要求セントスル処ノモノハ

(1) 石戸義一舍弟慘殺事件其他政治的擾亂ノ結果蒙レル個人の損害

(2) 露國內乱ニ依リ余儀ナクセラレタル滞貨ニ対シ蒙レル損害

(3) 千九百二十年六月五日公布ノ幣制改革令ニ依リ多年吾人在留民ガ蓄積セル粒々辛苦ノ財産タル露貨貳億百七拾万留(此金額ハ當時各自所有ノ金額ト氏名トヲ登録シテ露國政府ニ提示セルモノニシテ今猶当地朝鮮銀行支店ニ保管預托シアリ)ニ対スル損害

等ニシテ其ノ吾人ニ与ヘタル有形無形ノ損失亦極メテ大ナルモノアリ是等損害ニ対シテハ露國政府ハ当然其ノ責ヲ負フベキモノナリト認ムルヲ以テ吾政府ハ前述ノ要求ニ対シ最善ノ努力ヲ致サレ一般帝國民及吾人在留同胞ヲシテ満足セシメラレンコトヲ望ム

五 地上權永小作權等ノ長期租借權ヲ認容セシメラレタキ

## 事

西伯利ハ我邦ノ接壤地トシテ将来我大和民族ノ發展スベキ唯一ノ天恵地ニシテ西伯利ノ宝庫ハ將ニ我國民ノ鍵鑰ニ俟ツベキモノナリト云フモ過言ニ非ザルベシ鉾山ニ森林ニ漁業ニ農牧ニ其他枚挙ニ遑アラズ就中農牧ノ如キ数千万頃ノ丘陵沃野相連リ特ニ近時水田ノ経営困難ナラザルヲ認ムルニ至リ益移住發展ノ必要大ナルヲ覺ユルニ當リ労働ノ自由ヲ認メラルルト共ニ如上ノ諸權利ヲモ認容セラレンコトヲ望ム

六 大小船舶及桴等ノ所有權並沿岸及内水等ノ航行權ヲ認メラレタキ事

邦人ヲシテ船舶類ノ所有權ヲ認メシメ近海及内水等ノ航行業ヲ許容セシムルハ邦人ノ進取の發展ヲ擁護スルノミナラズ将来日露貿易ノ向上發展上緊要ナリト認ム之レ吾人ノ大ニ希望スル処ナリ

七 營業ノ自由ヲ認メラレタキ事

商工業ハ現在ニ於テ營業ノ自由ヲ有セリト雖他日或ハ個人ノ營業ヲ認容セザルガ如キコトナキヲ保セズ果シテ然ランカ在留邦人ノ發展ハ忽チ阻礙セラルルニ至ルベク又医業ノ

九 撤兵後ト雖外國貨幣ノ流通ヲ許容セシメラレタキ事

今ヤ露國ハ全ク混沌時代ニシテ通貨アレドモ何等正貨準備ナキ不換紙幣ニ過ギザルヲ以テ幾回新紙幣ヲ發行スルモ暴落ニ次グニ暴落ヲ以テシ其ノ低止スル処ヲ知ラザルナリ現ニ当地ニ於テハ露國人スラ自國政府ノ發行紙幣ヲ峻拒シテ受入レズ全ク外國貨幣ヲ以テ唯一ノ通貨トセリ然ルニ一朝撤兵セラレンカ千九百二十年ノ実験ニ徴スルニ露國政府ハ或ハ直チニ外國貨幣ヲ排斥シテ殆ド無価値ニ近キ露國紙幣ヲ強制流通セシメントスルノ虞ナシトセズ果シテ然ランニハ吾人在留邦人ハ勿論露國人ト雖決シテ堪ユル処ニ非ザルベキヲ信ズ故ニ信用確實ナル外國貨幣ノ流通ヲ許容セシメラレンコトヲ要望シテ止マザルナリ

上述九項ニ亘レル吾人ノ希望ヲシテ満足セシメラレンカ今後邦人ノ西伯利地方ニ於ケル發展ハ漸次見ルベキモノアルベシト雖若シ不幸ニシテ吾人希望ノ一部若クバ全部ノ満足ヲ得ザランカ吾人在留民ガ数十年来築キ上ゲタル基礎ハ之レヲ根柢ヨリ覆サレ復タ樹ツ能ハザルニ至ラシムルガ故ニ譬ヒ生命財産ニ対スル積極的危險ナシトスルモ營業不能ノ為メ帰國退去ヲ余儀ナクセシメラルルコトナシトセズ此ノ

如キ現在ニ於テハ營業ノ自由ヲ有セズ故ニ若シ日本帝國医術開業免狀ヲ有スルモノニシテ出願スル時ハ容易ニ之ヲ許容セラレンコトヲ望ム之レ吾人ノ特ニ本項ヲ挙ゲテ一般營業ノ自由ヲ希望スル所以ナリ

八 浦潮斯德ヲ自由港タラシムルカ若クハ關稅制度ノ根本的改革ヲ行ハンメラレタキ事

現下露國ノ物貨欠乏ト物価ノ高値ナルコトハ殆ド其極ニ達シ生活ノ不安目前ニ迫レリ之レ一ハ革命後ニ於ケル政情ノ不安定ナルト露國民財政窮乏ノ然ラシムル処ナリト雖一面ニ於テハ從來露國ノ鎖國の關稅法ニ依リテ世界無比ノ高率關稅ヲ課セルノ罪タラズンバ非ズ今若シ浦潮港ヲ自由港トシテ一定ノ区域内(極東三州位)ノ關稅ヲ賦課セザルカ若クハ關稅法ノ大改正ヲ敢行セシメテ物資ノ輸出入ヲ容易ナラシメ關稅率ノ大低減ヲナサシムル時ハ吾人在留貿易業者ノ利便タルノミナラズ直接露國民ノ生活ニ多大ノ好影響ヲ及ボシ露國民ニ經濟的復興ノ期ヲ与フルモノナルコトヲ確信ス之レヲ以テ吾人ハ浦潮港ヲ自由貿易港タラシムルコトヲ切望シ若シ能ハズンバ關稅制度ノ大改革ヲ敢行セシメラレンコトヲ要望シテ止マザルナリ

場合ニアリテハ我政府ハ宜シク適當ノ方法ヲ以テ吾人在留民ニ對シ物質的ニ救済ノ途ヲ講ゼラレンコトヲ切望スルモノナリ

八八九 九月八日

内田外務大臣ヨリ  
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

東方經濟調查會ノ希望條項ハ公表セシメザル

様回訓ノ件

第一二一號

機密第六〇號貴信ニ關シ東方經濟調查會ノ希望條項ハ一二ノ点ヲ除キ大体ニ於テ尤モト存ゼラレ其ノ趣旨ハ當方ニ於テモ充分考量シ居ル処此ノ際同會ノ意見ヲ公表スルコトハ我カ交渉ニ障害ヲ及ボスノ虞アルニ付是ヲ公表セザル様關係者ニ申聞ケラレタシ

八九〇 九月八日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第八回會議ニ於テチタ側ノ事前承諾

ヲ要スル六項目ヲ提言ノ件

合第一三號

(九月九日接受)

八日第八回會議ニ於テ本官ハ先方提案ノ審議ニ入ルニ先チ

齊多側ノ承諾ヲ得置クベキ數点アリ右承諾ヲ得ザルニ於テハ提案ヲ審議スルモ無益ナリト前提シ

一、極東共和国政府ハ未タ承認セラレザルニ付協約ノ体裁ハ普通國家間ノ條約ノ体裁ト異ナルベキコト

二、日本ノ條約上ノ權利及日本人ノ既得權ヲ尊重スルコト

三、西比利亞ニ於ケル特殊事態ニ鑑ミ日本ハ極東共和国ニ對シ各種ノ保障ヲ要求スル必要アルニ付（例ヘハ朝鮮國境ニ於ケル脅威除去ノ保障ノ如シ）此ノ点ニ於テ協約ハ片務的タルヲ免レザルコト

四、本會議ニ於テハ日本ト極東共和国トノ關係ヲ議スルニ止ムルコト

五、日本ハ累次ノ聲明ニ則リ自主的ニ撤兵スベク協約中ニハ之カ為條項ヲ設ケザルコト

六、協約ハ列國ノ承認スル正式露國政府成立迄ノ暫定協定タルコト

ノ六点ヲ挙ゲ先方委員內協議ノ為暫時中休ミノ後議事ヲ再開セリ

第一項ニ関シ先方ハ本協定カ權威ナキモノトナルコトヲ眞レタルモノト見ユ正式條約ノ形式ニ依ランコトヲ主張シタ

力者ノ行為ハ既成事實トシテ之ヲ有効ト認ムルノ外ナカルベク場合ヲ代ヘテ若シ「メ」政權カ鞏固トナリ或ル一國ガ之ト協約ヲ締結スルコトアリトセバ該國政府ハ其ノ臣民カ極東共和国政府トノ契約ニ依リ得タル權利ノ承認ヲ求ムルナルベシ尤モ日本ハ極東共和国ノ基礎比較的鞏固ナルヲ認メ本會議ヲ開クニ至リタル以上日本商民カ「メ」政權ト各種契約ヲ締結スルハ好マシカラザルニ付之ヲ避クル様警告ヲ与ヘツツアリト説明シタリ最後ノ点ニ関シ本官ト「ユーリン」トノ間ニ行ハレタルト同様ノ會話アリタル後「ペ」ハ時刻モ大分移リタルニ付是ニテ會議ヲ閉ジ明日引続キ協議シタシト云ヘルニ付本官ハ之ニ同意セリ

（新聞紙發表事項、本日ノ會議ニ於テ協約ノ形式及日本側委員提出ノ二三ノ点ニ付審議ス）

八九一 九月九日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第九回會議ニ於テチタ政府ニ依ル日  
本人ノ既得權尊重協約中ニ片務的條項挿入及  
出入國居住營業ノ自由等審議ノ件

合第一四号 （九月十日接受）

ルモ本官ハ極東共和国カ承認セラレザルノ事實ニ鑑ミ日本ノ法制上正式條約ノ形式ニ依ルヲ得ズ故ニ協約ノ前文及末条ハ提案ヲ其儘採用スルヲ得ズ尤モ兩國政府間ノ協約タルコト勿論ナリト説明シタルニ「ペトロフ」ハ然ラバ此ノ点ニ付テハ日本側ヨリ提案セラレタシト云ヘリ

第二ニ関シ條約上ノ權利及既得權ノ範圍ノ説明ヲ求メタルニ付日本ト旧露西亞政府トノ間ニ締結セラレタル一切（秘密條約モ包含）ノ條約上ノ權利及日本臣民カ今日ニ至ル迄ノ間ニ得タル一切ノ權利（齊多政府以外ノ政權トノ契約ニ依リ得タル權利モ包含）ナリト説明シタルニ「ペ」ハ條約上ノ權利ニ付テハ何等異論ヲ唱ヘザリシモ日本臣民ノ既得權ニ関シテハ「メルクロフ」政權ノ如キ叛逆者トノ契約ニ依リ得タル權利ハ承認スルヲ得ズトテ齊多政府ノミガ合法的政府ナリトノ論拠ニ立脚シテ推論シタルヲ以テ本官ハ主觀的ニ論ズレハ御説ノ通ナルベシ然レドモ革命以後ノ露國ノ事態ハ客觀的ニ之ヲ觀察セザルベカラズ各地ニ事實上ノ政權樹立セラルル場合ニハ一政權ハ他ノ政權ヲ以テ叛逆者ト看做スベシ極東共和国政府成立ノ當時ハ前政權ハ同政府ヲ叛逆者ト看做シタリ斯カル事態ノ下ニ於テハ事實上ノ權

金曜日第九回ノ會議ニ於テ「ペトロフ」ハ既得權ニ関シ極東共和国成立後「メルクロフ」政權ヨリ得タル日本人ノ權利ハ承認スルヲ得ズト前回ト同様ノ言ヲ繰返シタルニ付本官モ前回ト同様ノ主張ヲ固持シタルニ先方ハ日本人ノ既得權中ニ政治上ノ權利アリヤ又日本人ノ私法上ノ權利ニシテ共和國ノ法律ニ違反スルモノアラバ日本人ノミ他ト異ル權利ヲ享有スルコトナリ不都合ナルガ之ハ如何ニスベキヤト問ヘルニ付權利ノ分類ハ困難ニ付明答ハ致シ難キモ個人ガ政治上ノ權利ヲ享有スル場合ヲ想像シ得ズ又日本人ノ既得權ガ共和國ノ法律ニ違反スルガ如キコトナシト思考スルモ若シ有リトスルモ既得權タル以上之ヲ認メザルベカラザルハ領土割讓ノ場合ニ併合國ハ割讓地域内ニ存スル個人ノ既得權ハ如何ナルモノニテモ之ヲ承認スルヲ要スルト同様ナルベシ日本ニ於テモ日本人ノ享有セザル特種ノ權利ヲ既得權トシテ外國人ノ享有シ居ル事實アリ又他國政府モ同様ノ場合ニハ其國民ノ既得權尊重ヲ主張スベシ故ニ既得權ノ消滅ノ如キ到底帝國政府ノ承諾スル能ハザルトコロナリト述べタルニ「ペ」ハ日本人ノ既得權ヲ全然消滅セシメムトスルニハアラズ共和國ノ法律ニ合スル様更正シタシトノ

考ナルモ既得權ヲ其儘承認セヨトノコトナレバ奇多ニ請訓シタル上ニテ更ニ御答ヘスベシト言ヘリ(右ニ関シ先方ノ法律ニ合スル様更正スルコトヲ強硬ニ主張スルニ於テハ之ニ応ジ差支ナキヤ御訓電アリタシ)

第三点ニ関シ片務の条項ノ挿入ハ対等条約ニ於テモ事情ニ依リ有リ得ベキコトニ付異存ナキモ唯例示ヲト云ヘルニ付本官ハ先ヅ極東共和国ガ軍国主義ヲ捨テタル趣旨ニ則リ浦潮要塞ヲ撤廢シテ浦潮ヲ純然タル商港トナシ朝鮮國境及一般的ニ日本ヲ脅威スルガ如キ軍ノ配置其ノ他軍事的施設ヲ為サザル可キ旨保障ヲ与フルコトヲ挙ゲタルニ「ペトロフ」ハ主義トシテ異存ナキモ要塞ノ撤廢等技術的問題ハ軍事專門委員ト相談シタル上話ヲ進メタシト云ヘリ次ニ出入国居住營業ノ自由ニ関シテハ極東共和国ハ一般外國人ニ之等自由ヲ与フルコトトシ此ノ意味ノ条文ヲ挿入スルコト如何ト問ヘルニ「ペ」ハ之等ニ関シテハ当方提案第三条第五条ニ掲ゲアリ今後如何ナル關係トナルヤ判然セザル他國人ノコト迄決定スル能ハズト云ヘルニ付本官ハ尤ト思考シ多少ノ修正ヲ留保シテ先方ノ案ニ大体同意シ置キタリ(我方對案ヲ作製ノ際此点御考慮ニ入レラレタシ)次ニ露國經濟復興ニ

資スル為沿岸貿易ヲ外國船舶ニ許可スル点ヲ挙ゲタルニ考量ノ時日ヲ与ヘラレタシト逃ゲ黑竜江及松花江航行權ニ付テハ勞農露國ハ支那ノ關係ヲ顧慮スルモノト見エ後日ニ讓ラント主張シテ動カズ但シ日本ノ要求ハ露國ニ條約違反ノ措置ヲ要求スルモノニ非ザルコト丈ハ先方ヲシテ諒解セシメ置キタリ

右ニテ會議ヲ閉ヂタルガ次回ニハ土地問題(土地所有權ハ共和國憲法ニテ認メラレザルニ付租借權ヲ要求スル外ナシ)及第四点以下ヲ議セントス(新聞發表事項昨日ノ繼續)

八九二 九月九日

浦潮派遣軍參謀長ヨリ  
陸軍次官宛(電報)

大連會議ニ於ケルチタ側提案ニ對スル軍ノ意

見ヲ松島ニ指示シタル件

浦參特六(○) (九月十三日外務省寫接受)

知多側提案及張作霖ノ希望ニ關スル軍ノ意見ハ左記ノ如クニシテ松島ヘ指示セリ

左記

浦參特五九知多側提案ニ對シ逐次協議ニ入ルニ先チ根本的

主義ノ説明ヲ加ヘツツアルハ可ナリ知多側提案ニ對スル軍ノ意見大要左ノ如シ

一先方提案ハ極東共和国ヲ承認セシメ尙日本帝國ヲ以テ對等若クハ夫以下ト認ムル如キ調子ニナリ居レリ之ニ對シテ個々ノ修正ニ(不明)ル如キ手段ニテハ全般ノ調子ヲ改善シ難キ虞アリ宜シク先方案ハ其儘トシ別ニ我レノ欲スル所ノ提案ヲ出スヲ可トス

二我カ提案ハ既定ノ方針及要項ニ率由シ且先方提案中我レニ有利ナルモノヲ加味スヘク尙極東共和国ヲ承認シ且兩國對等的地位ヲモ認諾スル如キ形式ニ陥ルヲ避ケ当地方政權ヨリ得タル邦人既得權ヲモ確保シ先方ハ樺太ヲモ包含セシメアルニ對シ尼港事件ハ別問題トシ旧樺太州ニ關シテハ除外タルヘキコトヲ明カニスル等ノ注意ヲ必要トス

三浦潮ヲ商港トナスコトヲ覺書ノ別文書トナスハ不可ナリ又要塞の設備ノ撤廢(不明)スル軍事的諸施設ヲナサザルノ主義ハ予メ之ヲ承認セシメ少クモ撤兵協定ニ記載スル要アリ

四張作霖ニ對シ交渉内容全部ヲ示ス件ハ唯直接彼ニ關係ア

リテ焦慮シアル点ニ關シテ我レノ意向ヲ内示スルハ妨ナシ

八九三 九月十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第十回會議ニ於テ黑竜江航行權沿岸

貿易土地所有權勞農露國ノ會議參加日本ノ撤

兵ノ諸問題討論ノ模様報告及請訓ノ件

合第一五号 (九月十一日接受)

十日第十回會議ニ於テ「ペトロフ」ハ黑竜江航行權問題ハ支那トノ條約關係上支那ト相談セズシテハ如何トモシ難キニ付後日ノ問題トシタシト云ヒタルニ付本官ハ日本ノ求ムル所ハ航行權ヲ直ニ要求スルニ非ズシテ單ニ露國側ハ第三國ニ航行權ヲ与フルニ異議ナシトノ意向ヲ表白スルコトヲ求ムルモノナルニ付此意向ヲ表明シタリトテ條約違反ニ非ズト説明シ兎ニ角帝國政府ニ請訓シ更ニ何分ノ儀申出ヅベシト述べ置キタルガ此際我主張ヲ通シ置クニ非ザレバ松花江黑竜江ノ航行權ハ之ヲ得ルコト能ハズト信ズル処本官ハ本件ニ關シ如何ナル態度ヲ執ルベキヤ御回訓アリタシ沿岸貿易ニ關シ先方ハ(一)之ヲ外國人ニ与フルハ主權ノ一部

ヲ放棄スルモノナルニ付要求ニ応ジ難ク(二)財政上經濟上ノ理由ヨリシテモ之ヲ外国人ニ与フルヲ好マズト云ヘルニ付本官ハ沿岸貿易權ヲ外国人ニ与フルコトハ他ノ居住權營業權等ヲ外国人ニ与フルト性質ニ於テ毫モ異ラズ主權ノ一部ノ放棄ト解スルノ當ヲ得ザルコトヲ説明シ露國ノ航海業不振ノ今日外国船舶ニ航行權ヲ与フルハ露國ノ經濟復興ニ資スルモノニ付經濟上ノ見地ヨリスレバ沿岸貿易權ヲ外国船舶ニ許スヲ可トセザヤト云ヘルニ「ベ」ハ極東共和国ハ其ノ海運業ノ發達ニ努力スベク差當リ沿岸貿易權ヲ外国人ニ与フルヲ好マズト自說ヲ固持シタルニ付本官ハ本件ニ付テモ政府ニ請訓ノ上更ニ協議スベキモ漁業ニ関シテハ帝政時代ニ於テモ日本人ハ沿岸貿易權ノ一部ト見ラル可キ權利ヲ享有シ居ルニ付尠クトモ漁業ニ必要ナル程度ノ沿岸貿易權ハ之ヲ要求セザルヲ得ズト述ベタルニ「ベ」ハ之ニハ異議ナシト云ヘリ就テハ此上共沿岸貿易ニ関スル我要求ヲ主張スベキヤ御回訓アリタシ

土地ニ関シテハ「ペトロフ」ハ所有權ハ憲法上認メラレザルニ付日本人ニ土地所有權ヲ与フルコト能ハザルモ憲法ニ認メラレアル租借權ハ之ヲ日本人ニ与フルコトニ異議ナク

租借地ニ於テハ建物ヲ築造スルト農業牧畜ニ従事スルト自由ナリト云ヒ既ニ土地所有者ノ權利ハ如何ニ保護スルヤト問ヒタルニ租借權ニ関シ優先權及更新權ヲ与フル考ナリト答ヘタリ

第四点労働露國ノ代表者ヲ参加セシメザルコトニ付テハ先方ハ之ヲ参加セシメテ漁業問題通信問題等ヲ解決スルヲ可トセザヤト云ヒ又歐洲諸國ガ労働露國ト通商ヲ開始セル今日日本モ之ト交渉ニ入ラルモ毫モ差支ナキノミナラズ日本ニ取リ利アリテ害ナシト信ズトテ労働政府トノ接近ヲ勸メタルニ付此ノ際第三者ヲ加入セシムルトキハ兩國ノ關係ヲ速ニ定ムトスル本會議ノ目的達成ヲ遲延セシムルニ付望マシカラズ歐洲諸國ガ地理的關係上特ニ利害ヲ感ズル労働露國ト通商ニ入リタルト同様極東ニ於テハ先ヅ日本及支那ト極東共和国トノ關係ヲ定メ然ル後遠キ労働ニ及ブヲ得策ト思考スト答ヘタルニ「ベ」ハ其ノ說ヲ固持セザリキ第五、自主的撤兵ノ意味如何トノ質問ニ対シ本官ハ帝國政府累次ノ聲明ノ如ク西比利ニ於ケル帝國臣民ノ生命財産ノ安全保障セラレ日本及朝鮮ニ對スル脅威除去セラルルナラバ日本ハ喜ビテ沿海州ヨリ撤兵スベシ而シテ本會議ニ於テ

協約締結セラルルニ至ラバ日本ハ右撤兵ノ時期到達シタルモノト認メテ撤兵スルニ至ルベク撤兵ノ手續ハ専門委員間ニ協議スベシト説明シタルニ彼ハ「チェック」撤退後ノ日本ノ駐兵ハ理由ナキモノニシテ日本ハ駐兵ニ依リ何モノヲモ利益セザルノミナラズ却テ露國民全体ノ反感ト不信ト列國ノ猜疑トヲ招キタルノミ日本軍ノ居ル処殺戮行ハルルモ他ノ地方ハ統一アリ秩序アリ日本軍ニシテ撤兵スルニ非ザレハ條約ニ調印スル能ハズトテ長口舌ヲ振ヒタルニ付本官ハ日本駐兵ノ理由ハ数次ノ聲明ニヨリ明ニシテ帝國ノ態度ハ世界ニ知ラシメアリ日本ノ駐兵ニヨリ自己ノ目的ヲ達シ得ザル一部ノモノハ不法ノ干渉ト稱シテ之ニ反対スルモ居留民ノ保護交通ノ安全秩序維持ノ必要上日本ハ今尙撤兵スルヲ得ズ日本軍ノ駐屯セザル所秩序アリ統一アリト云フモ何処ニ統一アリヤ秩序アリヤ日本軍駐屯地域ニ於ケル殺戮ハ貴國ノ配下ニ属スルモノノ所為ニアラズヤ日本軍ナキ地方ニ於テ幾多ノ人間(日本人モ其ノ内ニ在リ)ハ消エテ無クナルニアラズヤ貴國軍隊ハ各地ニ於テ掠奪ヲ事トスルニアラズヤ幾多ノ協約ヲ破リタルハ貴國側ニアラズヤ日本ハ信ヲ貴國側ニ置ク能ハズ協約ノ締結ニ依リ保護ヲ得タル後

ニ非ザレバ斷ジテ撤兵スルヲ得ズト答ヘタルニ「ベ」ハ本協約中ニ撤兵ニ関スル條文ヲ挿入セザルコトニ異議ナキ意向ヲ漏シタル後本協約ノ主義ニ関シ意見合致シタル際日本軍ノ撤兵ヲ開始セラレタシト云ヘルニ付本官ハ主義ニ於テ意見合致シタルノミニテハ足ラズ日本ハ確乎タル保障ナキ限り撤兵スルヲ得ズ貴國ニハ貴國ノ保護ノ下ニ數千ノ不逞鮮人軍隊存スルニ非ズヤ日本軍撤兵後ニ於ケル彼等ノ行動ヤ知ルベキノミト答ヘタルニ「ベ」ハ本協約ト同時ニ撤兵ニ関スル取極ヲ為スニ異存ナシトノ口吻ナリシモ本官ハ始メノ主張ヲ繰返シ本日ハ一先ヅ物分レトナリタリ就テハ本件ニ関シ本官ノトルベキ態度至急御訓示アリタシ

尙本交渉中樞太駐屯軍ニ関シテハ双方一語モ言及セザリシ処先方ハ同軍ヲモ含マセ話ヲ為シ居ル積リナルヤモ知レザルニ付適當ノ機會ニ於テ當方ヨリ同軍ハ本交渉ノ外ニ置クコトヲ云ヒ出ス必要アリト信ズルモ尼港事件ノ全責任ヲ知多政府ニ於テ負フヤト問ハバ先方ハ不能ト云フベキハ勿論ニ付樞太軍ノ問題ハ除外シ得ベシト思考ス

(新聞發表事項ハ昨日ト同ジ)

八九四 九月十日 関東軍參謀長ヨリ  
陸軍次官宛(電報)

チタ側ヨリ中国ニ交渉再開ヲ提議ノ場合ニ対  
スル張作霖ノ態度ニ付報告ノ件

九月十二日外務省写接受)

九月九日貴志少將ハ張作霖ニ今後若シ知多側ヨリ支那ニ交渉再開ヲ提議スルコトアラバ此ニ応スル意思アルヤヲ確メタルニ東三省ノ主權者トシテ応スル能ハザルノミナラズ会见モナサザルヘシ但シ目下北京閣議ニ於テ知多ト断絶スヘキヤ又ハ交渉ノ余地ヲ存スヘキヤヲ討議中ナレバ政府若シ余ニ命令シ来ラバ此限リニアラズト答ヘ何等彼力進テ交渉ヲ再行スル意思ナキモノト認メラル 東京浦潮哈市北京大連濟

八九五 九月十二日 内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

大連會議ノ内容ニ関シ張作霖側ヨリ質問アリ  
タル場合ノ応答振ニ付回訓ノ件

第一四号

貴電第九号ニ関シ大体ノ交渉方針ヲ張ニ説示スルコト差支ヘナキモ往電第一号所載英米兩政府ヘ通告后張ニモ同様ノ趣旨ヲ以テ通告方陸軍側ニテ取運ビタルニ付一応ノ次第ハ

合第一六号

(九月十三日接受)

月曜日第一一回會議ニ於テ本官ハ日本人ガ軌条ヲ担保トシテ借款ニ応ジタリトノ風説ノ事實無根ナルコト及某国人ガ蘇城炭鉱ヲ租借シ且烏蘇里鐵道ノ經營權ヲ得ントシツアリトノ情報ニ接シタル旨ヲ述べタルニ「ペトロフ」ハ日本軍司令部ノ公正ナル態度及情報ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタリ次デ本官ハサガレン州ニ駐在ノ日本軍ニ関シテハ貴我共之ニ言及スル所アラザリシガ右日本軍ノ出動ハ尼港事件ノ結果ニシテ同事件ハ日本ト極東共和国トノミニテ解決シ得ザル性質ノモノニ付本會議ニ於テハ同事件ニ触ルルコト無ク之ガ解決ハ後日ニ譲リタク從ッテ夫レ迄ハ日本軍ハサガレン州ニ駐屯スベシト云ヘルニ「ペトロフ」ハ予想ノ通本問題ハ一般極東共和国領土ヨリノ撤兵問題中ニ含ムモノト解シ居タリト前提シ日本ニ於テ尼港事件ト關係スルモノトノ御見解ナルニ於テハ今直ニ確答スルヲ得ザルモ私見ヲ述ブレバ(一)極東共和国トノ間ニ於テ解決スルカ(二)本會議ニ勞農露國代表ヲ参加セシメテ解決スルカ(三)時期ヲ定メテ三者間ニ会商スルカノ三方法アリト答ヘタリ仍テ本官モ亦私見トシテ(一)極東共和国ハ尼港事件ニ関スル全責任ヲ負フコト能

承知シ居ル答ナリ右以外交渉ノ内容ハ未ダ協約成立ノ見込充分ニ附カザル際之ヲ外間ニ洩スハ好マシカラザル結果ヲ惹起セザルヲ保シ難キニ付暫ク開陳セザルコトトシ若シ先方ヨリ何等欺ノ質問ニ接セラレタル場合ニハ前記英米側ヘ通告ノ範圍内ニ於テ適宜説示セラルルニ止メラレタシ但シ先方ニ於テ何等欺惑ヲ懷クガ如キ場合ニハ本交渉中東支鐵道ニ関スル事項ハ勿論何等支那側ノ權利ヲ侵害スル如キ事項ヲ包含セザル旨ヲ言明セラレ差支ヘナシ奉天及政務部ヘ転電シ貴電第九号ト共ニ北京ヘ転電アリタシ

註 英米ヘノ通告写北京浦潮ハ郵送ニ付テハ後出

九月十七日内田外務大臣宛北京浦潮宛歐一機密合第二〇一号  
参照(九〇一文書)

八九六 九月十二日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第十一回會議ニ於テ尼港事件ノ取扱  
方等ニ付協議及會議ノ暫時中止ヲ決定ノ件

別電 同日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第一

七号

大連會議暫時休止ノ旨新聞発表ノ件

ハズト思考シ本會議ノ問題トセザリシコト(二)本會議ノ目的ハ兩國ノ關係ヲ定ムルニアルヲ以テ第三者ノ参加ヲ希望セズ(三)日本ガ勞農ト特殊問題ニ関シ交渉ニ入ルノ意向ナルヤ否ヤ不明ニ付本件ハ後日適當ノ時機ニ於テ審議スルコトトシテハ如何ト答ヘタルニ「ペトロフ」ハ政府ガ全責任ヲ負フヤ否ヤノ点ハ即答シ難キモ余ハサガレン州問題モ解決ス可シトノ命ヲ受ケ居ルニ付其ノ旨帝國政府ニ報告セラレ度ク余モ貴方ノ意見ヲ政府ニ報告ス可シ唯「ワルソー」ニ於テハ日本代表ト勞農代表ト公式ニ交渉シツアリトノコトナルニ本會議ニ勞農代表ノ参加ヲ望マザルハ不思議ナリト言ヘルニ付本官ハ之ニ対シ極東共和国ハ尼港事件ニ對スル全責任ヲ負フコト能ハザル可シト信ジタルヲ以テ日本ハ本會議ニ於テ同事件ヲ議スルノ準備ナク又「ワルソー」ニ於ケル交渉云々ハ承知セズ若シ事実トスルモ非公式ノモノタル可シ旁本件ノ解決ハ後日ニ譲ルヲ双方ノ為便宜トスト答ヘ置キタリ

(註)  
第六暫定協約トスルノ件ニ関シ「ペ」ハ「正式政府成立迄」ノ文句ハ宛モ共和国政府ガ合法政府ニ非ザルノ感ヲ与フルニ付異議アリト云ヘルニ付本協約ハ暫定協約ニシテ恒



久的条約締結迄有効トシ六月ノ予告ヲ以テ廃棄スト言フ意味ニテハ如何ト言ヘルニ大体異議ナシト云ヘリ

本日ノ會議ニ於テ先方ハ齊多トノ通信困難ニテ今日迄一電モ回訓ニ接セズト云ヒ本官モ具體的御回訓ニ接セザルニ付兩者共回訓ニ接スル迄會議ヲ休止スル事トセリ而シテ右休止ガ一般社会ニ誤解セラルル事ヲ防止スル目的ヲ以テ協議ノ上別電第一七号ノ通り新聞ニ發表ス

註 第六トアルハ前掲松島政務部長九月八日發合第一三号中ノ六ノ項ヲ指ス

(別電)

九月十二日松島政務部長發内田外務大臣宛電報合第一七号

大連會議暫時休止ノ旨新聞ニ發表ノ件

合第一七号

(九月十三日接受)

極東共和国代表者ハ二十九ヶ条ヨリ成ル協約案ヲ提出シ日本代表者ハ之ニ対シ協約ノ形式及主要事項等六點ニ関シ審議ヲ求メ爾來協議ヲ為シタルガ其間兩代表者ハ或事項ニ関シ各自ノ政府ニ請訓スル所アリ然ルニ兩者共今日ニ至ル迄回訓ニ接セザルヲ以テ右回訓ニ接スル迄會議ヲ休止スルコトトナリタルモ會議ハ今日ニ至ル迄順調ニ進捗シタリ

涉リ居ル關係上慎重ノ講究ヲ要スル個所アリ当省内ニ於テハ略々成案ヲ得タルモ更ニ陸軍側ト協議ヲ要スル次第ニ付我方對案ノ發送迄ニハ猶兩三日ヲ要スヘキカト存スルニ付右御含置アリタシ

八九九 九月十五日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛

大連會議ニ関スル極東日本記者大会ノ決議案

二付報告ノ件

機密第七三号

(九月二十一日接受)

大正十年九月十五日

在浦潮斯德

總領事代理領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大連會商ニ對スル当地居留民會及商工會議所側ノ希望事項ニ関シテハ客月三十日付機密第六〇号本月七日付同第六八号及同日付同第六九号等ヲ以テ及具申置候次第有之候処既報ノ通り在當地日本新聞記者團モ爾來本件ニ関シ屢々討議ヲ重ネ來レルニヨリ本官ハ彼等ノ言動ガ及ボス影響ノ甚大ナルヲ説キ此際充分慎重ノ態度ヲ持スル様該團ノ幹部ニ注

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 八九九

八九七 九月十二日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議我方代表ノ對政府請訓ニ對シ速ニ回訓セシメタキ件

第一二号

(九月十三日接受)

高柳ヨリ松平局長ヘ

松島報告ノ如ク交渉ハ彼我ノ請訓ニ對スル回訓未着ノ為一時休止スルニ至レリ併シ交渉ノ時日ヲ遷延セシムルハ幾多ノ點ニ於テ不利ナルヲ以テ「チタ」側ハ兎モ角當方ニ於テハ有ラユル準備ヲ整ヘアルヲ可トス軍ハ松島ニ對シ「チタ」側提案ニ對スル意見ヲ回示シ來リタルモ外務省側ヨリハ何等回訓ナシ速カニ有之ヲ望ム

八九八 九月十四日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

チタ側提案ニ對スル我方對案發送ノ時期ニ付

通報ノ件

第一六号

齊多側提案並貴官修正意見接受セル処齊多側提案ハ「コゼ」「ソーモフ」案ト其趣ヲ異ニシ通商ニ関スル細目ニモ

意ヲ加ヘ置キ候処今回同幹部ハ在浦記者團ヲ滿洲及当州各地新聞記者連合即チ極東記者大会ノ形ニ於テ近々大会ヲ開催シ決議文ヲナシテ彼等ノ意見態度ヲ發表スル計畫ノ由ニテ本日不取敢幹部有力者ハ右大会ニ提出スベキ決議案ヲ討議スベク予備會ヲ開催スルコトニ決定セルガ右幹部ノ一人ニシテ本運動ノ中心人物タル東方通信当地派遣員大竹博吉ガ右決議案ノ原案トシテ別紙寫ノ通り本官ニ内示シタルニヨリ一覽スルニ大体ニ於テ穩當ノモノト認メラレ候ニ付大竹ニ對シテハ可成大会ノ決議力不穩當我利のニ流レザル様善導方懇示致置候

本原案ハ予備會議乃至大会ニ於テ多少ノ修正ヲ見ルニ至ルヤモ難計モ大体ハ原案通り可決ノ見込ナル由ニ有之候右及報告候 敬具

写送付先 政務部

(別紙)

大連會議ニ関スル極東日本記者大会決議案

決議

極東日本記者大会ハ大連會議進行ノ機會ニ於テ次ノ事ヲ希望事項トシテ決議ス

一、吾人ハ現在大連ニ於テ行ハレツツアル日本、極東共和国間ノ通商交渉ノ円満ナル進展ト成効ヲ望ム

二、帝國政府ハ極東ノ經濟關係ニ於テ機會均等主義ヲ原則トスル事

三、帝國政府ハ極東共和国トノ通商條約締結ニ際シ一般經濟關係ニ於テ極東共和国ガ誠意ヲ以テセル外國人ニ對スル安全ナル保障ヲ獲ル事

四、帝國政府ハ通商條約締結ニ際シ其領土の關係ニ於テ極東國民ニ對シ出兵占領ノ惡印象ヲ貽サザラン事ヲ信條トシ或地域ニ於テ特殊利權ヲ得ル場合ハ如何ナル機會ニ於テモ出兵占領ノ名ニ於テセズ荒廢セル極東共和国ノ財政經濟狀態恢復ニ利益ヲ齎スベキ相互ノ親交の諒解ヲ以テスル事

五、帝國政府ハ極東共和国トノ通商條約締結ニ際シテハ該協約ノ主旨ニ基キ帝國國民ノ極東ニ對スル經濟發展ニ關スル積極の方策ニツイテ全力の考慮ヲ払フベキコト

六、極東共和国内ニ在住スル帝國民諸子ハ吾人ト共ニ日本、極東共和国間ノ通商交渉ノ円満ナル進展ヲ希望シ現狀ノ推移ニ於テ徒ラニ恐慌危惧スル事ナク將來兩國國民ガ

ニ通牒シタルニ付同通牒ノ趣旨通報ノ件

歐一機密合第二〇一号

大連會議ニ關シ過般英米兩國政府へ別紙<sup>(註)</sup>寫ノ通り通牒致候ニ付御參考迄申進候也

註 別紙寫ヲ省略ス右ハ前出八六三文書ノ別電ト同趣旨ナリ

九〇二 九月十七日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本並極東共和国及勞農政府ノ三国代表者會  
議ヲ開催シタキ旨勞農政府外相ヨリ申出ノ件

合第一八号 (九月十七日接受)

十七日「ペトロフ」來訪勞農政府外相「チチェリン」ヨリ勞農政府ハ極東共和国ト日本トガ交渉ヲ開始シタルコトニ満足ノ意ヲ表スルモ尚三国間ニ協議スヘキ問題アルニ付此際三国代表者會議ヲ開催センコトヲ希望シ居ル旨並ニ勞農政府ハ亜細亞民族トノ親交ヲ欲スルモノニシテ華盛頓會議ニ代表者ヲ出シ得ルト否トニ拘ラズ「アングロ、サクソン」人種ノ圧迫ニ對シ亞細亞民族ヲ支持セントスルモノナル旨本官ヲ通シテ日本政府ニ伝ヘラレタシトノ電報ニ接シタルガ極東共和国政府モ全然之ト同意見ナリト述ヘタルニ

九〇一 当然友誼の關係ニ置カルベキ事ヲ考慮シ先ヅ慎重ナル態度ヲ以テ帝國政府ノ權威ト極東共和国ノ誠意ニ期待シ大連會議ノ成行ヲ注視セン事

九月十五日

九〇〇 九月十六日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ關シ極東日本記者団大会ニ於テ希望事項ヲ決議スル予定ノ旨報告ノ件

第四四三号 (九月十七日接受)

当地日本連合記者団ハ大連會議ニ關シ居留民側ノ意向ニ迎合スルコト無ク別ニ自己ノ立場ヨリ其所信ヲ發表シ置ク必要アリトノ趣意ヨリ九月二十一日当方面各地記者ノ參集ヲ促シ当日極東日本記者団大会ノ名ヲ以テ大要別電<sup>(註)</sup>希望事項ヲ決議發表スル筈ナリ

大連へ別電ト共ニ電報セリ

九〇一 九月十七日 内田外務大臣ヨリ  
在中國小幡公使  
在浦潮永井政務部長代理)宛各通

大連會議ニ對スル日本ノ態度ヲ英米兩國政府

付本官ハ第一ニ付テハ是迄屢々述べタル通日本政府ハ先ヅ近クシテ利害關係多キ極東共和国トノ關係ヲ定メ次テ遠キニ及バントスル考ニシテ一時ニ總テノ問題ヲ解決セントセバ却テ目的ヲ達成スル能ハザルベシト答ヘ第二ニ付テハ單ニ露國側ノ好意ニ對シ感謝ノ意ヲ表シ置キタリ

九〇三 九月二十日 内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

極東共和国提出ノ協約案ニ對スル我方對案ヲ  
先方ニ提示方及協約取極方ニ付訓令ノ件

別電一 同日内田外務大臣宛松島政務部長宛電報第二

三号

右我方對案中松島稟申案ト異ナル点ニ付説明

ノ件

二 同右電報第二四号

右我方對案

第二二二号(極秘)

貴官ハ別電第二四号對案ヲ先方ニ提示シ事情ニ応シ「コゼウニコフ」「ソーモフ」提案ヲモ引用シ右對案各条及左記ノ趣旨ニヨリ協約ヲ取極ムル様努メラルヘシ

左記

一、要塞設備ノ撤廃其他軍事事項ニ関シテ

「極東共和国政府ハ其領域沿岸ニ於ケル要塞ヲ撤廃シ且日本帝国ヲ脅威スルガ如キ軍事の措置ヲ為サザルコトヲ承認ス

前項記載ノ事項ニ関スル詳細ハ別協定ニ譲ルモノトス」トノ趣旨ニヨリ之ヲ文書ニヨリ誓約セシムルコトトシ差支ナシ但シ其際日本武官派遣ノ件ヲ合併セテ記載スルヲ要ス又前記軍事の措置ノ意義ニ付キ先方ヨリ質問アラバ請訓セラルヘシ

浦塩ヲ商港トシ貿易阻害ノ施設ヲ為サザルコトニ付テハ此ヲ協約中ニ規定スルヲ適當ト認ムルニヨリ對案第八条ノ趣旨ニヨリ規定方交渉セラルベシ若シ先方ニテ該条項ヲ協約中ニ記載スルコトニ強硬ナル反對ヲ為スニ於テハ貴官稟申ノ通り文書ヲ以テ誓約セシムルコトトスルモ差支ナシ

二、撤兵問題ニ付先方ヨリ我方ノ意思表示ヲ要求スル場合ニハ本協約成立セバ帝国政府累次ノ声明ニ係ハル滿鮮ニ對スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ對スル不安トガ除去

ル一切ノ貢納ヲ免ルヘキモノトス

(二)兩当事国国民ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ其法令ニ遵ヒ商業工業等ヲ営ム為メ会社並組合ヲ設立スルコトヲ得ト規定スルニ於テハ我方ニテハ異存ナキモ本協約中ニ此等事項ヲ規定スルハ繁雜ニ過グル嫌アルヲ以テ此等事項ハ通商細目取極ニ讓ルコトトシタシ尤モ先方ニ於テ強テ本協約中ニ規定スルコトヲ固執スルニ於テハ之ニ応ズルモ可ナリ

五、對案第十条ニ関シ「漁業協約改訂ノ際ニ從來漁業經營者ノ不便トセシ点ヲ削除シ且日露漁業者ニ有利ナルヘキ条項ヲ加入ス」ル旨並ニ右協約ノ改訂迄現行協約ノ効力ヲ明ニスル為メ「兩当事国ハ第十条所載ノ改訂協約又ハ暫行協定ノ実施ニ至ル迄日露漁業協約及同附屬議定書並ニ漁業權ニ関スル日露兩國間ノ取極ハ當然其効力ヲ持続スルモノナルコトヲ承認ス」ル旨ヲ文書ニヨリ我方ニ通告セシムル様取計ハルヘシ

六、日本人ヲシテ露国人ト同一条件ノ下ニ極東露領内一切産業上ノ權利ヲ享有セシムルノ利益ナルヤ勿論ニシテ對案第十一条ハ右ノ趣旨ニ依ルモノナルモ先方ニ於テハ露

セラルルヲ以テ自主的ニ沿海州ヨリノ撤兵ヲ実行スル旨先方ニ通告スルコトトシ差支ナシ

但撤兵ニ関スル必要ナル取極ハ軍事協定ニヨリ之ヲ定ムヘキコトヲ明ニスルト共ニ露西亜側ガ本協約ニ違反シタル場合ニハ帝国ハ自衛ノ為メ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトアルベキ旨併セテ通告スルヲ要ス

三、極東共和国ガ勞農政府ニ讓渡シタル地域ノ復旧ニ就テハ其内好機會ニ於テ先方ニ申入レ其態度ヲ探ラレタシ其結果或ハ勞農政府ト直接或ハ間接ニ交渉ヲ行フ必要ヲ生ズルヤモ知レズ

四、信教ノ自由、課税、会社等ノ設立ニ関スル事項(チタ案第七条十三条十五条)ハ

(一)兩当事国一方ノ国民ハ他ノ一方ノ領域ニ於テ其國法ニ遵ヒ信教ノ自由ヲ有ス

(二)兩当事国一方ノ領域内ニ在ル他ノ一方ノ国民ハ租税其他ノ公課ヲ負擔スベキモノトス但シ内国民又ハ第三国民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受クルコトナカルベシ

兩当事国一方ノ領域内ニ在ル他ノ一方ノ国民ハ民事、軍事其他ノ強制服役ヲ免レ且服役ノ代トシテ課セラル

國ノ現状ニ鑑ミ広汎ナル權利ヲ許スルニ於テハ有利ナル産業ハ凡テ外國人ニ壟斷セラルヘシトノ危懼ヲ懷クヤモ計リ難ク先方ノ立場ハ之ヲ諒トスヘキ点アルニ付先方ニ於テ同条ノ規定ヲ苛酷ニ過グトスル場合ニハ幾分ノ讓歩ハ致シ方ナカルベク例ヘハ鉾山ハ合併ニ拠ルトカ土地ニ就テハ所有權ヲ獲得ヲ斷念シ一定面積以內ニ付五、六十ヶ年以上ノ永租權ヲ認メシムルトカ林業鋳業等ニ使用スル勞働者ニ一定ノ制限ヲ附スルトカノ方法ニ依リ産業ノ開放ヲ認メシムルノ外ナカルベシト存セラルルニ付右含ミ置カレタシ又沿岸貿易ニ就テハ先方ニ強硬ナル反對アル場合ニハ漁業權ノ行使上從來認メラレタル沿岸貿易ヲ認メシムルト同時ニ其ノ以外ノ範圍ニ於テハ合併經營ヲ認メシムルコトトシタク且黒竜江等ノ航行權ニ就テハ規定ノ形式ヲ緩和シ「極東共和国政府ハ黒竜江及之ニ注流スル河川ヲ外國船舶ニ開放スル目的ヲ以テ本協約調印後直ニ關係國間ニ協定ヲ遂クベキコトヲ承認ス」トスルモ可ナルガ猶先方ニ於テ之ニ反對スル場合ニハ合併經營ヲ認メシムルコトトシタキニ付是亦含ミ置カレタシ

七、對案第十二条第一項ニ付北滿地方ニ於ケル我方ノ發展

ヲ阻礙セシメザランガ為メ「極東共和国領域ニ關スル限リ」ナル文字ヲ挿入セリ但シ右領域ニ關スル限リ條約等ニ基ク權利ノ尊重ハ相互的ト解シテ差支ナシ

八、對案第十二條第二項ノ既得權ニ付問題トナルベキハ「メルクーロフ」政權ヨリ獲得セル權利ナルベク右權利ヲ承認シ難シトスル齊多側ノ主張ハ先方立場ヨリスレバ無理ナラヌ次第二シテ又本件交渉ニ關スル閣議決定當時ノ精神モ前浦塩政權ニ關スルモノ迄ヲ含ム趣旨ナリシノミナラズ我方ニ於テ右權利ヲ強硬ニ支持スルニ於テハ恰モ此ノ種利權獲得ノ目的ヲ以テ「メルクーロフ」政權ヲ支持セルヤノ疑念ヲ齊多側並列國ニ与フルコトトナルベク隨テ概括的ニ「メ」政權トノ契約ヲ有効ナルモノトスルコトハ困難ナルヘシ但シ「メルクーロフ」政權ヨリ森林伐採權ヲ獲得セル日本人ノ多クハ払下期間ニ對スル全部ノ金額ヲ納付セズ單ニ一箇年ニ相當スル払下料ヲ納付シ居ル由ナルヲ以テ此ノ種森林伐採權ニ就テハ既ニ払下料ヲ納付セル分即チ一箇年間ハ該權利ヲ其ノ儘認メシメ殘余ノ期間ニ就テハ右ニ相當スル払下料ヲ齊多政府ニ納入スルヲ條件トシ同政府ヲシテ此ノ種權利ヲ認メシムル

一、前文ニ於テ本協約ガ予備協約ナルヲ明ニシタルコト  
二、對案第一條第二項ニ於テ取締方法ニ關スル細目ノ協定ヲナスコトヲ約シ「コゼ」「ソーモフ」ノ提議セル鮮露國境取締「ボシエツト」地方ニ於ケル鮮人居住ノ制限其他不逞鮮人ノ取締等ニ付テモ詳細ニ協議シ得ルノ余地ヲ存シタリ

三、第二條非共產の制度ノ維持ハ帝國ノ關スル限り自明ノ理ナルト共ニ我政體ニ關シスカル約定ヲ為スコトハ面白カラザルニ付右拘束ハ先方ノミニ限リ度キ意向ナリ  
四、貴官稟申案第四ニヨレハ居住營業ノ自由等ニ就テモ片務的トナルヲ以テ齊多案第三條ハ修正ヲ加ヘテ其儘殘スコトトシ貴案第四ノ産業制限撤廢等ハ門戸開放ノ適用ニ外ナラザルヲ以テ第十一條ニ一括規定セリ

五、第四條第五條第六條ニ内國民待遇又ハ最惠國待遇ヲ規定シ我方ノ不利益ヲ予防セリ

六、第六條ニ通商交通及航行自由ノ原則ヲ挿入シ齊多提案第十二條及第十九條ヲ一括規定セリ

七、第十條漁業協約ノ改竊ハ可成速ニ着手スルヲ我方ノ利益トスルヲ以テ本條ニ其趣旨ヲ明ニセリ（訓令第五參

ガ如キモ弁法カト思考ス但シ是等弁法ハ可成本交渉ニ關スル文書中ニ記載セザルヲ可トス

九、本協約ハ調印ト共に効力ヲ發生スヘキ規定ナルヲ以テ協約案協定済ノ上ハ直ニ政府ノ認諾ヲ求メラルヘク右認諾ヲ得ラレタル上調印スルモノトス

一〇、尼港事件善後問題ハ閣議決定ノ通り本協約交渉ヨリ之ヲ除外スルモノナルヲ以テ右ニ就キ誤解ヲ存セザル様協約中ニ記載セザルニ於テハ別ニ文書ノ交換ニ依リ之ヲ明カニスルヲ適當ト認ムルニ依リ右様取運バレタシ

以上

（別電一）

九月二十日内田外務大臣發松島政務部長宛電報第二三號  
極東共和国提案ニ對スル我方對案中松島稟申案ト異ナル点ニ付說明ノ件

第二三號（極秘）

齊多側提案ニ付貴電合第一二號意見ヲ參酌シテ修正ヲ加ヘ尚陸軍側ノ同意ヲモ得タル我方對案中貴官稟申案ト異ナル点ハ意義ノ明確ヲ期スル為メ並體裁ヲ整フル為メ修正ヲ加ヘタル箇所以外主トシテ左ノ通り

（照）

八、齊多提案第二十一條ニ「コンセッション」提供ヲ掲ゲタルハ我方交渉ノ方針ニ反ク次第ナリ依テ之ヲ削除シ産業及商業ニ關スル制限撤廢等一般原則ノ規定ヲ以テ之ニ代フルコトトセリ（訓令第六參照）

九、齊多政府カ正式承認ヲ得ザル間ハ提案第十七條ニ規定セル外交官ヲ交換スルヲ得ザルノミナラズ提案第八條ニ規定セル領事官ヲ交換スルコト面白カラズ故ニ對案第十、十三條ニ於テハ其名目ヲ改ム同條第二項及第四項ハ先方ヨリ多数ノ者カ前記官吏ノ名目ノ下ニ入國シ來ルコト好マシカラズ且此種官吏ニ宣傳等ノ不正行為ヲ為ス機會ヲ与ヘザル必要アルヲ以テ規定セルモノニシテ英露通商協約ニモ成例アリ

一〇、第十四條協約ノ効力存続期間ハ列國ノ正式承認迄トセルヲ正式條約締結迄ト改ム

一一、齊多案第二十六條ハ規定ノ要ナシ（以上）

（別電二）

九月二十日内田外務大臣發松島政務部長宛電報第二四號  
極東共和国提出ノ協約案ニ對スル日本側對案

第二四号（極秘）  
通商其他ニ関スル日本帝国政府及極東共和国間ノ協約（對案）

日本帝国政府及極東共和国政府ハ兩國國民間ノ平和的通商關係ヲ樹立シ且兩國ノ經濟關係ヲ發達セシムコトヲ欲シ又此レカ為メニハ將來兩國間ニ經濟上及政治上ノ關係ヲ規定スヘキ正式條約ノ締結セラルルニ至ル迄兩國政府間ニ予備協約ヲ締結スルノ必要アルヲ認メ茲ニ左記條項ヲ約定セリ

第一条 兩当事国ノ一方ハ他ノ一方ニ對シ敵對的行爲若ハ企圖ヲ為シ又ハ各自領域外ニ於テ對手国ニ對シ危害ヲ及ホスカ如キ何等ノ宣伝ヲ直接又ハ間接ニ行フコトナカルヘク且各自ノ領域内ニ於テ對手国ノ治安ヲ紊サムトスル各種ノ団体及機關ノ存在及行動ヲ防遏スルノ措置ヲ執ルヘシ前項ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル取締方法ハ本協約調印後速ニ兩國政府代表者間ニ之ヲ協定スヘキモノトス  
第二条 極東共和国政府ハ一九二一年三月二十二日齊多憲法制定會議ニ依リ議決セラレ且同政府ノ宣言セル非共產的制度ヲ其ノ全領域内ニ維持ス

及税関取扱ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ

第八条 極東共和国政府ハ浦潮ヲ純然タル商港トシ貿易ヲ阻害スルカ如キ施設ヲ為ササルコトヲ承認ス

第九条 兩当事国政府ハ兩当事国間ニ郵便電信關係ノ開始ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ

第十条 兩当事国政府ハ本協約調印後直ニ日露漁業協約ノ改訂又ハ一時之ニ代ルヘキ暫行協定ノ商議ヲ開始スヘシ

第十一条 極東共和国政府ハ門戸開放主義ヲ認メ日本帝國國民ニ對シ其ノ領域内ニ於テ鉱業、林業、農業其他ノ産業並商業ニ関シ從來外國人ニ加ヘラレタル制限ヲ撤廃シ將來ニ於テモ之ヲ加フルコトナカルヘク又土地ノ所有權及永租權ヲ許シ且沿岸貿易ノ自由ヲ承認ス

極東共和国ハ黑龍江ニ於ケル日本船舶ノ航行權ヲ承認シ且日本帝國政府カ關係國政府ノ同意ヲ得テ日本船舶ノ松花江ニ於ケル航行權ヲ取得スルコトニ異議ヲ有セス

第十二条 兩当事国政府ハ日本帝國政府ト日露西亞諸政府トノ間ニ締結セラレタル條約協約其他ノ約定ニ基ク權利ハ極東共和国領域ニ関スル限り互ニ之ヲ尊重スヘシ

第三条 兩当事国一方ノ國民ハ他ノ一方ノ國法ニ遵ヒ其ノ領域内ニ到リ旅行シ又ハ居住スルコトヲ得  
兩当事国一方ニ赴ク他ノ一方ノ國民ハ正規ノ官憲ニ依リ發給セラレタル旅券ヲ所持スルコトヲ要ス

第四条 兩当事国一方ノ領域内ニ居留スル他ノ一方ノ國民ハ其ノ生命身體ノ安全及財産ノ不可侵ニ付完全ナル保護ヲ享クヘク内國民又ハ第三國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトス

第五条 兩当事国一方ノ國民ハ他ノ一方ノ領域内ニ於テ支障ナク商業製造業産業生業及職業ニ従事スルコトヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ商業及製造業ニ付テハ内國民又ハ第三國民ニ比シ産業生業及職業ニ付テハ第三國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトス

第六条 兩当事国政府ハ相互ニ通商交通ノ自由並船舶航行ノ自由ヲ認メ且相互ニ他方ノ國民並船舶ニ對シ第三國ノ國民並船舶ニ比シ不利益ナル待遇ヲ与ヘサルモノトス

兩当事国政府ハ前項ノ趣旨ニ基キ通商交通及航海ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ

第七条 兩当事国政府ハ第六條第一項ノ主旨ニ依リ関税率

兩当事国ハ相互ニ兩國國民ノ既得權ヲ其ノ儘承認スヘシ  
第十三条 兩当事国政府ハ相互ニ其代表者及領事官ト等シキ職務ヲ執行シ且特權ヲ有スル官吏ヲ派遣スルコトヲ得

前項ノ派遣員及屬員ノ數並駐在地ニ関シテハ兩当事国政府間ニ於テ之ヲ協定スヘキモノトス

第一項ノ代表者及其ノ屬員ハ出入國及凡ユル通信ノ自由ヲ享有シ民事刑事ノ裁判權軍事其他ノ強制服役且服役ノ代トシテ課セラルル一切ノ貢納並國稅及地方稅ノ賦課逮捕及搜索ニ関スル免除ヲ享有ス

兩当事国政府ハ孰レモ自國ニ取リ好マシカラサル人物ニ對シ本條第一項ノ派遣員及其屬員トシテ入國スルコトヲ拒絕シ又ハ公共ノ利益若ハ安寧ノ為必要ト認ムルトキハ其ノ召還ヲ請求スルコトヲ得

第十四条 本協約ハ調印ト共ニ即時効力ヲ發生シ前文ニ予見スル正式條約締結ニ至ル迄引統効力ヲ有ス

第十五条 本協約ニ基キ締結セラルヘキ諸協定本協約附屬文書ハ本協約ノ追加約款トシテ本協約ト等シキ効力ヲ有スヘキモノトス

第十六条 本協約規定事項ニ関シ更ニ追加若ハ擴張ヲ要ス

ルモノアルトキハ兩当事国政府ハ協定ノ上本協約ノ追加約款ヲ締結スルコトヲ得ルモノトス

第十七条 本協約ハ日本語及露西亜語ヲ以テ之ヲ作製シ共ニ正文トス

九〇四 九月二十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛

大連会商ニ関スル浦潮国民議會決議及浦潮カ

ザック代表者會議宣言概訳送付ノ件

附屬書一 浦潮国民議會ノ決議文摘訳

二 浦潮カザック代表者會議宣言概訳

公第二〇一号 (九月二十六日接受)

大正十年九月二十日

在浦潮

總領事代理領事 渡辺 理恵(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大連会商ニ対スル浦潮国民議會及浦潮カザック會議ノ決議文摘報告ノ件

「メルクロフ」政權外交部長「コレスニコフ」ヨリ本月十九日附書簡ヲ以テ本官ニ送付シ来レル当地国民議會及「カ

ルルモノナルコトヲ宣言ス

本議會ハ馬賊其他ノ匪徒ノ襲撃防禦ノ為メ政府ガ日本軍ヨリ露国軍隊及人民用ノ武器受領ニ全力ヲ尽サンコトヲ要求ス吾人ヲ総テノ災惡ヨリ脱却セシメ得ルモノハ地方政權ヲ確定スベキ憲法會議ナリトノ首相ノ言ニ同感ノ意ヲ表シツッ本議會ハ次ノ議事日程ニ入レリ

(附屬書二)

浦潮カザック代表者會議宣言概訳(大正十年九月十五日會議)

四箇年ニ亘ル「ソヴェト」政權ノ統治ハ非民主非人道非国家的ニシテ露国ヲ滅亡ノ域ニ陥ラシメタリ露国民ノ大多数タル農民及「カザック」ハ極力共產主義ニ反抗シ到處反過激運動ハ勃発シアリ浦潮ニ於ケル「カザック」代表者會議ハ大連会商ヲ以テ日本ノ対「ソヴェト」露国トノ陰密交渉ノ開始ト認メ宣言スルコト左ノ如シ  
一、「チタ」政權ハ「モスコ」政權ノ支店のニシテ単ニ民主仮面者ニ外ナラザルヲ以テ「カザック」ハ之ヲ共產的政權ト認ム

二、大連会商ハ「モスコ」政權ノ對極東政策ノ部分的実行ヲ助クルモノナルガ故ニ抗議セザルヲ得ズ

ザック」代表者會議ノ大連会商ニ関スル決議宣言文概訳別紙ノ通り供貴覽候 敬具

追テ右ノ内カザック代表者會議ナルモノノ内容ハ別記ノ通り オレンブルグ、エニセイ、黒竜、ウラル、悉比利、ザバイカル、セミレチエンスク及烏蘇利等ノ避難民のカザック代表者ナルモノガ多数ヲ占メ居リ其代表權モ随テ疑ハシキモノアルハ勿論ニ有之尚右會議ハ本宣言ヲ当地領事団ノ参考迄同団議長ニ送付シ来リタル由ニ有之候間右御參考迄ニ申添候

(附屬書一)

大連会商ニ関スル浦潮国民議會決議文摘訳(九月十六日會議)

国民議會ハ首相ノ宣言中ニ指摘セル方針ハ地方将来ニ好果ヲ齎スモノト認ム之レト同時ニ大連会商ニ関スル首相ノ外交予想ニ対シテモ同感ニシテ本議會ハ該会商ハ「チタ」政權ノ侵略政策ヲ助長スルモノナルコト、同政權ノ努力ニ対シテハ当地方ニ於ケル總テノ国家主義者ガ反抗スルコト及「チタ」ガ極東ニ於ケル國民の運動ヲ压迫セントスル總テノ企圖ハ人民ノ後援ヲ有シ且ツ国家的並ニデモクラシーノ利益ヲ最後迄擁護スル沿黒竜国民議會ニヨリ適當評價セラ

三、「チタ」及「ソヴェト」政權ハ露国ノ民意ヲ表明スベキ国家的政權ト認メザルヲ以テ「カザック」ハ該政權ト締結セラレタル條約ヲ決シテ承認セズ

四、「カザック」ハ沿黒竜臨時政府ヲ当地方ニ於ケル唯一ノ政權ト認メ最後迄国事擁護ヲ期スルガ故ニ地方民ガ大連会商ヲ適當ニ評價シ国家的利益ノ擁護ニ全力ヲ傾注センコトヲ概ス

議長

|          |         |           |
|----------|---------|-----------|
| オレンブルグ   | カザック代表者 | エヌ、アニシモフ  |
| エニセイ     | カザック代表者 | ウエ、ドンチエニコ |
| 黒竜       | カザック代表者 | エヌ、コレネフ   |
| 悉比利      | カザック代表者 | ペ、プロヒン    |
| エニセイ     | カザック代表者 | エル、ボタニン   |
| 烏蘇里      | カザック代表者 | エヌ、ジブゼエフ  |
| ウラル      | カザック代表者 | エル、マルチノフ  |
| ザバイカル    | カザック代表者 | ウエ、ジミン    |
| セミレチエンスク | カザック代表者 | ウエ、ウシヤコフ  |

以上九名

九〇五 九月二十四日 尾野陸軍次官ヨリ

浦潮派遣軍參謀長宛（電報）

極東共和国トノ軍事上細部ノ協定ニ関シ指示ノ件

西三〇三電報

軍事上細部ノ協定ニ就キ左ノ件承知アリタシ

一、軍事上細部ノ協定ハ通商協約協定ノ見込立タハ直ニ此ノ交渉ニ移ルコト

二、軍事上細部ノ協定ハ撤兵実施ノ為ノ規約等單一ノ時ノモノト其他ノモノ（政策、外交等ニ關係アルモノ等）トニ區別シ後者ノ協議ニハ松島政務部長ヲ加ヘ且政府ノ承認ヲ經ルコト

三、軍事上細部ノ協定ニ關スル腹案成ラバ少クモ其要旨ヲ予メ電報アリタシ

九〇六 九月二十四日 極東日本記者大会ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

浦潮開催ノ極東日本記者大会ハ同大会ニ於テ決議セル大連會議ニ對スル希望事項ヲ外務大臣宛電報越ノ件

（九月二十五日接受）

極東日本記者大会ハ大連會議進行ノ機會ニ於テ對露政策ニ関シ次ノ希望事項ヲ決議ス

(一)吾人ハ現在大連ニ於テ行ハレツアル通商交渉ノ満足ナル進展ト成功ヲ希望ス

(二)日本ハ極東共和国トノ通商條約締結ニ際シ極東共和国ノ施政ガ現日本ノ國家生活ト相容レザル共產主義ヲ基礎トセズ日本ヲ脅威スルノ根拠タラシメザルノ保証ヲ確保スルコト

(三)吾人ハ極東ノ經濟關係ニ於テ機會均等主義ヲ原則トセル門戸開放ヲ主張ス

(四)帝國政府ハ極東ニ於ケル外國人ノ生命財産居住旅行通信等ニ關シ完全ナル保証ヲ獲得シ之ヲ擁護スル為メ適切ナル方法ヲ採ルコト

(五)帝國政府ハ通商條約締結ニ際シ極東露國民ノ間ニ出兵若クバ占領ノ惡印象ヲ殘サザランコトヲ信条トシ其後ノ經濟關係ハ荒廢シタル極東共和国ノ財政經濟狀態ノ回復及天与ノ富源開發ニ依リ日露兩國國民ニ利益ヲ齎スベキ親交的諒解ヲ以テスルコト

(六)帝國政府ハ通商條約締結ニ際シ該條約ノ趣旨ニ基キ帝國

合第二一號

（九月二十七日接受）

民ノ極東ニ於ケル經濟的發展ヲ期ス可キ積極の方策ニ關シ万全ナル考慮ヲ払フコト  
(a)薩哈連州問題ニ關シテハ此ノ際日露間ノ懸案ヲ一掃シ兩國國民ノ感情ヲ緊密ナラシムル為メ相互的諒解ノ下ニ速ニ根本解決ノ方法ヲ講ズルコト  
(b)極東露領ニアル帝國國民ハ吾人ト共ニ大連會議ノ満足ナル進展成功ヲ希望シ折角將來兩國國民ガ友誼の關係ニ置カル可キコトヲ考慮シ先ヅ慎重ナル態度ヲ以テ大連會議ノ成行ヲ注視スルコト

（大正十年九月二十一日極東日本記者大会）

九〇七 九月二十六日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

大連會議第十二回會議ニ於テ我方對案及附屬文書提示並日本軍撤去及尼港事件ノ問題ニ付我方立場ヲ説明ノ件

別電 同日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第二

二號

會議地ヲチタニ移轉シ度旨ノチタ側提案ニ付請訓ノ件

又我對案ヲ一読セラレナハ從來本會議ニ於テ審議セラレタル事項ヲ酌量シ居ルコトヲ了解セラルベク尚條文ノ數ヲ減ジタルハ齊多側提案中ノ或ル條文ハ不必要ナル為又數条ハ

通商航海條約ノ細目協定ニ讓ルヲ便宜ト思考シタルガ為ナリト説明シ我對案及附屬文書ヲ手交シタルニ「ペトロフ」ハ篤ト研究ノ上意見ヲ述フヘシト答ヘタリ

因テ本官ハ撤兵ニ関シテハ我對案中ニ何等条文ヲ設ケザル処本協約成立セバ帝國政府累次ノ声明ニ係ル滿鮮ニ對スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ對スル不安トハ除去セラルヲ以テ自主的ニ沿海州ヨリノ撤兵ヲ実行スヘク撤兵ニ關スル必要ナル取極ハ軍事協定ニ依リ之ヲ定メ得ヘキニ由リ此点ヲ御承知ノ上ニテ我對案ヲ審議セラレタシト述ヘタルニ「ペ」ハ尼港事件除外ニ關スル文書案ヲ見タル上極東共和国領域内ヨリ全部撤兵セラルルニ非ザレバ兩國ノ親善關係樹立ハ困難ナルベキニ付尼港事件モ此際解決シタク解決困難ナラバ先ツ撤兵セラレタル上徐々ニ解決ノ途ヲ講スルヲ可トスト云ヘルニ付本官ハ尼港事件ハ兩國ノミニテハ解決シ難キ問題ニアラズヤ若シ極東共和国該事件ニ關シ全責任ヲ負フナラバ日本政府ハ之カ商議ニ応ズベキモ是レ齊多政府ノ不能トスル所ナルベシサガレン州ヨリ撤兵シテ尼港事件ノ解決ヲ後日ニ讓ラバ貴國民ハ之ヲ喜ブベキモ老幼男女ノ區別ナク我居留民全部ヲ虐殺シタル事件ノ結果出動シ

タル我軍隊ヲ事件解決ヲ待タズシテ撤退スルガ如キコトアラバ日本國民ノ声ハ果シテ如何日本政府ハ到底斯カル措置ニ出ヅル能ハズ尚サガレン州駐兵ハ兩國親善關係樹立ニ障礙アリト謂フモ他ノ親善國間ニ於テモ各種ノ問題ニ關シ常ニ爭議シツツアリ故ニ尼港事件ノ解決ヲ後日ニ讓ルトモ兩國間ニ親善關係ヲ樹立シ得ザル理由ナシト信ズト述ヘタルニ「ペ」ハ日本軍ノ為ニ殺戮セラレタル露國老幼婦女ノ數ハ尼港ニ於テ斃レタル日本人ノ數ニ劣ラズ且ニ尼港事件ノ首魁ハ既ニ処罰セラレタルコトナレバ解決セラレタルモノト見テモ差支ナキヤノ口吻ヲ漏シタルヲ以テ本官ハ戰鬪ニ際シ流弾火災等ノ為婦女女子ノ犠牲トナリタルモノ多カルベキモ右ハ日本軍ガ故意ニ出デタルモノニ非ズ然ルニ尼港事件ニ於テハ露國軍ハ明カニ虐殺ノ意思ヲ有シタルモノナルニ付犠牲ノ大小ヲ以テ論ズベカラズ尚一二ノ首魁者ノ処罰ニ依リ問題解決セルヤニ解シ居ラルルモ例ヘハ日本軍カ極東露領ノ住民ヲ虐殺シタル場合ニ軍司令官及參謀長等一二ノ責任者ノ処罰ノミニ依リ貴國民ハ満足セララルル義ナリヤト反問シタルニ「ペ」ハ之ニハ答フルコトヲ避ケタリ尚「ペトロフ」ハサガレン州撤兵ヲ要求スル根拠トシテ大

正七年八月六日ノ帝國政府ノ宣言ヲ引用シタルニ付本官ハ尼港事件ハ客年ノ出来事ナルヲ注意シ尚日本ノ西北利駐兵ハ時局ノ變遷ニ伴ヒ出兵當時ト異ナル目的ヲ有スルニ至リタル事及之ニ關シテハ帝國政府ハ隨時宣言ヲ發シ居ルコトヲ述ヘタルニ「ペトロフ」ハ後ノ宣言ハ米國ノ認メザル所ナリト云ヘルニ付本官ハ是等宣言ハ當時聯合与國ニ通牒セラレタルモ何レモ異議ヲ挿マズ又聯合國出兵ノ結果生シタル鐵道委員會ニ今尚列國ノ委員参加シツツアルハ日本ノ駐兵ヲ承認スル確証ナリト反駁シ置キタリ終リニ「ペ」ハ會議ノ場所ニ關シ別電合第二二二號ノ通申出タリ

### (別電)

九月二十六日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第二二二號  
會議地ヲ大連ヨリチタニ移轉シタキ旨ノ極東共和国側提案ニ付  
請訓ノ件

### 合第二二二號

(九月二十七日接受)

往電合第二二一號會議ノ終リニ於テ「ペトロフ」ハ本國政府ノ訓令ニ依ルト前提シタル上齊多ト電信連絡思ハシカラス一週間以上ヲ要スルモノモアレバ第三者ノ故意ニ為ス邪

魔ニ依ルモノカ暗号ノ解読不能ノモノモアリ之ニテハ談判ヲ進捗セシムルコト困難ニ付會議ノ場所ヲ齊多ニ移シタク尚右移轉ニ依リ日本代表者ハ齊多ノ事情ヲ知ルノ便宜アルニ付之ニ同意セラルル様日本政府ヘ傳達アリタシト云ヘルニ付本官ハ齊多ニ移ラバ本官等ハ同様ノ困難ニ陥ルヘキニ付哈爾濱ニ移シ滿洲里迄特使ヲ出スコトトシテハ如何ト述ヘタルニ哈市ハ政治的關係複雜シ居ルヲ以テ好マシカラズ日本委員齊多ニ移ルトモ齊多滿洲里間ノ連絡ハ特ニ便宜ヲ供スヘク滿洲里ヨリ日本軍用電信ニ依ラバ可ナラズヤト云ヘルニ付滿洲里哈市間ニハ日本軍用線ナシト述ベタルニ然ラハ「ハバロフスク」經由浦潮ニ電報スルコトトセバ可ナラント云ヘルニ付哈府浦潮間ハ電報通ゼズ又齊多哈府間モ通信不便ナルヤニ聞クト答ヘタルニ何レニシテモ前半ハ日本領土内ニ於テ商議シタルヲ以テ後半ハ共和国領土内ニ於テ商議スルコトニ日本政府ニ於テ同意セラレンコトヲ望ムト云ヘリ

會議ノ場所ヲ齊多ニ移スハ先方ニ利益ニシテ当方ニ不利ナルコト勿論ニ付可成之ヲ拒絕シ哈爾濱ニ移スコト位ニハ同意シテ差支ナシト思考スルモ如何回答スヘキヤ御回訓アリ



九〇八 九月二十八日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議チタ側委員コゼウニコフ及アノーヒ  
ン政府ト連絡ノ為チタニ赴キタル旨報告ノ件

合第三三三號 (九月三十日接受)

「ペトロフ」一行着連以來当地會議ニ於ケル齊多側委員ハ  
「ペトロフ」「コゼウニコフ」「アノーヒン」ノ三名ナリシ  
ガ「アノーヒン」ハ九月十九日発哈爾濱經由齊多ニ直行  
「コゼウニコフ」ハ二十一日汽船ニテ天津ニ向ヒ家族ヲ山  
海關ニ残シ北京ニ立寄リタル後奉天經由齊多ニ赴ケリ「コ  
ゼ」出立ノ前日「ペトロフ」及「コゼ」ガ島田ニ内話セル  
所ニ依レバ齊多政府ハ日本委員ノ態度意向會議ノ模様等ヲ  
詳知セズ兎角強氣味ニテ事務進行上不便ナルニ付此際「コ  
ゼ」齊多ニ赴キ親シク実情並會議ニ依リテ得タル感想等ヲ  
政府員閣員等ニ報告セバ會議ノ円満進捗ヲ期スル上ニ資ス  
ル所大ナルベシト信ジ斯ク決行スルモノナリ「ペトロフ」  
「コゼ」間ノ意見ハ一致シ居リ此上特ニ「コゼ」ノ滞在ヲ  
必要トセズ寧ロ「コゼ」齊多ニ在リテ兩者相呼応シ行動ス

軍事上細部ノ協定ニ関スル腹案ハ西二五六ヲ以テ指示セラ  
レタル中央部ノ意向ヲ基礎トシテ立案セルモノニシテ其ノ  
大要ハ先ニ打合セラ了セシモノナリ(浦參特四〇及四八西  
二七〇参照)

#### 撤兵協定案

浦潮派遣軍司令官ハ其部下部隊ヲ撤去スルニ当リ極東共和  
国ト左ノ如ク協定ス

一、日本軍撤去ニ際シ其最終部隊ノ乗船終了迄極東共和国  
政府ハ日本軍憲ノ承認ナクシテ新ニ其所屬武装団隊(民  
警ヲ含ム)ヲ「イマン」地区以南烏蘇里鐵道幹線及同支  
線ノ兩側約三〇吉米以内ノ地区ニ侵入セシムルコトナシ  
或ハ

日本軍蘇城「ウゴリナヤ」ノ線以南地区ニ集合スル迄ハ  
上記ノ線以内ニ続イテ乗船終了迄ハ尼市以内「カンガウ  
ス」以西ノ地区ニ侵入セシムルコトナシ

二、「バルチザン」其他ノ匪徒ノ行動ニシテ日本軍ノ撤去  
ニ影響ヲ及ホスカ如キ場合ニ於テハ日本軍ハ撤去ニ関ス  
ル行動ヲ変更スルコトアルヘシ

三、通商ニ関スル協約(不明)軍事ニ関スル条項ニ基キ左

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九〇九

ルヲ可トス尚「コゼ」ハ再び來連スルヤモ計ラレズトノコ  
トナリ斯クテ二十六日ノ會議ニハ齊多側ハ「ペトロフ」ノ  
外法律顧問「ボンチ、オスモロフスキー」書記官「ガガー  
リン」出席シタルノミ從來出席シ居タル婦人速記者ハ二十  
一日「コゼ」ニ同行北京ニ赴キ爾來會議ニハ速記者出席セ  
ズ

他方「ユーリン」ハ「ペトロフ」ニ事務引繼以來書記ト共  
ニ星ヶ浦大和ホテルニ移転シ會議ニハ干与セズ内密米國、  
支那側ト接觸ヲ保チツアルモノノ如クナリシガ前記「コ  
ゼ」ノ北京立寄ノ結果北京行ノ時機熟シタルモノト判定シ  
タル為カ「ユ」ハ二十七日汽船ニテ当地出發天津經由北京  
ニ赴ケリ二十四日彼ハ本官ヲ來訪シ日本側對案ヲ見タル上  
近ク北京ニ赴ク由語リ居タリ

九〇九 九月二十八日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ  
尾野陸軍次官宛(電報)

日本軍撤去協定案及軍事上細部協定案ニ付報

告ノ件

浦參特七二 極秘 (九月三十日外務省寫接受)

西三〇三了承

ノ如ク協定ス(本項ハ為シ得レハ基礎協定中ニ入ルル意  
見)

イ、浦潮要塞ハ日本軍之カ裝備ヲ撤去スヘク極東共和国  
之ヲ廢棄開放シ爾後何等ノ補修又ハ施設ヲ為サザルコ  
ト

ロ、極東共和国ハ將來日本海沿岸及朝鮮國境ニ於テ總テ  
ノ陸海軍施設ヲ為サザルコト

ハ、極東共和国ハ綏芬河口露支國境N号界標(大正八年  
陸地測量部製版「バラバシ」西北約八里)ヲ貫タル線  
以南ノ地区ニ一定數(註、數ハ交渉員ノ手心ニ一任ス  
ルモ約四百ヲ基準トス)ノ民警ノ他一切ノ武装団隊ヲ  
駐劄セシムルコトナシ

但シ不逞団掃討等ノ為自衛上必要ナル時ハ予メ日本側  
ノ承認ヲ得タル後期間ヲ限り武装団體ヲ行動セシムル  
コトヲ得

四、日本軍ハ朝鮮國境地方ノ露領ニ隨時軍隊ヲ派遣スルノ  
權利ヲ保留ス

五、日本軍ハ其極東共和国内鐵道ニ施シタル既設ノ作業設  
備及架設セル電線ヲ現状ノ儘無償ニテ露國側ニ交附ス但

シ此等諸作業ノ為露国側ヨリ提供セル材料及其代金ヲ露国側ヨリ請求セサルモノトス

六、押収物件中其不正使用カ内外人ニ対シ危害ヲ及ホス如キ憂アリト認ムルモノハ日本軍ニテ破棄又ハ没収ス

七、在「ルスキー」島無線電信所ノ施設ハ現在ノ儘当分ノ内日本軍其ノ使用ヲ繼續シ現在協定ノ範圍内ニ於テ露国側ノ使用ヲ許ス

八、日本軍憲ハ依然其武官ヲ齊多、浦潮、尼市、哈府及武市等ニ位置セシム可ク極東共和国ハ常ニ之ヲ保護シ且ツ其通信ノ自由確保ヲ保証スルモノトス

備考

浦潮半島ノ兵數ハ銃數千四百ヲ基準トシ成ル可ク少キヲ要求ス

宛先 陸軍次官 写參謀次長

九一〇 九月二十九日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本側對案ニ對スル極東共和国側反應ニ付ペ  
トロフノ内話報告ノ件

合第二四号 (九月二十九日接受)

九月二十九日「ベトロフ」ガ島田ニ内話セル所左ノ通

今回日本側提出ノ對案ハ二十七日特使ヲ以テ齊多ニ送付セリ余ノ考ニテハ十七ヶ条ノ分ハサシテ面倒ナカルベキモ三通ノ附屬文書就中軍備撤廢ノ件ハ甚シク齊多側ノ神經ヲ刺戟セリ右附屬文書ニ付テハ齊多政府部内ニ於テ必然熱烈ナル論議アルベシト信ズ又漁業問題ニ付テハ勞農政府代表者ノ参加ヲ必要トス斯クテ日本側對案ニ對スル齊多政府ノ回答ハ二週間乃至三週間後ニアラザレバ来ラザルベシト思考ス然レドモ自分一己トシテハ齊多側ヨリ多少ノ訂正ヲ申出デ結局ノ処本協定ノ成立ヲ見ルベシト觀察シ尚望ミヲ屬シ居レリ從來自分ハ日本及日本人ニ對シ誤レル觀念ヲ有シ寧ロ支那人ニ近キモノカト考ヘ居タルニ今回ノ來連並過日來当地ニ於ケル滿鉄諸般ノ施設、製造工業、風俗習慣等ヲ親シク視察シタル結果始メテ日本人ヲ了解セリ余ニ於テ然リ況ンヤ齊多政府部内ニ於テオヤ此ノ意味ヨリスルモ此ノ際日本側委員ニシテ齊多行ヲ応諾シ直接政府ト交渉セラルルコトハ話ノ進行並成立ヲ迅速ナラシムルニ必要ナリ是非會議地ヲ齊多ニ移サレタシ兎モ角此ノ際極東共和国ノ為ノミナラズ更ニ広ク露国ニ關スル問題ヲ解決スル為本會議ヲ利

用スル様致シタシ尚波蘭、ルーマニア兩國ガ仏蘭西ノ指図ニ依リ勞農政府ニ對シ最後通牒の通知ヲ發セルガ右ハ単ニ文書ノ往來ニ過ギズ何等實際上ノ價值アルモノニアラズ云々ト

九一一 九月三十日 内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

極東共和国側ノ會議地チタ移轉方ニ關スル提  
案ニ贊成シ難キ旨回訓ノ件

第二九号

貴電合第二二二号ニ關シ會議ノ場所ヲ齊多ニ移スコトハ諸般ノ關係上好マシカラズ又哈爾濱ハ先方意見ノ通り適當ノ場所ト認メ難ク尚又會議ノ場所ヲ何レニ變更スルモ通信ノ困難ハ彼我孰レカノ一方之ヲ負担スルノ外ナキニヨリ右ノ事情ハ交渉地点變更ノ理由トナスニ足ラズ依テ貴官ハ前記ノ次第ヲ説示スルト共ニ通信連絡ノ方法ニ付我方ニ於テ何等便宜ヲ供与シ得ルコトアラバ(例ヘバ公主嶺ノ我無線電信所ト齊多無線電信所ノ連絡ヲ計ルガ如キ)之ニ応ズベキ旨ヲモ説述シ先方ヲシテ通信方法ニ付更ニ講究ヲ加ヘシムル様致シタシ

尚貴電合第二二二号ニヨレバ我對案第五條中ニ勞働ヲ附加セラレタル趣ナルガ当方ニ於テハ第三國ニ對スル關係ヲモ顧慮シ特ニ之ヲ削除シタル次第ニ付適當ノ機會ニ於テ訂正方取計ハルベシ

九一二 九月三十日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

沿海州國民議會ニ於テ大連會議ニ反對ノ決議  
採択ノ件

第四五六号

(九月三十日接受)

当地國民議會ニ於テハ過日來大連會議ニ關シ討論中ナリシガ農民黨一部ノ提案タル「大連會議ハ日露親善策ノ第一歩ト認ムベキモノナルヲ以テ其成功ヲ歡迎ス但シ其締結協約ハ露國人民ノ利益ヲ害シ同時ニ之ヲ以テ各種政黨政黨派ノ勢力増殖ニ利用セシムベカラズ」ト民主同盟黨ノ提案タル「列國ヨリ承認セラルベキ全露政權ノ出現迄ハ如何ナル露國政權ト雖モ露國人民ノ利害問題ニ關シ外國ト交渉ヲ開始スルヲ得ズ故ニ何等此種ノ協約等ノ締結セラレタル場合他州人民ハ之ヲ遵奉スルノ義務無ク殊ニ沿海州内ノ利益ニ關係アル問題ハ同政權ノ同意ト其國民議會ノ協賛無キ限り有

効ト認メズ依テ沿海州国民議會ハ大連會議ニ抗議ス」トノ  
二案ニ関シ九月二十八日最後ノ討論アリ投票ノ結果「エス  
・エル」党及前顯農民派ノ一部ハ十一ニ対スル五十八ノ反  
對ニテ敗レ民主同盟黨案多數ニテ可決セラレタリ  
右大連ヘ転電セリ

九一三 九月三十日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛

大連會議ニ於テ我方提案ノ通商其他ニ関スル  
協約案ノ字句ニ付報告ノ件

機密第三号

（十月五日接受）

大正十年九月三十日

大連出張先

浦潮派遣軍政務部長 松島 肇（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

通商其他ニ関スル日本国及極東共和国間協約案ノ件

曩ニ電報ヲ以テ御回示相成候協約案中

（一）露語ニ翻訳ノ都合上變更シタル字句及

（二）修正ヲ可ト信ジテ附加シタル字句左記ノ通ニ候条御諒知  
相成度此段及稟申候 敬具

（以上）

九一四 十月二日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

會議地ノチタ移転ニ賛同シ難キ旨ペトロフニ  
伝ヘタルニ対シ同氏ハ大連會議中止ノ旨答ヘ  
タル趣報告及請訓ノ件

合第二五号（至急）

（十月三日接受）

大臣來電第二九号ノ次第十月二日島田副領事ヲシテ「ペト  
ロフ」ニ回答セシメタルニ同人ハ會議地ヲ齊多ニ移ス件ニ  
関スル齊多政府ノ申出ハ頗ル強固ナルモノニシテ日本側ニ  
シテ之ニ応セラレザルニ於テハ自分ハ当地ニ於ケル會議ヲ  
中止シ來ル五日頃当地齊多ニ向フベシ彼ノ地ニ着スルハ  
十日頃ニシテ夫レヨリ日本側對案ノ研究ヲ為シ二十日頃ニ  
ハ何分ノ儀判明スヘキカト思ハル齊多内閣ハ「ニキフオロ  
フ」總理国内旅行中ナルト副總理タル自分当地出張中ナル  
トノ為政務ノ進行意ノ如クナラズ加之日本側ニ於テ我方申  
出ノ如ク通商仮条約締結ト同時ニ撤兵ニ関スル協定ヲモ締  
結セラルルニ於テハ話ノ進行容易ナルヘキモ撤兵ニ関スル  
何等ノ保障ヲモ与ヘラレズ其ノ上武備撤廢ニ関シ日本側ヨ

記

- (イ) 第三条第一項及第二項ノ「国民」ヲ「臣民又ハ人民」ニ改ム
- (ロ) 第四条「国民」ヲ「臣民又ハ人民」ニ「内国民又ハ第三国民」ヲ「内国臣民又ハ人民若ハ第三国ノ臣民又ハ人民」ニ改ム
- (ハ) 第五条「国民」ヲ「臣民又ハ人民」ニ「内国民又ハ第三国民」ヲ「内国臣民又ハ人民若ハ第三国ノ臣民又ハ人民」ニ「第三国民」ヲ「第三国ノ臣民又ハ人民」ニ改ム
- (ニ) 第六条ノ「国民」(一ヶ所)ヲ「臣民又ハ人民」ニ改ム
- (ホ) 第十一条「日本国国民」ヲ「日本国臣民」ニ改ム
- (ヘ) 第十二条「両国国民」ヲ「両国臣民又ハ人民」ニ改ム
- (コ) 第三条第二項「一方ニ赴ク」ヲ「一方ノ領域内ニ赴ク」ニ改ム
- (ロ) 第五条「産業生業及職業」(一ヶ所)ヲ「産業職業生業及労働」ニ改ム
- (ハ) 第十条「暫行協定ノ」ノ次ニ「締結ノ為」ヲ加フ
- (ニ) 第十三条第三項「代表者及」ノ次ニ「官吏並」ヲ加フ

リ強硬ナル申出アルハ齊多側ノ大ニ苦痛トスル所ナリ公主嶺齊多間無線電信ニ関シテハ実況上不能ナリト思考スト述ベ尚對案第五条ノ「労働」ナル字句削除ノ件可然申入レシメタルニ「ペトロフ」ハ之ヲ承諾シ最後ニ彼ハ十七ヶ条ノ分ハ大体妥当ナルモ三個ノ附属文書ハ若シ之ヲ諸外国ニ示サンカ随分非難アルヘシト思考スト云ヘリ「ペトロフ」ハ會議ノ場所ヲ齊多ニ移スコトニ関シ或ハ政府ノ訓令ヲ云々シ或ハ齊多ニ於ケル政務ノ進行ヲ云々スルモ其ノ実ハ留守中ニ於ケル齊多政情ノ變化ニ依リ自己ノ地位ニ動揺ヲ來サシコトヲ恐レタルカ若クハ齊多帰還談判中止ヲ以テ我方ヲ威嚇セントスルモノナルカ二者其ノ一ナリト思考セラル就テハ若シ「ペトロフ」ニシテ正式代表者ヲ当地ニ殘サズシテ齊多ニ去ル場合ニハ当方モ浦潮ニ引揚グル旨通告ノ上引揚グルカ若クハ同人又ハ他ノ代表者ノ來連ヲ待チ居ル旨通告スルカ何レカノ途ニ出ヅルノ外ナシト思料セラル本官ノ執ルヘキ行動ニ関シ至急何分ノ御回訓ヲ請フ

九一五 十月三日

在ハルビン丸田總領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議ニ関シコセウニコフガダリタ通信員

二語リタル感想報告ノ件

第二一六号

(十月四日接受)

「コゼウニコフ」ガ「ダリタ」通信員ニ対シ大連会商ニ関シ語ル所左ノ通

(一)日露代表ハ極メテ事務的ニ真面目ニシテ誠意アリ双方完全ナル諒解アリ

(二)日本人ノ齊多代表ニ対スル待遇ハ新興國民間ノ關係ノ如ク良好ナリ

(三)日本官邸ニ於テハ即時撤兵シ極東共和国及「ソヴェエト」露国ト同時ニ協約ヲ締結スベシト云フモノト駐兵ヲ継続シ日本ニ有利ナル条件ニテ先ヅ齊多ト協約ヲ結ブベシトスルモノトノ間ニ激闘行ハレ居レリ

(四)日本民衆ハ穩健ニシテ結局勝利ヲ得撤兵及日露兩國民相互ニ有利ナル條約締結ヲスルニ到ルベシ

(五)三笠ノ遭難ハ日本國民ヲシテ出兵継続ノ不利益ナルコト及露國民ノ憎惡ヲ増スコトヲ信ズルニ到ラシメタリ

(六)兎ニ角大連會議ハ日露兩國ノ利益並極東平和ヲ促進スルニ最時機ニ適シタルモノナリ

松島政務部長ニ転電セリ(長春中継大正十年十月三日)

ヲ採ラシメントスル次第ナル旨並ニ極東共和国カ旧露國政府ノ軍國の施設ヲ繼承スルコトナク軍備ヲ制限シ以テ国内産業ノ發達ニ全力ヲ尽スハ同國ノ急務ニ属スルノミナラズ日本其他ノ列國ニ与フル感觸亦極メテ良好ナルヘキ所以ヲ説述セラレ

尚又通信ニ就テハ往電第二九号所載ノ通り我方ニテハ出来得ル限りノ便宜ヲ供与セントスルモノナルニヨリ右ニ就キ何等歎希望アレバ腹藏ナク申出ヅル様重ネテ説示セラレ我方ガ誠意以テ交渉ニ当リツツアル旨ヲ明ニセラルベシ然ル上猶先方ニ於テ會議地ノ變更又ハ會議ノ中止ヲ主張スルニ於テハ貴官ハ本交渉ハ元來齊多側ノ希望ニ応ジテ開催シ會議地ノ如キモ既ニ同意ヲ得テ開始セラレタルモノニシテ我方ニ於テハ誠意ヲ以テ交渉ニ当リ居ルニ拘ラズ先方ニ於テ充分ノ理由ナク通信困難等ニ言ヲ托シ會議ノ中止ヲ申出ヅルニ於テハ我方ニテモ之ニ応ズルノ外ナキモ右責任ハ全然チタ側ニ存在スル旨ヲ声明セラレタシ

九一七 十月六日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ対スル極東共和国代表者變更ノ可

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九二七

九一六 十月四日

内田外務大臣ヨリ

松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

撤兵要塞撤廢會議地變更等ノ問題ニ付我方ノ態度ヲペトロフニ説示スル様回訓ノ件

第三〇号

一、貴電合第二五号ニ関シ

撤兵ニ就テハ往電第二二号訓令第二所載ノ通り文書ヲ以テ先方ニ通告スルコトトシ差支ナク又協約成立ノ見込附ク時ハ直ニ撤兵實施ニ関スル細目ノ取極ニ入り右ハ協約ト同時ニ調印スルコトスルモ差支ヘナキノミナラズ取極成立ノ上ハ速ニ撤兵ヲ實行スル方針ナルヲ以テ貴官ハ右ニ関シ先方ニ誤解ナキ様説示セラルベク

要塞撤廢ニ関シテハ既ニ客年三月勞農政府ヨリノ伝達トシテ同政府代表者「ウィレンスキー」ヨリ松平政務部長宛送附セル覚書(歐一機密第二二二号往信参照)ニモ記載シアリ又過般「コゼ」「ソーモフ」提案中ニモ浦塩ノ要塞撤廢及朝鮮國境ニ軍隊ヲ駐メザルコトノ項目アリ從テ我方ニテハ露國側軍備制限ハ先方政策ノ一部ト解シ居リ尚露國人ノ体面ヲ顧慮シ浦塩要塞破壊モ先方ヨリ自主的ニ之ヲ為ス形式

能性ニ付報告ノ件

第二五号

知多ニ於テ実權ヲ握リ居ル者ハ勞農政府ノ手先タル「ヤンソン」ニシテ外務省其他ニ自己ノ腹心ヲ任命シ「ユーリン」「コゼウニコフ」ノ失脚ハ既定ノ事実ニシテ「ペトロフ」ノ地位モ危シトノコトナルニ付會議ヲ知多ニ移シ勞農ノ代表者ヲモ参加セシメントスル知多側ノ主張ハ「ヤンソン」ノ差金ナルベシ故ニ會議ノ場所變更問題ニ於テ知多側讓歩スルモノトセバ「ペトロフ」ニ代ユルニ他人ヲ以テスルヤモ計ラレズ「ユーリン」ニ代リテ対支交渉ニ当ルベキ「シエイマン」既ニ莫斯科ヨリ知多ニ到着セリトノコトナレバ或ハ同人ノ來連ヲ見ルヤモ知レズ

九一八 十月六日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

撤兵會議地變更及尼港事件取扱方ノ問題ニ関シペトロフトノ折衝經過報告並請訓ノ件

合第二六号

大臣來電第三〇号ニ関シ十月五日島田副領事帶同「ペトロフ」ヲ往訪シ撤兵問題ニ関シ島田ニ語ラレタル所ヨリ見ル

九一八

ニ本官ガ是迄屢次説明シタル帝國政府ノ意向ハ今尙充分ニ諒解セラレザル様想像セラルルニ付改メテ釈明ヲ求ムル為來訪シタリト前提シ從來本官ハ屢々「商議中ノ日本国及極東共和国間ノ協約成立セバ滿鮮ニ對スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ對スル不安トガ除去セラルルヲ以テ日本政府ハ自主的ニ沿海州ヨリ撤兵スベシ」ト言明シ置キタルヲ以テ撤兵ニ関スル帝國政府ノ意向ハ明白ナルニ拘ラス日本ハ撤兵ニ関スル保障ヲ与ヘズト思惟セラルルハ甚ダ不思議ナリト述ベタルニ「ペ」ハ御説明ハ之ヲ了解セリ又日本代表者ノ責任アル言明ヲ疑フモノニハ非ザルモ撤兵ニ関シ何等ノ文書無キトキハ明瞭ヲ缺クニ付文書ヲ以テ御説明ノ次第ヲ言明セラルルナラバ幸ナリト謂ヘルニ付本官ハ我方ノ声明ヲ更ニ文書ヲ以テセバ満足スベシトノコトナラバ文書ヲ以テスルヲ得ベシト答ヘ置キタリ依テ本官ハ前掲ノ言明ニ「撤兵実施ニ関スル細目ハ軍事協定ニ依リ之ヲ定ムベシ本協約成立後露西亞側ガ之ニ違反シタル場合ニハ帝國ハ自衛ノ為必要ト認ムル措置ヲ採ルコトアルベシ」ヲ加ヘタル文書ヲ追テ適當ノ機會ニ於テ先方ニ送ルコトスベシ

置キタルモ当地ニ於テ齊多代表者ノ感ズル通信上ノ不便ハ齊多ニ於ケル日本代表者ノ感ズル不便ヨリモ大ナルニ付會議ノ場所移転ニ同意セラルル様重ネテ日本政府ニ申入レラレタシ（本官ハ其ノ然ラザル所以ヲ説明シ大連說ニ賛成スル様齊多ヘ申送ラレタシト答ヘ置キタリ）次ニ極東共和国ハサガレン州ノ撤兵問題モ此ノ際解決シ度キ考ナルヲ以テサガレン駐兵ト尼港事件ト関連スルモノトセバ本會議ニ於テ尼港事件ヲ審議スルコトヲ欲ス日本提案ノ如ク尼港事件ヲ全然除外スルコトニハ同意シ難シト言ヘルニ付本官ハ當方ニ於テハ尼港事件ハ極東共和国成立以前ニ發生シタルヲ以テ同共和国ハ同事件ニ對シ全責任ヲ負フ能ハズ從テ本件ハ兩國間代表者ノ會議ニ於テ審議スルヲ得ズト思惟シ我方ノ提案ヲ起草シタリ若シ極東共和国ニシテ全責任ヲ負フモノトセバ日本政府ハ尼港事件ノ審議ヲ拒絶スルモノニハ非ザルベシ尤モ同伴ヲ審議スルモノトセバ多大ノ時日ト勞力トヲ要スベク之ガ為特別委員會ヲ設クルノ要アルニ付之ヲ後日ニ讓ルコトトシ其意味ヲ文書ニ認メ速ニ本協約ヲ成立セシムル方然ルベシト述ベタルニ「ペ」ハ齊多政府ハ尼港事件ニ関シ倫理的責任ハ之ヲ負フ能ハザルモ若シ全責任ヲ

政府ノ主張ノ理由ハ

- (一)通信ノ困難（今回ハ中間ニ於テ何者カ故意ニ電文ニ変更ヲ加フルコト及米国探訪局其ノ他ガ暗号ヲ窃ムコトニ重キヲ置キタリ）
- (二)第三国例ヘバ勞農政府代表者ヲ會議ニ加フル場合ノ便宜
- (三)尼港事件除外及要塞撤廃等予期セザリシ事項ニ付齊多當局ト熟議ノ必要等モアルニ付日本政府ニ於テ會議ノ場所變更ニ承諾ヲ与ヘラレンコトヲ望ムト言ヘルニ付本官ハ
- (一)日本政府ノ對案ニ依レバ第三国ノ参加ヲ要セズ
- (二)尼港事件除外ニ付キテモ既ニ久シキ以前ニ説明ヲ加ヘ置キタリ要塞撤廃ハ露西亞側政策ノ實現ニシテ予期セザル事項ニ非ズ極東共和国ガ自主的ニ之ヲ為ス形式ヲ採ルニ於テハ毫モ差支ヘナカル可シ（貴電第三〇号本件ニ関スル説明ハ詳細之ヲ為シタリ）
- (三)通信ノ困難ハ何人カ之ヲ負担セザル可カラズ東京齊多ノ中間ニ位スル大連ニ於テ會議ヲ開キタル以上此ノ儘継続スルヲ可トスト述ベタルニ「ペ」ハ要塞撤廃ヲ自主的ノ形式トセバ齊多政府ハ別ニ異存ナカル可シト言ヒ會議ノ場所移転ニ付テハ日本政府ニ於テ反對シ居ル旨一応齊多ヘ電報シ

負フト云フコトガ結局賠償問題ニ歸スルモノトセバ問題ノ解決ハ難事ニ非ザルベシ歴史の事實ノ調査ノ如キハ今次其必要ナカルベキニ付本會議ニ於テ審議スル為日本政府ノ提案アランコトヲ希望スト云ヘルニ付日本政府ハ始メヨリ本件ハ本會議ノ議題タルヲ得ザル性質ノモノト思考シタルヲ以テ本官ハ今直ニ本件ヲ審議スルノ準備ヲ有セズ又本件ヲ審議スルモノトセバ日本政府ハ特別委員ヲ設ケテ慎重ニ考慮スルノ必要アリテ短日月ノ間ニ抄ルコト能ハザルベキニ付後日ノ交渉ニ讓ルヲ可トスト答ヘタル処「ペ」ハ何等カノ形式ニ於テ本會議ニ於テ解決セシメ得ベキモノト思考スルニ付何レ案ヲ具シテ正式會議ノ際提出スベシト頑張りタリ依テ本官ハ尼港事件ガ全部解決セザル限り日本ハ「サガレン」州ヨリ撤兵シ得ザルモノナルコトヲ御含ミアリタシト念ヲ押シ置キタリ

此際尼港事件ヲ議題トスルコトノ我ニ取リ不利益ナルハ勿論ニ付今後共後日ニ讓ルコトニ努力スベキモ先方ニ於テ主張ヲ固持シテ下ラズ且先方提案ニシテ相当地由アル場合ニ對シテ本官ノ執ルベキ態度御回訓相成ル様致度シ

九一九 十月八日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

尼港事件解決ニ付チタ側ノ申出アル場合ノ措

置振回訓ノ件

第三一號

貴電合第二六号ニ関シ齊多側ヨリ尼港事件解決方法ニ付具体的ノ申出テアル場合ニハ一応日本政府ニ取次クヘシトノ旨ヲ以テ之ヲ受理セラレ差支ヘナシ

九二〇 十月八日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ユーリンノ北京滞在中ノ動靜

報告ノ件

第六七一號

(十月九日接受)

貴電第四九九号ニ関シ

「ユーリン」ハ九月二十八日当地着十月一日日本使ヲ来訪セルニ付本使ハ外交総長方同人ト面接スルヲ避ケ居ル旨耳ニセルガ事実ナリヤト尋ネタル処同人ハ決シテ右ノ如キ事ナク面会ヲ為シタル旨ヲ語リ尚大連會議ニ関シ同地ハ齊多トノ交通ノ便甚ダ悪ク不便ナルニ付會議地ハ之ヲ齊多ニ移ス

九二一

コトヲ切望スサスレバ日本ヨリ提議セル黒竜江航行問題等各項ハ必ズシモ折合ハザルコト無キ筈ナリト述ベ又同人ハ不日離京スベキモ其後ハ「アガレフ」万事代理スベキ旨語リタリ

当地新聞紙ノ所報ニ拠レバ「ユーリン」東京支那当局ト交渉ノ結果齊多特使「グレー」抑留事件ハ解決ヲ告ゲ今後支那官憲ハ齊多政府ノ公文ヲ差押ヘザル保証ヲ与ヘ通商問題ニ就キテモ改メテ何等基礎的協議ヲ為シタル模様ナルモ此点ハ確メタル上追報スベシ

「ユーリン」ハ一応ノ用事ヲ終リ十月六日当地出發哈爾濱經由齊多ニ向ヘリ

奉天、哈爾濱、大連へ転電セリ

(奉天中継十月八日後一一、二〇)

九二一 十月九日

在ハルビン丸田総領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国外相ユーリンガ大連會議等ニ関シ  
ダルト通信員ニ対シ為セル談話報告ノ件

第二二〇号

(十月九日接受)

「ユーリン」ハ八日「ダルト」通信員ニ対スル談話ニ於テ

「チタ」政府ハ華府會議參列權ヲ得ル為奮闘スベク大連會議ハ兩國国民ガ親交ヲ欲スル念慮ヨリ發シタルモノニシテ政府ガ若シ国民ト志ヲ一ニセバ本會議ハ成功スベク吾人ハ旧怨ヲ忍ンデ談判開始ヲ言ヒ出シ日本政府モ之ヲ承諾シタルガ其誠意ハ不充分ニシテ未ダ撤兵ニモ從事セズ若シ談判ニ大障礙タル撤兵サヘ解決セバ談判ハ進捗シ速ニ終了スベシ支那トノ關係ハ既ニ事務的トナリ在北京「チタ」代表ハ通商條約ノ準備ニ着手シ又松黒両江問題ニ関シテハ「チタ」側ハ委員ノ任命ヲ終リ不日談判地ニ向フベシ蒙古ヨリ「チタ」政府軍撤退ハ既ニ發令済ニシテ近ク滿洲里ニ於テ兩國代表者ノ交渉開始セラルベシ云々ト言ヘリ

九二二 十月十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ペトロフヨリ會議地ノ滿洲里移転及勞農政府

ノ會議參加問題並サガレン州ニ於ケル施政ニ

関シ申出デタルニ付請訓ノ件

合第二七号

(十月十日接受)

十月九日「ペトロフ」来訪「ユーリン」奉天通過ノ際同人ニ託シテ重要書類ヲ齊多ニ送付セントシ特使ヲ同地ニ派遣

ノ間ニ商議スルコトニ異議ナキ旨労働露國ニ於テ宣言スルコトトシ以テ米國ノ抗議ヲ予防スルヲ得策ト信ストテ頗ル不得要領ノ議論ヲ為シタルニ付本官ハ日本ト極東共和国トノ間ノ關係ヲ商議スル場合ニ若シ日本カ特殊ノ權利ヲ要求スル場合ニハ米國或ハ之ニ抗議スヘキモ日本ノ條約上ノ權利タル漁業權以外何等特權ヲ要求セサル今回ノ交渉ニ於テ米國ハ何等抗議スルヲ得ス漁業權ニ関シテハ極東共和国ノ領域内ニ於ケル漁業權ヲ論スルノミニテ労働露國ノ領域内ニ於ケル漁業權ヲ云々スルモノニ非ス但シ我方ノ提案ハ漁業協約改訂ハ之ヲ後日ニ譲ラントスルモノナルニ付其ノ際關係國全部ノ會議ヲ開クモ差支ナカルヘシ日露兩國ノミニ關係スル漁業問題ヲ如何ニ決定スルカニ関シ米國辺ヨリ抗議ヲ受クル理由ナク毫モ顧慮スル必要ナシト答ヘ置キタリ先方ノ議論ハ頗ル捕捉シ難キモノナル処右ハ日本ト交渉ヲ開始セントスル労働露國ノ魂胆ナリト思考ス(漁業問題ノ出テタルヲ機會ニ極東共和国ハ勸察加州ヲ其ノ領土ニ復歸シ得ザルヤヲ尋ネタルニ同州ハ「ヤクーツク」州ニ隣接シ労働露國ニ於テ必要ナリトノコト故極東共和国ニ編入スルコト困難ナリト答ヘ爰ニモ齊多カ莫斯科ノ命令ヲ奉シ居ルコ

ニ於テモ直ニ引揚グベキ旨貴官ノ裁量ニ依リ言明セラレ差支ナシ尚労働政府代表者ノ件ニ就テハ漁業問題ノ關係上追テハ其参加ヲ便宜トスヘキモ目下交渉中ノ協約サヘ成否判明セザル際之ヲ参加セシムル時ハ一層關係ヲ複雑ナラシメ交渉ノ進行ヲ阻害セラルベキニ付之ニ同意スル事能ハザルモ本協約ノ成立確実ナルニ至ラハ更ニ協議スベキ旨回答セラレタシ

九二四 十月十四日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)會議地移轉問題ニ関スルペトロフノ申出ニ対  
シ島田ヲシテ回答セシメタル際ノ會談ノ模様

報告ノ件

合第二八号

(十月十五日接受)

貴電第三四号ニ関シ

滿洲里ガ會議地トシテ不適当ナリトスル点ノ外從來幾度カ説明シタル所ト異ラザルヲ以テ御來示ノ趣旨ヲ口上書トシ島田ヲシテ十月十四日「ペトロフ」ニ伝ヘシメタルニ「ペ」ハ場所ニ関スル点ハ最後通牒のモノト諒解スベキヤト問ヘルニ付島田ハ貴方ニ於テ之ガ為會議ヲ中止スルトノコト

トヲ証明セリ)最後ニ「ペ」ハ最近得タル報道ニ拠レハ「サガレン」ニ於テハ日本ハ露國法律ヲ廢止シ日本法律ヲ施行シ露國人モ之ニ服從セシメツアル趣ナルガ斯科ルトナキ様致シタシト云ヘルニ付本官ハ同地ニハ日本軍政ヲ布キアル故行政規則ハ時々發布シアルベキモ司法ハ旧制度ニ依リ居ルモノト信ズト答ヘ置キタルモ先方ヘ回答ノ都合モアルニ付サガレン州ニ於ケル司法及行政ノ実狀御回電アリタシ

九二三 十月十三日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)會議地ノ滿洲里移轉及労働政府ノ會議參加問  
題ニ関スルペトロフノ申出ニ対スル回答振回  
訓ノ件

第三四号

貴電合第二七号ニ関シ通信ノ困難ニ就イテハ過般來電報ノ通り孰レカノ一方之ヲ負フヘキ立場ニアリテ會議ノ場所ヲ變更スル理由トナラズ殊ニ滿洲里ハ支那ノ權力内ニアルヲ以テ各種ノ不便ト妨害ヲ受クベキ虞アリ會議ノ地トシテハ不適当ト認メラルルニ付齊多側申出ハ之ヲ拒絕セラレ度ク若シ先方ニ於テ之カ為會議ヲ中止ストノコトナレバ我方

ナレバ我方ニ於テモ直ニ引揚グル積リナリト答ヘタルニ「ペ」ハ日本政府ガ他ノ候補地ヲ指定セザリシヲ遺憾トス兎モ角早速右ノ次第齊多政府ニ打電シ訓訓スベキモ齊多ハ恐ラク予ヲ召還スルナラム就テハ齊多ノ電訓ニ依リ一時會議ヲ休会スルコトトモナラバ將來再ビ會合スベキ時日場所等ニ就キ協議スル為近日會議ヲ開クニ至ルベシト思考ス我方ハ協約ノ成立ヲ切望ス既ニ日本側對案ニ對シ大体ノ案ヲ立テ双方ノ見解モ漸次接近スルニ至レル今日齊多側ノ責任ゼザル通信困難問題ノ為會議ノ進行不能ナルヲ遺憾トスト言ヘルニ依リ既ニ交渉案件ニ就キ大体ノ準備出來タリトセバ何故ニ會議ヲ開カザルヤト尋ネタルニ右ハ政府ノ訓令ヲ待タザルベカラズトテ曖昧ニシ居タリ

次ニ島田ハ「ペ」ニ對シ貴官休会ノ為引揚グトセバ何人カ殘シ置カルル考ナリヤト問ヘルニ會議ガ不調トナリタルガ如キ感想ヲ世人ニ与フルハ不得策ニ付折角熟考中ナリト答ヘ更ニ全然個人的資格ニテ余談ニ移リ「ペ」ハ労働政府ガ此際本會議ヲ機會ニ日本ト引懸リヲ附ケムト努力シツツアルコトハ勿論ナリ又日本新聞ニ齊多ニ於テ「ダリビユーロ」ガ「ヤンソン」ト共ニ本會議ヲ支配シ居レリトノ報道

アル処右「ダリビューロー」ハ共產党ノ機關ニシテ勞農政府ヲ代表シ居ルモノニ非ズ予ハ其議長ニシテ「ニキフオロフ」ハ會員タリ「ヤンソン」亦一大臣トシテノ發言權以上ニ勢力ヲ有セズ兩者ガ本會議ヲ支配ストハ誤解ナリ將又米國領事ハ極東共和国ト協約ヲ締結セムガ為齊多ニ赴クモノニシテ同領事ノ齎セル協約案ハ共和国ノ承認問題ヲモ含ミ居レリ而シテ米國トハ何等懸案ナキ為協約ノ成立容易ナリ但シ吾人ハ懸案多キ日本トノ關係ヲ定ムルコト最緊要ナリト思考スト語り尚樺太州撤兵ニ關連シ具體的条件ヲ提出スル積ナリト附言セリ

九二五 十月十五日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連第十三回會議ニ於テ會議地ハ差当リ大連

継続ニ決定ノ件

合第二十九号

(十月十五日接受)

十月十四日齊多側委員ノ請求ニ依リ第十三回會議開会先ゾ會議ノ場所變更問題ニ關シ協議シ差当リ大連ニ於テ継続スルコトトシ齊多トノ通信連絡ノ改善問題ヲ研究セリ次ニ漁業問題等ニ關シ特別委員會ヲ設クルノ可否ニ關シ意見ヲ交

換セルモ具體的決定ヲ見ズ

九二六 十月十六日

内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

大連會議其後ノ經過及チタ政權ト浦潮政權ト

ノ關係ニ付通報ノ件

第五一八号

齊多側トノ交渉が大連ニ於テ行ハレ居ル次第ハ御承知ノ通りナルガ其後「ユーリン」ト交代シタル「ペトロフ」ヨリ九月六日提案アリタル処右ハ正式條約ノ形式及相互對等ノ地位ニ於テ通商事項ヲ規定セムトスルモノニシテ暫定的取極ヲ為サムトスル趣旨ニ合セザルヲ以テ之ニ修正ヲ如フルト共ニ交渉ノ根本目的ニ副フ為メ二三事項ヲ附加シ九月二十六日對案ヲ提出セシメタルガ先方ニテハ右ニ對シ齊多政府ノ訓令ヲ乞フ必要アル旨並ニ右回答到着迄ニハ二三週間ヲ要スベシト申述ベタル趣ナリ然ルニ其後「ペトロフ」ハ齊多大連間ノ通信困難ナルコト並ニ支那側力通信ヲ阻害シ米國側亦之ヲ窃取スル形跡アルコトヲ理由トシ會議ノ場所ヲ齊多ニ移サムコトヲ提議シ我方ニテハ之ヲ拒絕シタル処最近又復滿洲里ニ移転セムコトヲ申出デタルニヨリ右提議

モ之ヲ拒絕スヘキ旨我方代表者ニ訓令セリ

右ニ關連シ齊多側ニテハ可成速ニ浦塩「メルクローフ」政權ヲ掃蕩セムトスル計畫ヲ有スルモノノ如ク浦塩「ニコリスク」「スパスカヤ」等ニ自黨員ヲ潛入セシメタル形跡アリ浦塩政權ハ之ニ對シ齊多側ノ有力者ヲ逮捕スル等對抗的氣勢ヲ示シ居ルモ未ダ兩者ノ衝突ヲ見ルニ至ラズ尚ホ「メルクローフ」側ハ日本軍撤去後ノ成行ヲ懸念シ既ニ勘察加方面ニ向ケ糧食武器ヲ搭載セル汽船ヲ派シ政權没落ノ際ハ同地ニ落延ビムトスル計畫ヲナシ居ルガ如シ

在歐各大使及在波蘭、瑞典公使ニ転電アリタシ

九二七 十月十六日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連第十三回會議ニ於ケル會議地移轉勞農代

表者參加問題討議ノ狀況報告ノ件

合第三〇号

(十月十六日接受)

第十三回會議ニ於テ「ペトロフ」ハ會議ノ場所變更ニ關シ從來ノ所說ヲ繰返シ日本側ノ昨日ノ申出ハ最後通牒的ノモノナリヤト問ヘルニ付本官ハ場所ヲ變更シタリトテ通信ノ不便ハ何レカノ一方之ヲ負担セザル可カラズ從テ會議ノ進

捗上何等ノ効果ナカルヨキニ付他ノ点ニ於テ勝レル大連ニ於テ會議ヲ継続スルヲ可トスト主張シ昨日ノ当方申出ハ最後通牒的ノモノト解ス可カラズ大連以外ニ適當ノ地点ナキヲ以テ已ムヲ得ズ大連說ヲ主張スルノミ大連以外ニ適當ノ地点ナシトセバ殘ル処ハ通信連絡ノ改善問題ナリ例ヘバ日本軍用線ニテ在哈爾賓齊多代表者ニ電報スルトカ公主嶺無線電信ノ利用トカ云フガ如シト述ベタルニ「ペ」ハ然ラバ差当リ場所移轉問題ヲ決スルコトナク電信連絡ニ關シ配慮アリタシト云ヘリ(本件ニ付テハ哈爾賓交通部及關東軍司令官ト打合せ中)

次ニ「ペトロフ」ハ會議ヲ当地ニ於テ継続開催スルトスルモ勞農代表者ヲ參加セシムルコトトシタシ會議ノ議題中勞農露國ノ利害關係ヲ有スルモノアリ從ツテ齊多政府ハ勞農露國トモ相談シ之ガ同意ヲ求ムルヲ要スルモノアルニ付今勞農代表者ヲ參加セシメバ會議ノ進捗ヲ促進スベシ例ヘバ漁業問題黑竜江松花江航行權ノ如キ旧露西亞帝國ノ締結シタル條約ノ變更ニ付テハ同帝國ノ後継者タル勞農露國ノ參加ナクシテハ之ヲ論議スルヲ得ズ松花江ニ付テハ支那ノ參加モ必要ナル可シト云ヘルニ付本官ハ本會議ニ於テ論ズル



所ハ極東共和国ノ領土ニ関スルコトノミニシテ第三国ノ利害問題ニハ毫モ触レ居ラズ漁業權ノ如キモ極東共和国ノ領土内ノ漁業權ニ付テ議スルノミ極東共和国ガ真ニ獨立シ居ルモノナラバ其ノ領土ニ関スル限リ勞農露國ノ同意ナクシテ他國ト協約ヲ締結シ得ルヤ勿論ニシテ恰モ芬蘭ガ露國ノ同意ナクシテ外國ト協約ヲ結ビ得ルト同様ナリ黑龍江ハ極東共和国内ヲ流レ居ルヲ以テ其航行權ニ関シ勞農露國ハ利害關係ヲ有セズ松花江航行權ニ関シテハ今直ニ之ヲ求メ居ラザルニ付支那ノ参加ヲ要セズ我方ノ案文ヲ御熟読アラバ明瞭ナルベシ尙帝國政府ノ意見ハ此際根本問題ヲ決定シ然ル後細目ニ移ルヲ可トスルモノニシテ漁業協約ノ如キハ目下協議中ノ條約締結後トスル考ナリ根本問題モ決セザルニ細目ヲ議スルハ本末ヲ誤ルノミナラズ會議ノ進捗ヲ害ス殊ニ第三国代表者ヲ引入ルル時ハ問題ヲ紛糾セシメ根本問題ノ解決ニ累ヲ及ボスベシ故ニ貴方ノ提議ニ応ジ難シト述ベタルニ「ペトロフ」ハ極東共和国ハ獨立シ居ルニ付獨立シテ協約ヲ締結シ得ベキモ勞農露國トノ關係密接ナル為漁業協約等ニ関シテハ之ト相談スルノ必要アリ故ニ勞農ノ代表者参加セバ容易ニ問題ヲ解決シ得ベシ尤モ参加ト言フモ日

九二八 十月十七日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議本會議ト併行シ勞農代表参加ノ漁業

協約改訂委員會開催方ニ付ペトロフ懸望ノ件

合第三一號

(十月十七日接受)

往電合第三〇號「ペトロフ」在哈爾濱「オザルニン」間電信特別取扱方ニ関シ一応在哈爾濱交通支部長ト打合出来タルニ依リ此旨島田ヲシテ十月十六日「ペトロフ」ニ伝ヘシメタルニ同人ハ早速右試ムベシト言ヒ尙公主嶺無線電信利用方ニ関シテモ調査願ヒタシト申出デタリ(目下調査中)右終リテ「ペ」ハ島田ヲ引止メテ曰ク

「昨日會議席上申出デタル勞農代表参加漁業委員會開催ノ件(往電合第三〇號末段)ニ就キ日本政府ヨリ満足ナル回答来ラバ會議地移轉ノ件ハ全然放棄シ引続キ大連ニテ會商スルコトトナスヲ得ベシ若シ日本政府ニシテ右ニ応ジ得ズトセバ日本側對案第十條ノ趣旨丈別個ニ今直ニ特別協定トシテ締結シ大連ニ於テ勞農代表参加ノ漁業特別委員會ヲ開催スルコトトシテハ如何右ニ関スル日本政府ノ意向承知致シタシ打明ケテ申セバ齊多ニハ漁業ニ関スル專門家之シキ

本代表者ト直接交渉ノ任ニ当ルモノニ非ズ交渉ハ日本ト極東共和国トノ交渉ナリト言ヘルニ付本官ハ齊多側ト莫斯科政府トノ特別關係ニ依リ内部ニテ相談セラルルト否トハ当方ノ関知スル所ニアラズト雖莫斯科代表者ガ會議ニ出席スル以上ハ自然日本ト勞農トノ交渉トナリ問題ヲ複雑ナラシムルヲ以テ不可ナリ要スルニ日本ト極東共和国トノ間ニ根本問題ヲ解決シ続イテ細目ノ協定ニ移ルヲ得策トスト述ベタルニ「ペトロフ」ハ根本問題ニ就キ商議スル傍特別委員會ヲ設ケテ日本勞農及極東共和国ノ間ニ漁業協約ノ改訂ヲ議スルコトトシタシトテ執拗ニ主張シ(此際日本ト勞農トヲ接触セシメムトスル策ナルコト明瞭ナリ)タルニ付本官ハ根本問題ノ決定セザルニ委員會ヲ設ケテ細目ヲ議スルノ必要モナク又漁業協約改訂ハ齊多側ノ考フル如ク容易ノモノニアラズ尙漁期ノ終了シタル今日根本問題ヲ議スルト同時ニ協議ヲ為ス程ニ急ヲ要スル問題ニモアラズ將又日本政府ハ今直ニ漁業ニ関シ勞農ト協議ニ入ルコトヲ承諾スルヤ否ヤ不明ナリ極東共和国トノミ協議スル場合ニモ根本協約ノ締結後トスベシトノ意向ナルコト屢々述ベタル通ナルモ貴方ノ提議ハ一応政府ニ伝ヘ置クベシト答ヘ置キタリ

ニ付勞農政府ノ援助ヲ請フ必要モ有リ又勞農政府ハ齊多政權ニ對シ圧迫ヲ加ヘ居レルニ鑑ミ此際會議地ニ就テハ全然日本側ニ譲歩スベキニ依リ日本側モ漁業協約改訂ニ関シ前記ノ通讓歩セラレ予ノ顔ヲ立テラレムコトヲ懸望ス我方ハ日本對案ニ對シテハ大体ニ於テ異議ナク既ニ夫々準備モ成リ居レリ又軍事協定ニ就テモ七ヶ條ヨリ成ル協定案出来居レルニ付其内提出スルコトトセム日本新聞ニハ我一行ノ書記官「ブローフ」ヲ以テ軍人ノ「ブローフ」ト取違ヒ居レルモ右ハ同名異人ニ付軍事協定ニ就テハ齊多ヨリ軍事代表ノ來連ヲ要求スル管ナリ斯クテ本會議ト併行シテ「ソヴィエト」代表参加漁業協約改訂委員會ヲ開催シ其事務ヲ開始シタル後暫時ニシテ本協約並軍事協定ノ締結ヲ見ル段取トシタシ云々」ト語レリ

九二九 十月十九日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ於テ近ク暫定通商協約及軍事協定  
締結ノコトトシ右締結前ニ勞農代表参加ノ漁  
業委員會ヲ組織シ度トペトロフ島田ニ談話ノ

## 件

## 合第三三三號

(十月十九日接受)

滿洲里當地電信狀況ニ関シ當地通信局ノ調査ニ依レバ最大三十時間最少五時間ナリトノコトニ付右ヲ引掛ケニ島田十月十九日「ペトロフ」ト会見シ右事情ヲ述ベタルニ「ペ」ハ滿洲里ヨリノ來電ヲ示シ発信人ノ発信日時ヨリ受領ノ日時迄ヲ通算シ二晝夜以下ノモノ無シト述ベ往電合第三一號哈爾賓宛打電方法利用十八日一通發電セリ電信料モ安価ニテ好都合ナリト語り次デ會議問題ニ移リ最近得タル電報ニ依レバ軍事代表者チタ出電當地ニ向ヘル由ニ付兩三日中ニハ着連スベク其ノ上自分ヨリ會議開催ヲ請求シ九ヶ条ヨリ成ル軍事協定案ヲ提出スベシチタ政府ハ大体當地ニ於テ引続キ會議ノコトニ同意セリ一時將ニ破裂セントセシ本會議ヲ引続キ當地ニ於テスルコトニセシハ余ノ大ニ奮闘セシ結果ニシテ此ノ点ニ付御同情アリタシ又莫斯科ヨリノ來電ニ依レバ漁業協約改訂委員ハ何時ニテモ出電ノ準備出來タリト松島委員長ハ極東共和国領域ニ関スル漁業ヲ論ズト言ハルルモ我領域内ノ漁業ハ旧漁業協約ノ極メテ小ナル部分ニ過ギズ此ノ際「ソヴィエト」代表ノ漁業委員會参加ヲ許シ

全部ヲ一括スルニ非ザレバ意味ヲ成サザルニ非ズヤ兎ニ角漁業委員會ヲ組織スルコトトシ度シ事務開始ハ追テノコトナリ日本側ハ共和国ガ内輪ニテ万事莫斯科ト相談セバ可ナルニ非ズヤト云ハルルモ実行上勞農代表眼前ニアラバ万事便利ニシテ且責任モ輕シ余並チタ政府ハ最近ニ至リ日本對案ハ極メテ暫定的ノモノナルコトヲ了解セリチタ側ハ始メヨリ鄭重ナル協約ヲ作ラントセリ從テ政治的条項モ挿入シ今ヤ既ニ日本對案ニ對シ大部訓令モ到着シ居ルニ付近ク會議ニテ討議シ暫定通商協約ト軍事協定トヲ同時ニ締結スルコトトシ右締結前ニ勞農代表参加ノ漁業委員會組織ノコトニシ度シ日本ハ本會議ニ於テハ「ソヴィエト」政府ト公式交渉ヲ開始スルコト無ク單ニ右委員會ニ是ガ出席ヲ許スニ過ギザルモノナレバ是ニ応ゼラレテ可ナリ斯克テ二三週間後ニハ協約締結セラル可キニ付夫レ迄交代兵ノ出電ヲ見合セラル様日本政府ヘ御伝ヘ請フ更ニサガレン駐兵問題モ「ソヴィエト」代表ガ漁業委員會参加ノ為來連スルヲ機會ニ是ト相談シ相當經濟上ノ利益ヲ日本ニ与ヘテ此際解決シ度キモノナリ要スルニ本協約ヲ早ク締結シタランニハ今頃ハ日本撤兵モ開始シタルナル可キニ我方ニモ軍閥アリテ吾

初輸入セラルル商品ハ品質良好ナルヲ要ス

## 九三一 十月二十二日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛  
(電報)

協約成立前勞農政府代表者ノ會議参加ハ好マシカラザル旨回示ノ件

## 第三八號

貴電合第三〇號末段ニ関シ協約成立前勞農政府ノ代表者ヲ會議ニ参加セシムルコトハ諸般ノ關係上好マシカラザルニ付特別委員會設置ノ義ハ本協約成立ノ見込附キタル場合改メテ協議スルコトト致シタシ但シ此際漁業權ニ関スル齊多政府トノ協定ガ極東共和国ノ領域ニ付テノミ効力ヲ有ストノ了解ヲ遂グル事ハ不得止ベシ

## 九三二 十月二十四日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府ガ其代表者参加ノ漁業委員會組織ヲ欲スルハ日本ト事實的交渉ヲ熱望スルガ為ナル旨ペトロフ島田ニ内話ノ件

## 合第三五號

(十月二十四日接受)

差当リ必要トスルハ綿織物、藥品、醫療器具、金屬製品、出來合洋服、革製品、陶器、玻璃製食器、「ミシン」、針、絲、化粧品、食料品等ニシテ之ガ取引ノ詳細ニ関シテハ日本當業者齊多ニ赴キ商工務省供給省衛生省其他ト直接交渉セラレタシ仕払方法ハ政府買上ケ品ニ對シテハ可成輸出原料品即チ獸皮、獸毛、豚毛、毛皮、木材、軸木等ヲ輸出シタク個人買入ノ分ハ外国貨幣ニテ仕払ハソノ外國銀行支店ノ開設ヲ歡迎シ砂金ノ採取ハ機械ニ依ル方法ノミヲ許可ス尚商品見本陳列所ノ齊多ニ開設セラレンコトヲ希望シ日本ヨリ最

人ノ意ノ如クナラズ遷延今日ニ及ビシハ寔ニ遺憾千萬ナリト内話シ且余ハ飽迄協約ノ成立ヲ期シ誠意アル日本ト速ニ手ヲ握ルヲ得策ナリトスルノ信念ヲ有スト附言セリ

## 九三〇 十月二十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

極東共和国ガ輸入ヲ希望スル品目及其代金支払方法等ニ関スルペトロフノ見解報告ノ件

## 合第三四號

(十月二十一日接受)

協約ノ成立ヲ見越シ齊多側ト通商開始方ニ付問合セ來ル向キ多シ本件ニ付「ペトロフ」ノ言左ノ通

「ペトロフ」ニ手交セシメタルニ「ペトロフ」ハ此旨早速知多及莫斯科ニ電報スベシ但シ日本ガ今日ニ於テ漁業委員會開催ニ応ゼラレザルヲ遺憾トスト答ヘ続イテ左ノ通り内話セリ

日本新聞中極東共和国ハ華盛頓會議ニ人ヲ派シ日本ヲ牽制センコトヲ嘆願シ依テ以テ大連會議ヲ有耶無耶ニ葬ラントスナド報ズルモノアル処由來露國人ハ嘆願的態度ヲ採ルヲ欲セズ佞令嘆願セザレバ不利益ナル場合ニ於テモ之ヲ為サザルベシ吾人ハ嘆願スレバ必ズヤ相当ノ謝礼ヲナサザルベカラザルヲ恐ル米國ニ赴ク予定ノ「スクウィルスキー」一行ハ目下哈爾濱ニテ米國領事ノ査証ヲ得ベク奔走中ノ由ニシテ多分北京ニ赴カザルベシ一行ノ使命ハ単ニ情報ヲ得ルニアリ吾人ハ此ノ際最モ關係深キ日本ト協約ヲ結ブノ最モ必要ナルヲ認ムルガ故ニ余自身当地ニ出馬シ居ルニアラズヤ若シ夫レ大連會議ヲ輕視センカ余ハ必ズヤ代理者ニ委任シタルナルベシ余ハ打明ケテ言ハン吾人ガ今ニ於テ勞農代表参加ノ漁業委員會ヲ組織セント欲スルハ則チ勞農政府ガ波蘭ニ於テ日本公使ヨリ談判ヲ拒絕セラレタルニ顧ミ此際大連會議ヲ利用シ日本ト事實の交渉ニ入ラント熱望シ之ヲ

第一条 浦潮附近ニ現存スル海陸兩正面諸要塞ハ極東共和国政府之ヲ廃棄シ爾後何等ノ補修又ハ施設ヲ為スコトナカルヘシ

第二条 極東共和国政府ハ將來其領域沿岸及朝鮮國境附近ニ於ケル軍港要塞ノ設備等其他日本國ヲ脅威スル總テノ軍事の措置ヲ為ササルモノトス

第三条 極東共和国政府ハ綏芬河口、露支國境N号界標ヲ連ヌル線以南ノ地域ニ一定數以內ノ民警ノ外一切ノ武装団体ヲ駐劄セシムルコトナシ

但シ不逞団体掃蕩等ノ為必要アル時ハ予メ日本側ト協議ノ上期間ヲ限り所要ノ武装団体ヲ行動セシムルコトヲ得

第四条 在「ルスキ」島無線電信所ノ施設ハ現在ノ儘當分ノ内日本陸海軍其使用ヲ繼續シ現在協定ノ範圍内ニ於テ露國側ノ使用ヲ許ス

第五条 極東共和国政府ハ日本國軍事委員ノ浦潮、知多、尼市、哈府及武市等ノ重要都市ニ駐在スルコトヲ承認シ其領域内ニ於テ常ニ之ヲ保護シ生命、身体、財産ノ不可侵及通信旅行ノ自由ヲ保証スルモノトス

第六条 日本軍カ極東共和国領域内ノ鐵道ニ施シタル一切

逸セバ將來適當ノ機會無シト思考シ居ルニ外ナラズ該委員會ヲ組織セバ我方ハ自國民並世界各國ニ對シ勞農政府ガ日本ト事實の交渉ニ入りタルコトヲ証明スルヲ得ベシ故ニ本會議ハ勿論重大ナレド前記委員會組織ノ問題モ我方ニ取リ重要ノ意義ヲ有ス日本側ハ漁業委員會問題ノ外ニ將來又復我方ヨリ難題ヲ提出スベシト慮レ居ラルルヤモ知レザルガ右ハ最後ノ問題ニシテ本件ダニ我方ノ希望通トナラバ本會議ノ進行ハ極メテ容易ナルベシ尤モ尼港事件ヲ始トシ十七ヶ条中ニモ一二日本側ノ讓歩ヲ求ムベキ事項アルニ付之ニ就キ意見ノ交換ヲ行フベク軍事委員近日着連ノ上ハ會議開催ヲ請求シ軍事協定案モ提出スル積ナリ云々

九三三 十月二十五日 閣議決定

#### 日本国及極東共和国間ノ軍事事項細部ノ協定

##### 案及日本軍撤去ニ關スル協定案

##### 軍事事項細部ノ協定案

日本帝國政府ト極東共和國政府トノ間ニ締結セル通商其他ノ協約附屬書ニ基キ軍事事項細部ノ協定ヲ遂クルコト次ノ如シ

ノ作業設備及架設セル電線ハ現状ノ儘無償ニテ極東共和国政府ニ交付セラルヘシ

極東共和國政府ハ前記諸作業ノ為メ露國側ヨリ提供セル材料又ハ其代金ヲ請求スルコト無シ

第七条 押収物件ハ現在ノ儘極東共和國政府ニ引渡スモノトス

但シ該物件中其不正使用カ内外人ニ對シ危害ヲ及ホシ又ハ我治安ヲ案スカ如キ虞アリト認ムルモノハ日本軍ニ於テ適宜処理スルモノトス

##### 備考

一、本軍事事項細事ノ協定第二条ニ關シ先方ニ於テ異議アル場合ニハ同条中「其他日本國ヲ脅威スル總テノ軍事の措置」ナル文字ハ之ヲ削除スルモ差支ナシ

二、撤兵終了期ニ就テハ先方ニ於テ要求スル場合ニハ非公式ニ之ヲ通告シ差支無シ

##### 日本軍撤去ニ關スル協定案

日本浦潮派遣軍ハ沿海州ヲ撤去セントスルニ方リ撤兵間不應ノ事件ノ發生ヲ予防スル為日本軍及極東共和國政府兩軍事委員ノ間ニ左記各条ノ協定ヲ締結ス

第一条 極東共和国政府ノ軍隊ハ日本国軍隊ノ撤去ニ伴ヒ日本軍ノ承認ヲ經テ逐次日本軍ノ撤去セシ駐屯地域内ニ前進ス(第一条ハ本趣旨ニ基キ取極ムルコト)

第二条 「バルチザン」匪徒其他ノ行動ニシテ日本軍ノ撤去ニ影響ヲ及ホスカ如キ場合ニハ日本軍ハ撤去ニ関スル行動ヲ變更シ適宜ノ処置ヲ採ルコトアルヘシ

九三四 十月二十五日

山梨陸軍大臣ヨリ  
立花浦潮派遣軍司令官宛(電報)

浦潮派遣軍ノ撤去ニ関シ内訓ノ件

浦潮派遣軍ノ撤去ヲ円滑ニ進行セシムル為十月二十五日左記ノ通閣議ニ於テ決定セリ右予メ内訓ス

一、通商其他ニ関スル協約調印ヲ終ラハ浦潮派遣軍ハ軍事事項細部ノ協定ノ成立ヲ俟ツコトナク直チニ其ノ駐屯区域ヲ尼市以南ニ縮小ス

二、極東共和国ト「メルクロフ」政權トノ妥協ハ極力之ヲ促進セシム

但シ其ノ成立セサル場合ニ於テ日本軍ノ行動或ハ押收物件引渡等ヲ妨害スル者アレハ之ヲ排除ス

報ナキモ早速齊多ニ打電貴意ニ副フ様取計フヘシ又「バルチザン」ノ件ニ付テハ予テ日本側ヨリ注意アリタルニ鑑ミ既ニ齊多ノ注意ヲ喚起シタルコトアルガ今回更ニ打電シ「アントノフ」州庁ヲシテ将来「バルチザン」ガ対日本軍隊關係ニ於テ敵対行動ヲ一切執ラザル様措置セシムベシト答ヘ例ニ依リ余談ニ移リ左ノ通内話セリ

(一)折角日本委員ノ尽力ニ依リ哈爾濱經由打電ノコトニ試ミタルガ滿洲里ヘ直接電信ト時間ニ於テ差ナキノミナラズ哈爾濱ヨリ更ニ滿洲里ニ打電スル關係上電信料モ高マルニ付自今直接滿洲里ニ打電トスルコトニ政府ニ於テ決定セリトテ何等電報ノ誤謬ニ付テハ論及セズ齊多ヨリ当地迄依然二昼夜以上ヲ要スト云ヘリ

(二)「エウゼロフ」特使ノ靴中ニハ從來ノ會議録其他書類多數アリシ為非常ニ心配シ居タルガ無事滿洲里ヲ通關セリ同地稅関ニハ右党ニ属スル旧將校等モ勤務シ又ハ稅関員ヲ使喚スル者アル為殊更面倒ナリ

(三)支那政府ハ莫斯科ニ對シ通商開始東支鐵道問題其他(蒙古問題ナラン)ニ付交渉ヲ開始シタキ旨申出デ遠カラス「ソヴィエト」代表北京ニ來ルヘシ代表トシテハ「リトウ

九三五 十月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛  
(電報)  
庫倫ニ於テ露国軍隊ニ捕ヘラレタル同文会特派員小西茂ノ救出方ニ付訓令ノ件  
(十月二十九日接受)

張家口駐在武官ヨリ三井天津支店ニ宛テ同文会特派員小西茂十月十六日庫倫ニ於テ露国軍隊ニ捕ヘラレ齊多ニ護送セラレタル旨電報アリタル趣ヲ以テ至急同人救出方同文会ヨリ願出アリ就テハ同人保護方並哈爾濱若ハ齊々哈爾濱帝國領事館迄送還方ニ付貴地露国代表者ヨリ齊多政府ニ交渉スル様然ルヘク御処置相成度

本電信北京、哈爾濱及齊々哈爾へ転電アリタシ

九三六 十月三十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本国及極東共和国間軍事協定並漁業協定問題等ニ関シペトロフ島田ニ談話ノ件  
(十月三十日接受)

合第三七号

大臣來電第四二号小西茂保護方並「バルチザン」ノ「ウスリー」鐵道破壞問題ニ関シ十月三十日島田ヲシテ「ペトロフ」ニ注意セシメタルニ「ペ」ハ小西ノ件ニ付テハ何等情

イノフ」以外ノ者來ラン

(四)齊多軍事代表ハ軍事協定案作成ノ為出立延引シ居タルガ今回愈々出発シ他ノ専門委員モ同行スル旨ノ電報ニ接セリ四、五日後右一行着連セバ會議開催ノ積ナリ一行ハ日本對案ニ對スル詳細ノ訓令ヲモ持參スル筈而シテ會議開催ノ際ハ大体日本對案ヲ基礎トスヘシ(從來当地警察署ヨリ「ペトロフ」一行護衛ノ意味ニテ私服警察官ヲ附シ居タル処十月二十九日「ペトロフ」ハ之ヲ辞退シ其ノ結果現住家屋ハ之ヲ更ニ広ク使用シ得ルコトナリ目下模様換ヘ中)

(四)莫斯科政府ハ漁業協約改訂ノ為財政學者「ボロフレフスキー」ヲ委員長トセル委員會ヲ任命シ何時ニテモ出立ノ準備成レル旨來電アリ

(四)二十九日日本新聞記者団代表ノ問ニ對シ會議ノ遷延シ居レルハ彼我兩國委員ノ罪ニアラズシテ兩國政府ノ意見異ナリシニ基因ス我方ハ永久的條約ヲ締結セントシ自分モ數多ノ委員ヲ引連レ來リタル処日本側ハ單ニ暫定協約ヲ結ハントスルニアルコトヲ了解シ自分ヨリ我政府ニ篤ト説明ノ上政府ハ遂ニ日本側主張ノ段取ニテ進行ノコトニ決定スルニ至リシモノナリト語リ置ケリ

(七)米國領事「カルドウェル」ハ目下哈爾濱ニ在リテ齊多ヘ入國ノ手續中ナリ「スクウィルスキー」一行ハ哈爾濱ニテ米國領事ヨリ査証ヲ得ル能ハズ目下北京ニ在リテ米國公使ト交渉中ナリ多分商務委員ナル名義ノ下ニ七人渡米ノコトトナラントテ暗ニ兩者ノ入國問題ハ相互協議ニテ解決セラルヘキモノナルコトヲ諷セリ

(八)莫斯科モ齊多モ共和国境變更問題ニ付研究中ナリ其ノ案ハ共和国ノ經濟的獨立ヲ期スル為西ハ「イルクツカヤ」県「エニセイスカヤ」県ヲ北ハ「ヤクーツスカヤ」州ヲ加ヘ勘察加州ヲ復歸セシメントスルニアリ「ヴァンダーリッ普」ノ利権ハ未ダ莫斯科ノ与ヘタルモノニアラズ右ハ許与ノ時機ヲ距ルコト甚ダ遠キモノナルコトハ余ノ熟知スル所ナリ

(九)軍事協定ノ内容トシテハ我方ハ日本軍カ撤退地点並兵器等ヲ一々我民兵ニ引渡サンコトヲ要求シ在留日本臣民ノ保護ハ我方ニ於テ其ノ責ニ任スルニアリ然ラズシテ日本軍ガ万事ヲ放棄シテ撤退シ兵器ヲ反對党側ニ交付スルコトナランカ内乱ヲ惹起シ日本在留民ハ危險ニ陥ルヘシ日本軍ニシテ我方希望ノ方法ニ依ラハ「メルクーロフ」ハ直ニ逃走

合第四三三

(十一月七日接受)

十一月六日「ペトロフ」代理「ガガリン」書記官島田ヲ來訪「ペ」ノ命ナリトテ五日齊多側委員ハ本国政府ヨリ「政府ハ漁業其他ノ委員會ヲ組織(招集ノ意ニアラズ)スルノ条件ヲ以テ大連ニ於テ至急談判ヲ再開スルコトニ決定セル旨」ノ電報ニ接セリト通知シ越セリ

齊多側軍事委員着連ノ曉會議ヲ再開スル場合ニハ先方ハ第一ニ軍事及漁業ニ関スル委員會組織ノ件ヲ持出スコトト思考ス右ニ對シテハ從來ノ態度ヲ保持シ根本協約ノ討議ヲ終ヘタル後特別委員會ヲ開クヲ以テ当然ノ順序トスル旨並本末顛倒ハ會議ノ進捗ヲ妨グル旨ヲ説示スル積リナルモ先方ノ所謂委員會ヲ組織スルモ直チニ招集スルニアラズトノ意味ガ招集ノ上問題ヲ討議スルハ根本協約ノ纏ル見込ノ付キタル時ナリト云フニアリ且斯カル變態ノ委員會組織ヲ請求スルハ「ペトロフ」ノ言ヘルガ如ク齊多側ニ於テ日本ハ根本協約成立ノ曉細目ノ協定ヲ避クルモノニアラズヤト懸念シ居ルニ起因スルモノトセバ先方ニ於テ強イテ要求スル場合ニハ之ニ応ズルモ差支無カルベシト信ゼラル(先方ノ所謂漁業委員會ニシテ勞農代表者ノ参加シタルモノナリトセ

シ「カッペリ」軍ハ我方ト合併スルヤ必セリ

九三七 十一月三日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

漁業問題ニ関スル勞農代表者來連ニ付同人ヲ  
外交代表者トシテ待遇方ベトロフヨリ依頼越  
シタルニ付請訓ノ件

第三二二号

ペトロフヨリ十一月二日付覺書ヲ以テ「漁業問題ニ関スル委員會事務ニ従事スベキサウエト政府代表者マルフレフスキー莫斯科ヨリ大連ニ向ケ出發スルニ付同人ニ對シ外交代表者トシテ保護方並旅行差支ナキ様措置方」依頼シ越セリ右ニ對シテハ貴電第三八号ノ趣旨ニ基キ本協約成立ノ見込付キタル場合ニ於テ更メテ協議スルコト致シ度旨並夫レ迄ハ外交代表者ノ待遇ヲ与ヘ難キ旨回答シ可然ト思考ス何分ノ御指示乞フ永井ヘ転電セリ

九三八 十一月七日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

漁業及軍事委員會組織ヲ条件トシテ大連會議  
再開ニ決定ノ旨チタ側ヨリ申出ニ付請訓ノ件

バスカル委員會ノ組織ハ其時機ニアラザルヲ指摘シ差当リ日本及齊多ノ委員會組織ニノミ応ズルコト勿論ナリ  
本件ニ関シ予メ御訓令ヲ請フ

九三九 十一月九日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

日本及チタ兩政府間ノ基本協約ヲ先ツ成立セ  
シムルノ必要並大連會議促進方ニ関シベトロ  
フニ説示スル様訓電ノ件

第四七号

貴電合第四二二号ニヨレハ極東共和国軍事代表者ハ十一月五日

日齊多出発ノ趣ナルモ当方ニハ未ダ滿洲里通過ノ確報無之次第ナルヲ以テ右出発ノ有無ヲ突キ止メラルヘク兎ニ角會議ノ進行稍々緩慢ノ傾アル処我方ニ於テハ諸般關係上殊ニ撤兵時期ノ關係ニ付交渉ノ促進ヲ必要トスル次第ハ御承知ノ通ナルニ付此際一層ノ努力ヲ以テ會議ノ促進ヲ図ラレンコトヲ希望スル次第ナリ就テハ貴官ハ直接「ペトロフ」ニ對シ先方ニテハ軍事委員其他專門委員ノ來着ヲ俟テ會議再開ノ意向ナルガ如キモ撤兵、漁業權等ニ関スル細目ノ協定ハ再三説明シタル通り基本協約成立ノ見込確實ニ附キタル

場合始メテ之ヲ開始スベキモノナルヲ以テ右ニ関スル了解ヲ充分ニ成立セシメズシテ専門委員ノ到着ヲ俟ツハ意義ナキ次第ナリ又我方對案ニ對スル回答ハ電報ニテ之ヲ取寄スルモノナルベク兎ニ角齊多側ガ枝葉ノ問題ヲ提供シ交渉ヲ遷延シツツアル態度ハ誠意アルモノトハ認メ難ク交渉ノ遅延ハ自ラ面白カラザル結果ヲ招来スベキニ付此際先ツ速ニ基本協約ノ成立ニ努ムル必要アル旨ヲ篤ト説示セラレ其結果交渉ノ前途ニ関スル貴官ノ御見込ト共ニ電報アリタシ

貴電第三二二號請訓ノ件貴見ノ通り回答セラレタシ

註 十一月六日松島政務部長發合第四二二省略セリ右ハ極東共和国軍事代表者ガ五日チタ発大連ニ向ヘルヲペトロフヨリ申越シタル旨報告セルモノナリ

九四〇 十一月九日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

大連會議ニ於ケル特別委員會組織問題ニ関シ

回訓ノ件

第四八號

貴電合第四三三號ニ関シ細目協定ヲ目的トスル特別委員會設置ニ関スル当方意見ハ往電第四七號所載ノ通りナルモ単ニ

存在スルヲ察知セシムルト同時ニ硬軟兩派ノ政争モ齊多政府ノ我對案ニ對スル態度決定ヲ困難ナラシメタルモノト思考ス然ノミナラズ大連會議ノ機會ニ於テ日本ト接觸セントスル勞農政府ノ企圖ハ著シク會議ノ進捗ヲ妨害シタルヲ覺ユ或ハ斯ル勞農政府ノ企圖ヲ以テ會議停滯ノ主タル原因ト見ルヲ至當トスルヤモ知レズ蓋シ通信連絡ヲ口実トシテ會議ノ場所ヲ齊多ニ移サントシタルハ交渉上ノ便宜ヲ考慮シタル外齊多ニ於テ我方ト勞農政府代表トノ接觸ヲ図ル端緒ヲ得ント欲シタルモノナルコトモ明カニシテ場所移轉ノ計画ニ於テ失敗スルヤ基本協約ノ審議ヲ避ケツツ勞農代表ヲ参加セシメタル漁業委員會ノ設置ヲ執拗ニ主張スルヲ以テナリ該案ノ將來ニ関シテハ我對案ニ對スル先方ノ正式ノ意向ヲ承知セザル今日本官ノ意見ヲ形成スルヲ困難トスルニ付次回ノ會議ノ模様ニ依リ何分ノ儀具陳スルコトト致シタシ

九四二 十一月十二日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

チチェリンガ紐育ヘラルドニ供与セル文書ノ

不都合ヲペトロフニ指摘説示方ノ件

之ヲ組織シ基本協約成立ノ見込確實ニ附ク迄細目ニ関スル討議ヲ差控フル趣旨ナルニ於テハ貴見ノ通り取計ハラレ差支ナシ

九四一 十一月十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

會議遷延ノチタ側内情ニ鑑ミ交渉督促ヲ暫ク

差控ヘ度旨稟申ノ件

第三六號

(十一月十日接受)

貴電第四七號ニ関シ

齊多側軍事委員ハ本日哈爾賓發ノ旨通報アリシニ付會議モ近ク開催ノ運トナルベク且御來示ノ趣旨ハ之迄ニ幾度カ繰返シタル所ナルノミナラズ我方ニ於テハ今迄右委員ノ來着ヲ待居タルコトナレバ此際特ニ齊多代表ニ説示スルコトハ之ヲ差控ヘ置キ若シ該委員到着後數日ヲ經ルモ尚會議開催ノ意圖ナキ模様ナルニ於テハ篤ト説示スルコトト致シタシ會議ノ停頓甚シキハ遺憾ノ至リナルモ右ハ齊多側ノ内部の關係ニ依ルモノ多クシテ出先代表ノ責ニハ非ズト思考セラ

ル即チ「ユーリン」ガ交渉ノ衝ニ當ルコト幾何ナラズシテ「ペトロフ」ト交替シタルガ如キ政府部内ニ何等カノ軋轢

別電

同日内田外務大臣發松島政務部長宛電報第五〇

號

紐育ヘラルド供与セルチチェリン文書

第四九號

貴官ハ適當ノ機會ニ於テ「ペトロフ」ニ對シ別電第五〇號ノ事實ヲ引用シ「チチェリン」ニシテ果シテ本件ノ如キ文書ヲ提供シタリトセバ齊多政府並勞農政府ハ大連會議ニ勞農政府代表者ノ参加ヲ希望シ居ルニ拘ラス本件ノ如キ何等根拠ナキ事實ヲ虛構シテ關係國ニ對シ極メテ有害ナル宣伝ヲ為スハ不都合ノ甚シキモノニシテ此ノ種ノ不誠實ナル行動ハ常ニ彼我ノ接觸ヲ阻害スルコトナルヘク從ツテ勞農政府ノ遣口ニ對シテハ今後ト雖多大ノ注意ヲ要スル次第ナル旨ヲ説示セラレタシ

(別電)

十一月十二日内田外務大臣發松島政務部長宛電報第五〇號

日仏間陰謀説ニ付チチェリンガ紐育ヘラルドニ供与セル文

書ニ関スル件

第五〇號

在仏大使發本大臣宛電報第一五九〇號

十一月七日「ニューヨーク、ヘラルド」莫斯科特電ハ極東ニ於ケル日本ノ脅威ニ関スル Radek 及 Reickloff<sup>(c)</sup>ノ談話ヲ掲ケ更ニ「チチェリン」カ「ヘラルド」ニ供与セル文書ハ日仏間陰謀ノ証左ナリトシ大体左ノ通りノ覚書ナルモノヲ発表セリ

一、九月二日仏国外務省発日本外務省宛覚書華盛頓會議ノ目的未タ不明ナル今日吾人ノ地位ヲ明言スルコト難シト雖極東ニ於テ日毎ニ其ノ勢力ヲ増シ行ク米國ニ對峙スル日本ト「ソヴィエツト」露國ニ地歩ヲ占ムトセル米國ノ努力ヲ挫キタル仏國ト提携スルハ賢明ナル策ト云フヘク仏國ハ華府ニ於テ惹起セラルベキ一切ノ問題ニ関シ日本ノ支援ヲ期待シ得ベキヲ信ズルト同時ニ日本カ其ノ保護ノ下ニ極東獨立共和國建設ノ計画ヲ實現セムトスルニ對シテハ仏國政府ハ充分ノ支持ヲ与フヘシ日本軍ノ西北利撤退ハ過激政府力遠カラス没落セムトスル狀況ニ顧ミ尚早且危險ナリ日本ハ兩國ノ利益ヲ實現シ得ヘキ新露國ノ復活ニ参与スヘク右計画ノ實現ニ對シ日本ハ難題ヲ持出スコトナカラムコトヲ望ムト共ニ仏國政府ハ欣然日本ノ利益ヲ擁護スヘキヲ言明ス

ム) 通商ニ関スル協約ヲ審議ス可ク薩哈噠ノ撤兵問題モ同時ニ解決シタシトテ從來述ベタル所ヲ繰返シタルニ付本官モ基本協約ノ調印ニ引続キ日本ハ沿海州ヨリ撤兵ス可キニ付先ヅ基本協約ノ審議ヲ先ニス可ク撤兵ニ関スル細目協定ハ後廻シトスルコト及薩哈噠撤兵ハ尼港事件ノ解決セザル限不可能ナリト繰返シタルニ「ペトロフ」ハ兩國ノ親善關係樹立ノ為此際共和国ノ全領土ヨリ日本軍ノ撤退セラレンコトヲ希望スルニ付尼港事件解決ノ条件ヲ示サレタシト云ヘルニ付本官ハ齊多政府ハ尼港事件ノ責任者ニ非ザルヲ以テ日本政府ハ之ニ對シテ責任ヲ問フ能ハズ即チ何等要求ヲ提出スル能ハズ若シ齊多政府自ラ進ンデ該事件ノ責任ヲ負ヒ何等解決条件ヲ提示セバ日本政府ハ之ヲ考慮ス可シ尚支那ニ列國軍隊駐屯スルモ支那ト列國トノ友好關係存立スルガ如ク西比利亞ニ於ケル特別ノ事態ノ結果共和国ノ一部ニ日本軍駐屯スルトモ兩國ノ親善關係ヲ樹立シ得ベキニ付先ヅ我提案ヲ議シテ沿海州撤兵ノ途ヲ拓キ尼港事件ノ解決ハ之ヲ後日ニ讓ルコト兩國ノ為利益ナラズヤト説示シタルニ「ペ」ハ齊多側ハ是非此際薩哈噠ノ撤兵問題ヲモ片附ケ度ク之ガ為ニハ尼港事件ノ解決ヲ要ストセバ之ガ審議ヲ

二、日本回答(九月七日)

日本政府ハ仏國政府ノ見解ト全然一致スルヲ喜ヒ仏國政府ノ好意ヲ感謝ス日本ハ如何ナル場合ニモ其ノ西北利政策ヲ變更スル能ハズ新極東共和国ノ建設ハ我對外政策ノ一ナリ過激政府倒壊ノ曉帝國政府ハ露國復活ニ助力ヲ吝マザルベシ日仏共同利害ノ關スル限り帝國政府ハ仏國ヲ支持スヘシ云々

右ニ関シ當館ニ於テハ不取敢前記事実ノ無根ナル旨打消シ置キタル処當国外務省ヨリモ同ジク取消シ出デタリ

九四三 十一月十三日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ペトロフヨリ通商協約ト同時ニ日本ノ西北比利亞撤兵及サガレン撤兵問題ヲモ議シ度旨申出  
デ之ニ對シ適宜応酬シ置キタル旨報告ノ件

合第四四号 (十一月十三日接受)

齊多委員「ブリューヘル」一行十二日着連十三日「ペトロフ」及「ブリューヘル」來訪明十四日ヨリ會議ヲ開クコトトナレリ「ペ」氏ハ會議再開ノ上ハ先ヅ撤兵問題ヲ議シ(話ノ途中ニテ基本協約ト同時ニ審議スル意味ニ言ヒ改

辭セザルモ日本側ノ希望条件ヲ全然知ラザルヲ以テ解決条件ヲ提出セントスルモ不可能ナルニ付非公式希望条件ヲ内示セラレタシト云ヘリ仍テ本官ハ齊多側ガ日本ノ地位ニ在ルモノトシテ考フルニ於テハ相當ノ解決条件ヲ案出シ得ベク又「コゼウニコフ」氏ハ非公式ニ解決案ヲ示シタル実例モアリ齊多側ニ於テ提案スルコト不能ニハ非ザル可シ日本ニ於テ提案スルハ責任ナキ齊多政府ニ責任ヲ問フノ姿トナルヲ以テ主義トシテ到底不可能ナリト答ヘタルニ「ペ」ハ正式會議ニテ改メテ協議ス可シトテ談ヲ打切りタリ

九四四 十一月十四日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

チタ側軍事委員ノ隨員大連到着ノ件

合第四五号 (十一月十四日接受)

十一月十二日朝着連シタル齊多側委員軍事參議會議長陸軍大臣兼軍備司令官「ブリューヘル」ノ隨員ハ海軍代表「ガリーリン」陸軍書記官「ローゼン」(故「ローゼン」男ノ甥ナリト謂フ日本語ヲ解ス)參謀本部將校「シコーリン」軍事參議會一等書記官「ルシナイフ」及「ブリューヘル」夫人ニシテ外ニ伝令使一人ナリ「ブ」ノ言ニ依レバ一行ノ着

連ノ遅延セルハ齊多滿洲里間ニ於テ恰モ革命四週年祭ニ際シ到ル所下車シ閱兵式演説等ヲ行ヒ居タル為ナリト尚齊多側委員長ハ依然「ペトロフ」ニシテ其事務官ハ從前ノ通り「ガーリン」「ボンチ、オスモロフスキー」「ガルデリン」外ニ情報係トシテ「バスキン」アリ

九四五 十一月十四日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第十四回會議ニ関スル新聞發表事項  
報告ノ件

合第四六号

（十一月十四日接受）

十一月十四日第十四回會議開催齊多側新タニブリューヘル氏外一名ヲ加フ會議ニ関スル新聞發表事項左ノ通り  
兩國委員ハ將來ニ於ケル協約協商ノ手続撤兵問題及勞農代表者ノ特別委員會参加ニ関シ意見ヲ交換セリ当日齊多委員ハ軍事協定案ヲ提出セリ

九四六 十一月十五日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第十四回會議ニ於ケル撤兵協定基本  
協約締結問題等ニ関スル討議狀況報告ノ件

故ニ基本協約ニ速ニ調印シ沿海州撤兵ノ道ヲ開キ薩哈噠州撤兵ハ尼港事件ノ解決ヲ待ツコト然ル可シト述ヘタルニ「ペ」ハ極東共和国ハ全部ノ撤兵ニ對シ承諾ヲ与ヘラルルニ非ザレバ通商其他ニ関スル協約ニ調印スルヲ得ズ蓋シ共和国ノ一部ニ日本軍隊駐屯スルニ於テハ親善關係樹立ハ之ヲ望ム可カラザルヲ以テナリ故ニ此際全部ノ撤兵ヲ要求セザルヲ得ズ就テハ日本政府ハ如何ナル条件ノ下ニ全部ノ撤兵ニ応ゼラル可キヤ承知シ度シト言ヘルニ付本官ハ日本ハ代償ヲ求メテ撤兵スルカ如キ卑劣ノ意圖ヲ有スル者ニ非ズ沿海州ノ駐兵ノ目的前述ノ通りニテ該目的ハ基本協約ノ締結ニ依リ達成セラルベキニ付協約締結ト同時ニ撤兵スベキハ既ニ幾回モ述ベタル通りナリ薩哈噠州ノ撤兵ハ尼港事件解決ノ時ナリ故ニ極東共和国ニ於テ全部ノ撤兵ヲ希望セラ

ルナラバ基本協約ノ審議ト同時ニ尼港事件ニ對スル解決案ヲ提示セラレタシ（此点ニ付テハ前電ト同様ノ論議ヲ繰返シタリ）ト答ヘタルニ「ペ」ハ双方ノ見解異リ居ルニ付夫々政府ニ報告シテ訓令ヲ仰グコトトシタシト云ヒ本官ハ同意スルト同時ニ日本政府ノ意見ハ終始一貫シ居ルニ付何等變更セザルベシト附言シ置キタリ次テ先方ハ漁業委員會

合第四七号

（十一月十五日接受）

第十四回會議ニ於テ「ペトロフ」ハ兩國ノ親善關係ヲ樹立シ通商ヲ開始スルハ日本軍カ極東共和国ノ全領土ヨリ撤兵セラルルヲ要ス故ニ撤兵ニ関スル協約案ヲ提出シ通商其他協約ト共ニ審議シ同時ニ調印セントスト言ヒ撤兵ニ関スル協約案ヲ本官ニ手交シ我方ニ於テ之カ考究ヲセラレタシト附言シ且日本ノ所謂沿海州撤兵トハ北樺太ヲ除ク大陸全部ヲ意味スルモノト了解シ居レリト述ヘタリ本官ハ日本ノ沿海州駐兵ノ目的ハ居留民ノ生命財産ノ保護國際協約ニ基ク交通ノ安全保護滿鮮ニ對スル脅威ノ防退ニアルヲ以テ此目的ノ達成セラレザル限り撤兵スルヲ得ズ若シ現ニ商議中ノ基本協約ニシテ調印セララルル限り右ノ目的ハ達成セラル可キヲ以テ日本ハ沿海州ヨリ撤兵スヘシ右撤兵ニ関スル手続ハ基本協約成立ノ見立チタル時之ヲ協議スヘシ我基本協約案及其附屬書ニ對シ一ヶ月余ヲ經過シタル今日「チタ」側ヨリ何等聞ク所無クシテ撤兵協定ニ関シ審議スルヲ得ズ薩哈噠州ノ範圍ニ関シ我方ハ北樺太ノミナラズ尼港附近ノ領分ヲ包含スルモノト解シ居レリ之ハ兎ニ角尼港事件ニ関聯スル駐屯軍ハ尼港事件解決セザル限り撤兵スルヲ得ズ

ニ勞農代表参加ノ件ヲ再ヒ提出シタルニ付本官ハ数ヶ月ヲ經過スルモ基本協約スラ纏ルノ見込付カザル今日特別委員會ノ設置ハ意味ヲナサズ協定成立ノ晝浦潮ニ於テ會議スル方得策ナルノミナラズ日本政府ヲシテ勞農政府トノ接觸ヲ躊躇セシムル事項アリトテ貴電第四九号ノ趣旨ヲ述ベタルニ「ペ」ハ其ノ事實ナルヲ疑フモ兎ニ角莫斯科ヘ問合スベク勞農代表ガ一個人トシテ当地ニ來ルコトニ許可ヲ与ヘラレタシト云ヘルニ付本官ハ政府ヘ問合スヘシト答ヘ置キタリ

撤兵ニ関スル先方提案ハ追テ電報スベキモ其暴慢ナル到底我方ニ於テ考慮ヲ加ヘ得ルモノニアラズ就イテハ本會議ニ對シ今後我方ノ執ルヘキ態度ニ関シ篤ト熟慮ノ上卑見別ニ電報スヘシ

九四七 十一月十五日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
陸軍次官宛（電報）

チタ側提出ノ日本軍撤兵協定案要旨報告ノ件

時八五

（十一月十五日接受）

十一月十四日會議ニ於テ參考ノ為仮ニ手許ニ止メタル齊多提出日本軍撤兵協定案ノ要旨（全文書面）左ノ如シ



第一条 日本帝国政府ハ本協定署名ト同時ニ左記期間ト順序ニ依リ極東共和国領土及領海内ヨリ全軍隊及軍艦ノ撤退ヲ開始ス之カ為特別連合委員会ヲ設ク

第二条 要旨

左記指定期間後一兵一艦船ヲモ残置スルコトナシ

第三条 極東共和国政府ハ本協定署名後本協定第一条ニ示ス領土内ニ自国軍隊ヲ進入セシメ所要ノ機關ヲ設ク

第四条 日本軍ノ撤退順序第一次「スパスカヤ」第二次「グロ」「ボグラ」附近ニ亘ル地区及「ソフィスク」「デカストリー」尼港樺太北半部

右地区撤退期間ハ調印後三週間(第二次)第一次以外ノ地区其期間ハ調印後四週間

第五条 日本帝国軍艦ハ本協定署名後四週間ニ既定国際法旧慣例ニ從ヒ礼砲ヲ実施シテ領海外ニ撤退スルモノトス

第六条 日本帝国ノ文武両官憲ハ本協定調印後極東共和国ニ敵意ヲ有スル団体、機關ハ勿論個人ト雖モ何等ノ援助ヲ与ヘ又ハ之ヲ庇護スルコトナシ

第七条 日本軍撤退迄ハ其駐屯地ニ存在シ且極東共和国ニ敵意ヲ有スル諸団体個人及機關ノ武装ヲ解除シ極東共和

ヲ出シ特別委員会ヲ編成シ右地区受領実施ヲ迅速ナラシム

第十四条 本協定署名ト共ニ其效力ヲ有スルモノトス  
右陸軍省ヨリ外務省ニ通報アリタシ(次長、次官、浦潮濟)

九四八 十一月十六日 内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)  
大連第十四回會議ニ対シチタ側委員トシテ新  
ニブリュールヘル参加ノ旨通報ノ件

會議第二二号  
十一月十四日大連第十四回會議開催齊多側新ニ「ブリュール」(軍事參議會議長陸軍大臣兼軍備司令官)外一名ヲ加フ齊多側委員長ハ依然「ペトロフ」ナリ

九四九 十一月十六日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
陸軍次官宛(電報)  
チタ側提出ノ日本軍撤退ニ関スル協定案發達  
済ノ件

附記 右協定案

時八六 (十一月十六日接受)  
昨十五日發送セル書類(日本軍極東共和国領土撤退ニ関ス

国軍憲ニ引渡スモノトス其ノ実施ノ手続ハ特別連合委員会之ヲ定ム

第八条 千九百十八年一月一日以降日本軍ノ占領セル露國財産及種々ナル露國団体即チ「セ」「メ」政府「カ」軍其他ノ領有セル財産ヲ日本軍ハ斷シテ持去リスルコトナク極東共和国官憲ニ充分ナル保護ノ下ニ交付サルルモノトス

第九条 日本軍ハ堡壘諸建築物其内部財産ヲ毀損破壊スルコトナク極東共和国軍憲ニ交付サルルモノトス

其交付手続ハ第十三条ノ特別委員会之ヲ定ム

第十条 日本軍及日本軍艦隊ノ使用シ又ハ保護下ニアル第九条ノ財産物件ニシテ故意ニ毀損サレタルコト判明スル際ハ日本政府ハ其ノ賠償ヲナスモノトス

第十一条 第八九条ノ財産物件ノ引渡ハ本協定署名後直チニ開始シ四週間ヲ以テ終了サルヘキモノトス

第十二条 日本政府ハ自国軍隊及艦隊ノ撤退ニ際シ千九百十八年一月一日來占領セル物件材料其ノ他輸送ニ関シ精算シ且延期セル關稅ヲ支払フモノトス

第十三条 本協定署名後直チニ各國側四名ヨリ成ル代表者

ル協定)ハ齊多側ヨリ提出セル松島發時第八五号ノ全文トス為念

(附記)

日本軍極東共和国領土撤退ニ関スル協定案

日本帝国政府及極東共和国政府ハ親善及通商ニ関スル協定ヲ締結センカ為極東共和国領土並其領海ヨリ全日本軍ノ撤退順序ヲ決定スルヲ必要ト認メ左ノ如ク協定ス

第一条 日本帝国政府ハ本協定署名ト同時ニ次ニ示セル期間内ニ左ノ如キ順序方法ヲ以テ極東共和国領土並領海域外ニ自国全軍隊及軍艦ノ撤退ヲ開始ス、之レカ実施ノ為メ特別連合委員会ヲ設置ス

第二条 日本帝国政府ハ本協定中次ニ示ス各項ニ於テ指示セル期間内ニ自国軍隊及艦隊ノ撤退ヲ完了シ爾後極東共和国領土内ニハ一日本兵又ソノ領海内ニ軍事上ノ名ヲ有スル一船舶ヲモ残置セサルモノトス

第三条 極東共和国政府ハ本協定署名後本協定第一条ニ指示スル領土内ニ自国軍隊ヲ進入セシメ行政機關ヲ設置ス

第四条 各兵種ヨリ成ル日本軍並ニ補助又ハ特殊ノ名称ヲ有スル軍隊ハ極東共和国領土並ニ其領海ヨリ左ノ如ク撤退

退スルモノトス

一、第一次、「スバスク」―尼市―「グロデコーヴォ」

―「ボグラニチナヤ」―烏蘇里鐵道並ニ「ソフィスク」―「デカストリ」―尼港―「サハリン」島露領ニ屬スル半部分ヨリ撤去ス

其期間ハ本協定署名ノ日ヨリ三週間トス

二、第二次、「ラズドリノエ」―「シコトワ」―蘇城―浦潮―烏蘇里蘇城鐵道―「バラバシュ」―「スラヴァシカ」―「ボシエト」―「ザイサノフカ」―「ノヴォキエフスコエ」―「クラスノセリスク」ノ地区ヨリ撤兵ス其期間ハ本協定署名ノ日ヨリ四週間トス

第五条 日本帝國軍隊ノ全陸軍部隊カ極東共和国領土撤退ニ關スル本協定第四条ノ遂行ト同時ニ極東共和国領海内ニ在ル日本帝國艦隊ノ軍艦ハ本協定署名ノ日ヨリ四週間内ニ既定國際規定ト慣習ニ遵ヒ且定メラレタル砲礼ヲ實施シツツ領海域ヲ退クモノトス

第六条 日本帝國政府ノ文武兩官憲ハ本協定署名ト共ニ極東共和国ニ敵意ヲ有スル如何ナル機關、團體、武裝部隊ハ勿論個人ト雖モ武器ノ供給其他何等ノ援助ヲ為スコト

ヘキ地方ニ存在スル堡壘及建築物並其所屬物件財産引渡ノ順序ハ第十三条ニ指示セル特別委員會ニ於テ之ヲ定ム

第十条 極東共和国領土内或ハ領海内ニ於ケル日本軍及艦隊ノ使用シ或ハソノ保護下ニ在ル第八条及第九条ニ指示スル財産ニシテ故意ニ其一部或ハ全部力毀損サレタルコト判明セシ際ハ日本帝國政府ハ極東共和国政府ニ對シ其損害ヲ賠償スルモノトス、價格ハ第十三条ニ指示セル特別連合委員會ニ於テ定ム

第十一条 本協定第八条及第九条ニ指示セル物件財産ノ引渡ハ本協定署名後直ニ開始セラレ四週間ヲ以テ終了サルヘキモノトス

第十二条 日本帝國政府ハ自國ノ軍隊及艦隊ヲ撤退スルニ際シ信用ヲ以テ千九百十八年一月一日以降隨時占有使用（訳者註、「信用貸借ノ意」）セル物件材料及軍隊貨物ノ輸送資金ニ對シ極東共和国ノ官公衙ト共ニ精算シ且關稅未納金ヲ支払フモノトス

第十三条 本協定ノ實施ヲ速カナラシムル目的ヲ以テ其署名後直ニ極東共和国及日本ヨリ四名宛ノ代表者ヲ出シ兩條約國ノ代表者ヨリ成ル特別連合委員會ヲ設置ス

ナク且又彼等ニ對シ極東共和国領土ノ内外ヲ問ハス保護庇護ヲモ拒絶スルモノトス

第七条 日本軍撤退時其駐屯地ニ存在スル極東共和国ニ敵意ヲ有スル団体、機關、武裝部隊及個人ハ日本軍ニ於テ之レカ武裝ヲ解除シ極東共和国軍憲ノ区署ニ引渡スモノトス、引渡順序ハ本協定第十三条ニヨリ設置セラレタル特別連合委員會ニ於テ之ヲ定ム

第八条 日本帝國政府ノ軍隊、官衙文武兩官憲ハ自己本来ノ所有品ノミヲ撤去ス然レ共千九百十八年一月一日ヨリ隨時ニ日本文武官憲或ハ日本官庁及日本軍隊ノ占領セル財産及物件並ニ各種露國団体及機關即チ所謂「セミヨーフ」「メルクローフ」政府「カペリ」軍及其他ノ團體ノ占領セル財産及物件ハ斷シテ撤去セサルモノトス

該物件及財産ハ總テ其所在ト種類ノ如何ヲ問ハズ其所属ニ從ヒ極東共和国官憲ニ十分ナル安全ト保障ノ下ニ引渡サルヘキモノトス

第九条 日本帝國政府ハ堡壘、建築物ヲソノ所藏物件財産ト共ニ極東共和国軍憲及軍隊ノ管理ニ交附シ斷シテ之カ毀損、破壊ヲ為ササルモノトス、日本帝國軍隊ノ撤退ス

委員會ハ本協定實施ノ計画ヲ作成シ且實施ヲ指導ス

委員會ニ於テ意見一致セサル場合ハ其都度兩者ノ特別協定ニヨリ解決ス

第十四条 本協定ハ署名ト共ニ其効力ヲ有スルモノトス

署名  
署名

九五〇 十一月十六日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議第十五回會議ニ於テ日本ノ撤兵問題  
及該問題ト尼港事件解決ノ關連性等ニ付討論  
ノ件

合第四九号 （十一月十七日接受）

往電合第四七号末段本會議ノ将来ニ關スル卑見開陳ニ先立ち前會議ニ於テ發表セル斉多側ノ意向ヲ的確ニ知ルノ目的ヲ以テ十六日第十五回會議ヲ開キ本官ハ先ヅ前會議ニ於テ發表セラレタル彼我ノ見解ハ著シク異リ居ル処右相違ノ重大ナルニ鑑ミ誤解ヲ避クル為雙方ノ見解ヲ明瞭ニ為シ置クノ必要ヲ認め會議ヲ開キタリト前提シ帝國政府ノ見解ハ「基本協約ノ締結セラルルニ於テハ日本居留民ノ生命財産

ノ安全保障セラレ滿鮮ニ対スル脅威除去セラルルヲ以テ日本ハ自主的ニ沿海州ヨリ撤兵スベク撤兵実施ニ関スル細目ハ軍事協定ニ依リ之ヲ定ムベシ基本協約締結ノ見込付キタル時ハ軍事協定ノ審議ニ移リ場合ニ依リテハ基本協定ト同時ニ締結スルモ可ナリ薩哈噠州ノ撤兵問題ハ尼港事件ノ解決ニ依リ決スベキモ尼港事件ノ責任者ハ極東共和国ニ非ザルヲ以テ日本ヨリ進ンデ齊多政府ニ解決ヲ要求スル能ハザルノ立場ニ在リ但シ齊多政府自ラ進ンデ解決案ヲ提出セバ日本政府ハ喜ンデ之ヲ考量スベシ」ト云フニ在ル処貴委員ハ明瞭ニ此ノ意味ヲ諒解セラレ居レリヤト質問シタルニ「ベトロフ」ハ其ノ趣旨ニ解シ居レリト答ヘ齊多側ノ見解トシテ「日本ノ対案十七個条ニ対スル政府ノ訓令ハ之ヲ所持シ居レリ同対案ニ関シテハ一二ノ片務の条文ノ削除若ハ書方ノ変更ヲ求ムル外他ハ承諾シ得ベク附属文書ノ軍事ニ関スルモノハ全然承認スルヲ得ズ唯右審議ノ順序ニ関シ齊多政府ハ極東共和国全領土ヨリ撤兵スル旨主義上承諾セラ

員会組織ノ時期ニ達シタリト認ムルニ付目下齊多ニ在ル勞農代表者「マルクレフスキー」ノ來連ニ同意ヲ与ヘラレタク漁業協約改定ニ関スル附属文書ニ同意ヲ与フル為ニモ改正スベキ点ヲ研究スルヲ要ス」ト述ベタリ  
本官ハ日本ハ基本協約締結セラルル時ハ沿海州ヨリ撤兵シ尼港事件解決セバ薩哈噠州ヨリ撤兵スベシト為スモノニ付主義上極東共和国全部ヨリ撤兵スルコトニ同意ヲ表シ居ルニ非ズヤト答ヘタルニ「ペ」ハ我主義上撤兵ト云フハ尼港事件解決ト云フ如キ条件附ノモノニ非ズ然ルニ日本ハ薩哈噠駐兵ト尼港事件トヲ結び付クルト同時ニ右解決案ヲ提出セラルルコト無ク我方ニ提出方ヲ求メラルルヲ以テ当惑シ居ル次第ナリト云ヒタルニ付本官ハ齊多側ハ尼港解決案ヲ自ラ提出スルノ意志アリヤ否ヤ該案ヲ提出シタル場合はガ解決ト同時ニ非ザレバ基本協約ニ調印シ得ルヤ承知シタシト問ヒタルニ「ベトロフ」ハ解決案提出ニ関シテハ政府ニ問答中ニ付即答シ難シ尼港事件解決ト基本協約調印ト同時タルヲ欲スルモ事情止ムヲ得ザルニ於テハ尼港事件解決前ニ調印スルコトモアリ得ベシト答ヘタリ次デ本官ハ齊多側ノ意向ニシテ本日説明ノ通りトセバ基本協約ノ調印何時ナ

ルヤ知ルベカラズ從テ勞農代表ノ参加スル漁業委員會ヲ組織スルノ時期ニ達セズト思考ス漁業ニ関スル附属文書ハ日露兩國漁業者ノ利益ノ為ニ改正スルノ主義ヲ認メタル迄ナルヲ以テ是ニ同意シ得ザル理由無ク漁業協約改正案ノ研究ハ莫斯科ニテモ齊多ニテモ出来得ル筈ナリ日本ハ既ニ研究済ナリト述べ更ニ軍事協定案ハ当方ヨリ提出スルヲ当然ト思量シ既ニ案モ作製シアリ然シ前回會議ノ際提出セラレタル案ハ参考ニモト思考シ持帰リタル次第ナルガ是ヲ一読スルニ常識アル人ノ作リタル物トモ覺エズ意外トスル所ナルニ付返却スト云ヒテ先方ニ突返シタルニ「ペ」ハ貴方申出ハ政府ニ伝ヘ其結果ハ孰レ御伝ヘス可シト云ヒ本官ハ今日迄ノ如ク暇取ラス様致シタシト註文シ置キタリ

九五一 十一月十七日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

態度硬化セルチタ側ニ対シ我方ノ執ルベキ方

策ニ関シ意見稟申ノ件

合第五〇号 (至急)

(十一月十七日接受)

齊多側ノ態度強硬トナリタルハ政府部内ニ於ケル硬派勝ヲ制シタルコト米國領事等ノ言動ニ依リ華府會議ニ望ヲ属ス

ルニ至リタルコト日本ハ近ク撤兵セザルベカラザルコトヲ予算編成ノ成行ニ依リ確メ得タルコト等ニ基因スルモノト思考ス尼港事件ノ解決ヲ俟タズシテ薩哈噠州ヨリ撤兵スルコト能ハザルハ勿論ノ義ナルニ付此際帝國政府ノ執ルヘキ策ハ

(一)沿海州ノ駐兵ト薩哈噠ノ駐兵トハ全然其目的ヲ異ニスルコト帝國政府ノ声明ニ依リ明カナリ帝國政府ハ先ツ目下交渉中ノ基本協約ノ締結ニ依リ沿海州駐兵ノ目的ヲ達シ茲ニ撤兵ヲ行ハントス齊多政府ニ於テ尼港事件ニ対スル責任ヲ負フ決心ヲ言明スルニ於テハ帝國政府ハ該事件解決ノ為齊多政府ト交渉シ其ノ解決ヲ俟チテ薩哈噠州ヨリ撤兵スヘキコトヲ保障スルモ右交渉開始ハ基本協約締結後トスベシ依テ即時基本協約ノ審議ヲ求ムト要求スルコト

(二) 尼港事件モ同時ニ解決スルコト

ノ二者何レカヲ択ムノ外ナカルベシト思考ス第一案ヲ採用スル場合ニハ(一)帝國政府ハ先方ニ於テ承諾セザル場合ニハ断然交渉ヲ打切り國策ヲ轉換スルノ覚悟ナキ限り從來ト毫モ異ナル所ナク會議ノ進捗ハ之ヲ期待スベカラズ(二)軍事協定ノ内容ハ今日迄毫モ先方ニ洩シアラザルヲ以テ先方ハ如

何ナル過重ノ条件ヲ提出セラルルヤ怖レ居ルニ付我ニ於テ交渉打切りノ覚悟アル限り第一案採用ニ際シ先方ニ提出スルモ差支ナク却テ其寛大ナルヲ見テ交渉ニ応ズルニ至ルヘシ(三)先方ニ於テ交渉ニ応ジタル後ニ於テ我提案ノ維持ニ際シテモ交渉打切りノ覚悟アル場合ニハ我立場ヲ鞏固ニス但シ速ニ會議ヲ終了スル為ニハ幾分ノ譲歩殊ニ要塞撤廃ニ付或ル程度迄譲歩ヲ為スノ要アルベシ(四)先方ハ交渉ヲ打切りタル場合日本ハ浦潮政權ニ武器ヲ供給シ撤兵スル場合ヲモ想像シ「カッペリー」軍ノ半数ハ齊多側ニ投ズベキニ付毫モ憂慮スルニ足ラズトカ日本トノ協約ナラザレバ米國ト協約スヘシトカ豪語シ居ルモ内心ニ於テハ是彼等ノ非常ニ苦痛トスル所ナルヲ以テ我方ニ於テ交渉断絶ノ決心アラバ先方ハ折レ来ルモノト察ス第二案ヲ採用スル場合ニハ交渉ハ自然長引クベク若シ我ニ於テ速ニ交渉ノ終了ヲ希望スルナラバ大讓歩ヲ余儀ナクセラルベシ大讓歩ヲ為スコト能ハザルニ於テハ必要ニ応ジテ駐兵期限ヲ延長スルノ覚悟アルヲ要ス

尚第一案採用ノ場合ニハ齊多側ヨリ尼港事件解決案ヲ提出セザル以前トスルヲ便宜ト思考スルニ付可成速ニ御詮議ア

日本軍ノ保護ヲ受ケザラシムル為必要ノ措置ヲ取ラル可キヲ期待セリ

大連ニ於ケル日本代表者ハ日本軍及軍憲ハ如何ナル援助ヲモ是等反徒ニ与ヘズト声明セラレタルモ事實ハ是ニ異ルヲ遺憾トス(其実証ハ多数アリトテ九月中旬反革命団ニ武器ヲ供給シタルコト白衛軍ノ地方討伐ニ日本軍ノ参加シタルコト即チ「ワシヤノフカ」事件及蘇城方面ノ協同行軍「メルクーロフ」政權ガ日本官憲承認ノ下ニ日本商人ニ官有物ヲ売却ヒ居ルコトヲ列挙ス)

反革命派ノ暴行ニ憤怒セル平和ノ民ハ自衛ノ手段ヲ講ジツツアリ該手段ハ「バルチザン」式行動トナリテ現レツツアリ十月中ハ日本軍駐屯区域内ニ於ケル反革命派ノ暴行ハ其極ニ達シ無辜ノ住民ノ逮捕拷問殺戮セラルル者其数ヲ知ラズ斯ル罪業ヲ終止セシムル為派遣セラレタル「ツェトリン」氏ハ暗殺セラレタリ

右犯罪ニ対スル責任ハ反革命党ニ歸スルノミナラズ間接ニ日本軍憲ニ歸セザルヲ得ズ蓋シ日本軍ノ沿海州駐屯及白党ニ与フル援助ハ此等犯罪ヲシテ処罰ヲ免レシムルモノナレバナリ

リタシ又第一案採用ニ依リ結局帝國政府ノ決意ヲ知ルニ至ラバ齊多側ハ我ニ有利ナル尼港事件解決案ヲ提出シテ第二案ノ解決ヲ容易ナラシムルコトモアルベシト信ス

九五二 十一月十七日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

日本軍ノ西比利亞撤去ヲ求ムル極東共和国外相ヤンソンノ書翰要旨報告ノ件

合第五一号 (十一月十七日接受)

十七日「ベトロフ」ハ本月六日附外務大臣「ヤンソン」ヨリ帝國外務大臣ニ宛テタル書面ヲ本官ニ送付シ来レリ内容大要左ノ通り

極東共和国政府ハ日本トノ友好通商關係樹立ヲ希望シ日本軍ノ駐兵ニモ拘ラズ交渉ヲ開始シタリ

會議進行中共和国代表者ハ沿海州其他ノ地方ニ於ケル日本軍ノ駐屯及此等地方ニ共和国ニ敵対スル党派武装団存在シ日本軍ノ支持ヲ受ケ居ルコトハ兩國善隣關係樹立ノ重ナル障害タルコトヲ確認セリ

共和国政府ハ日本ガ商議開始ト同時ニ友好ノ精神ニ則リ共和国ノ領土ヨリ全部撤兵シ且共和国ニ反対スル党派ヲシテ

極東共和国政府ハ茲ニ右暴行ニ対シ重ネテ抗議ヲ呈シスカル行為ハ日本軍憲ガ反革命黨援助ヲ中止シ共和国領土ヨリ撤兵シタル後始メテ終止セラルヘキコトヲ力説スルモノナリ

共和国政府ハ日本政府ガ共和国ノ領土ヨリ撤兵シテ友好ノ誠意ヲ表示スル時ニ於テ始メテ大連會商ハ円満ニ終結シ兩國善隣關係樹立セラルベシト信ズ

九五三 十一月十八日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ於テ我方ガ從來ノ行懸ヲ捨ツルノ英斷ニ出ツルヲ可トスル旨進言ノ件

合第五二号 (十一月十八日接受)

チタ政府トノ交渉ノ将来ニ関シ往電合第五〇号ヲ以テ開陳シタル卑見ハ本官ニ於テ授ケラレタル交渉方針ヲ基礎トシタルモノナルガ右方針ヲ離レテ忌憚無キ意見ヲ述べ御參考ニ供セントス

前電第一案ヲ採用スル場合ニ於テ交渉断絶スルモノトセバ其責任ハ寧ロ吾ニ存シ彼ハ其ノ非ヲ世界ノ輿論ニ訴フ可シ第二案モ予算ノ關係上到底不可能ナリトセバ茲ニ從來ノ行

懸ヲ全然拋棄スルノ一大英斷ニ出ツルヲ可ト信ズ即チ大連交渉ハ之ヲ促進スルコトナク暫ク停滯セシメ其ノ間帝國政府ハ沿海州撤退ノ準備ヲ急ギ準備成ルヤ自主的撤兵ヲチタ側ニ通告シ同時ニ撤兵ヲ開始スルノ策ニ出ヅルコト之ナリチタ側ハ自主的撤兵ニ異議ヲ称フル能ハザルモ軍事協定無クシテ撤兵セラルル場合ニハ我軍ノ遺棄スル軍需品等ハ浦潮政權ノ手ニ帰スルヲ以テ軍事協定ノ締結ヲ求メ来ル可シ右ニ對シテハ我方ハ撤兵後ニ於ケル居留民ノ生命財産ノ安全ニ對スル保障満鮮ニ對スル脅威除去ニ関スル保障ヲ与フル協約ノ調印ヲ為サズシテ単ニ軍事協定ノ締結ヲ求ムルノ我儘勝手ナルヲ指摘スルトキハチタ側ハ或ハ基本協約ノ審議ヲ急ギ我ニ有利ニ解決シ得ルヤモ知レズ尚撤兵ハ先方ノ希望シタル所ナルヲ以テ軍事協定無クシテ撤兵ヲ開始スルモ大連交渉ヲ断絶スト云ヒ出スコト能ハザルベシチタ側ニ於テ軍事協定ノ締結ヲ求メ来ルコト無キ場合ニ於テモ大連交渉断絶ノ口実ヲ与ヘザル為初メヨリ浦潮政權ニ軍需品ヲ交付スルコト無ク我が撤退ニ方リ「パルチザン」其他ノ追躡ヲ防ギ軍ノ後方ヲ安全ニシ得ル程度ニ武器ヲ反過激派ニ交付シ其ノ他ハ放棄ノ形式ヲ執ルヲ要スト思考ス

言出シタルハ尼港事件解決ヲ後廻シトシ基本協約ヲ締結スル場合ニ日本ノ解釈ノ如ク尼港附近ハ薩哈噠州中ニ包含セラルルモノトセハ斉多側ニ重要ノ關係アル尼港地方ハ依然日本軍ノ駐屯ヲ見ルベキヲ顧慮シタルニ依ルモノト思考ス故ニ往電第五〇号第一案ニ先方ニ於テ応スル場合ニモ沿海州ノ範圍ヲ先方解釈ノ通りトスルコトヲ条件トスルヤモ知レズ其ノ場合ニ於テ我方ノ執ルヘキ態度予メ御考量置キアリタシ尼港事件解決ノ保障トシテノ占領ナルヲ以テ尼港地方ノ占領ヲ主トシ他地方即チ樺太ノ占領ハ尼港占領確保上必要ナリトノ趣旨ヨリスレバ尼港駐兵ハ主義一貫スル次第ナルモ尼港事件解決ノ為ノ保障ト謂フ意味ヲ広義ニ解スレバ必ズシモ尼港ニ駐兵セズトモ可ナルヤニ信ゼラル尚第一案採用ノ場合ニ我提議ニ応ズルヤ否ヤノ回答ハ一週間乃至十日ノ期間附ナルヲ要スト思考ス

九五五 十一月十九日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛

極東共和国外相ヤンソンヨリ内田外相宛書翰  
進達ノ件

附屬書 右書翰

右ノ狀況ニ於テハ大連交渉ハ可成之ヲ停滯セシメ我軍撤退後ニ於ケル浦潮政權ノ実力如何ヲ見ルコトモ必要ナルヘシ又我ニ於テ此ノ態度ヲ取ルトキハチタ側ハ日本ガ浦潮政權ヲ援助スルニアラズヤト懸念シ協約ノ締結ヲ急グニ至ルモノト思考ス  
協約締結後ノ撤兵トスルモ居留民ノ一部ハ同時ニ撤退スヘク協約締結前ニ撤兵スルモ居留民ノ一部ハ踏止マルヘク残ル大部分ハ協約締結ノ有無ニテ左右セラルヘシ從テ協約締結前ノ撤兵ハ居留民ニ對スル打撃タルベキニ付政府ハ何等カノ方法ニ依リ在留民ヲ救恤シ政情安定ノ後再ヒ渡航セシムルノ途ヲ考慮シ置クノ要アリト思考ス

九五四 十一月十八日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

尼港駐兵問題ニ関シ意見稟申ノ件

合第五三〇号 (至急) (十一月十八日接受)

往電合第五〇号追加

極東共和国全領土ヨリ撤兵ヲ要求スル場合ニハ沿海州及薩哈噠州ノ範圍ヲ云々スル必要ナキニ拘ラズ「ベトロフ」ガ沿海州ヨリ撤兵トハ大陸全部ヨリ撤兵ノ意味ニ解スト特ニ

機密第五号 (十一月二十四日接受)

大正十年十一月十九日

大連出張先

浦潮派遣軍政務部長 松島 肇(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

往電合第五一号ヲ以テ及報告置候日齊交渉ニ関スル極東共和国外務大臣「ヤンソン」発閣下宛十一月六日附書信別紙ノ通及進達候間御査閱相成度此段申進候 敬具

本信写送附先

在浦潮派遣軍政務部

在中国公使

(附屬書)

十一月六日附チタ政府外務大臣ヤンソンヨリ内田外務大臣宛書翰

RÉPUBLIQUE D'EXTREME-ORIENT

Ministère des Affaires Étrangères

TO THE MINISTER FOR FOREIGN AFFAIRS OF  
THE IMPERIAL GOVERNMENT OF JAPAN.

The Government of the Far Eastern Republic being

desirous of establishing friendly relations with Japan and of creating an amicable commercial intercourse between the two countries, has opened negotiations with the Japanese Government, notwithstanding the presence of the Japanese Expeditionary troops in the territory of the Republic. The Government of the Far Eastern Republic thereby maintained the idea, that the economic recovery and development of the Republic's resources would favourably reflect on Japanese trade and industries.

In the course of the negotiations with the representatives of the Japanese Imperial Government at the Dairen Conference, the representatives of the Far Eastern Republic realized that the presence of the Japanese troops in the Maritime Province and other districts of the Far Eastern Republic, as well as the existence in those districts of Russian organizations and armed groups hostile towards the Republic, and which are invariably supported by the

Japanese Military Command,—both constitute the principal obstacle towards the establishment of good neighbourly relations between the two nations.

The Government of the Far Eastern Republic entertained the belief, that simultaneously with the opening of the negotiations at Dairen, and in conformity with the friendly intentions, the Japanese Government will order the complete evacuation of her troops from the territory of the Far Eastern Republic, while taking all necessary steps for depriving the hostile towards the Far Eastern Republic Russian organizations of the protection from the Japanese Military Command.

The representatives of the Imperial Japanese Government at the Dairen Conference made a corresponding declaration to the representatives of the Far Eastern Republic in the sense, that no support of whatever nature will be afforded by Japanese troops and their military authorities to the said

rebellious organizations and detachments. Nevertheless the Government of the Far Eastern Republic regrets to state, that the above declaration is not yet in harmony with the actual situation.

The Government of the Far Eastern Republic is in possession of undeniable information proving that while negotiations for the establishment of amicable relations between the two neighbouring countries were carried on by their corresponding representatives in Dairen, the various Russian counter-revolutionary organizations within the occupation zone were directly and indirectly supported by the Japanese troops and their military authorities in their activities against the Far Eastern Republic.

Already in the middle of September the Japanese Military Command supplied the Russian counter-revolutionary bands with arms, and Japanese troops invariably participated, in numbers sometimes exceeding those of the Russian White Guards, in their

punitive expeditions against the local peaceful population.

As a proof of the above the following deplorable facts may be cited: on the 15th September a military detachment consisting of thirty three Japanese soldiers and two Russians in Japanese uniform attacked a military outpost of the army of the Far Eastern Republic stationed in the village of Vassianovka; on the 16th of the same month the movement of Japanese troops conjointly with Russian counter-revolutionary military units took place in the districts of Vladimiro-Alexandrovsk and Suchan. At the same time the Japanese authorities continued to indirectly support the counter-revolutionaries: the so-called Merkuloff Government illegally seized the stores accumulated in Vladivostok and its vicinity, the lawful property of the Government and the citizens of the Far Eastern Republic, and disposing of these stores to Japanese firms with the evident

approval of the Japanese authorities.

The peaceful population of the Maritime Province, provoked and indignant with the atrocious actions of the counter-revolutionary Russian bandits, is adopting measures of self-defence. These measures expressed in the Partizan movement often lead to the regrettable destruction of the property of the Far Eastern Republic and the undesirable armed conflicts in the Province.

During the last month the brutal activities of the counter-revolutionary Russian organizations within the area occupied by the Japanese expeditionary forces have reached their zenith. Numeral arrests of innocent and peaceful Russian citizens were occurring daily, the arrested being subjected to inhuman tortures and being executed without trial, thus in October was treacherously shot R. A. ZETLIN, who was delegated to Vladivostok by the Government of the Far Eastern Republic with a view of liquidat-

liquidated only after the Japanese Military Command completely withdraw their direct and indirect support of the Russian counter-revolutionary military and other organizations, and after the Japanese expeditionary forces will be evacuated from the territory of the Far Eastern Republic.

The Government of the Far Eastern Republic believes, that the negotiations now proceeding at Dairen may be brought to a mutually favorable conclusion and may lead to the establishment of friendly economical relations between the contracting parties only on the actual evacuation of the Japanese troops from the territory of the Far Eastern Republic, the Japanese Government thus proving the sincerity of her friendly intentions towards the Far Eastern Republic.

THE MINISTER FOR FOREIGN AFFAIRS  
OF THE FAR EASTERN REPUBLIC.

(Signed) J. Janson

ing those criminal actions.

The responsibility of the above crimes does not only rest with the Russian counter-revolutionary bands, who in their futile attempts against the legal authorities of the Far Eastern Republic resort to unheard-of brutalities. The Government of the Far Eastern Republic is also forced to hold responsible for it, though indirectly, the Japanese Military Command, who by maintaining the expeditionary army in the Maritime Province and by the support and protection extended to the Russian White Guard organizations operating in that Province create the possibility for the violations committed against the peaceful Russian population to remain unpunished.

In view of the above the Government of the Far Eastern Republic once more protests most vigorously against the acts of violence and brutality to which the citizens of Maritime Province are subjected, and emphasizes, that such acts may be thoroughly

Chita, 6th day of November 1921.

九五六 十一月十九日

浦潮派遣軍参謀長ヨリ  
参謀次長宛(電報)

ヤンソン発内田外務大臣宛書翰ニ強硬ニ反駁  
スル必要ナル旨稟申ノ件

浦参謀九九一

(十一月二十四日外務省写接受)

十七日「ハトロフ」カ松島ニ交付シタル「ヤンソン」発外務大臣宛書面ノ内容ハ概括的ニ云フトキハ斉多側ガ日本ノ弱味ヲ見通シ暴徒ト宣伝トニヨリ日本ノ手ニ依リテ白党ノ力ヲ減殺シ且日本軍ノ撤兵ヲ迅速ナラシメントスルノ策ニ外ナラズ故ニ本書面ニ対シテハ左ノ如ク強硬ニ反駁スルニアリ

一、「ワシヤノフカ」事件

九月十五日「マンゾフカ」駐屯中隊ヨリ約三十名ヲ偵察ノ目的ヲ以テ東方ニ行軍セシメタルニ「ワシヤノフカ」附近ニ於テ突然武装団隊ニ遭遇シタルヲ以テ之ヲ東方ニ驅逐セリ元来「ワシヤノフカ」ハ鉄道線路ヨリ僅ニ二十軒ヲ距テタル地点ニシテ武装団隊ノ存在ヲ許サザル処ナリ当時軍ニ於テハ同地ニ在リシ武装団隊ハ斉多側ニ連絡

アルヲ察知シアルモ遺憾ナガラ明瞭ナル証拠ナカリシヲ以テ之ヲ「バルチザン」ト認メ松島ヨリ「ペトロフ」ニ其レトナク「バルチザン」行動ヲ中止スヘク注意セシメタリ

九五七 十一月二十四日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ參謀次長宛(電報)

ユーリン及コゼウニコフノ免職ニ関スル情報  
等報告ノ件

浦參謀第一〇一〇号 (武市電)

(十一月二十六日參謀本部ヨリ写接受)

一、「ユウリン」「コゼウニコフ」ノ免職ニ関シ武市「エス、デー」派ノ諜報ニ依レハ「ユ」「コゼ」トモ此度日露協商ハ日本政府ヨリ先ニ協商開始ヲ申出デタル旨莫斯科政府ニ報告セリ

莫斯科政府ハ之ヲ信シ其積リニテ凡テ対日本案ヲ作製セリ然ルニ「ペトロフ」大連ニ到着シ愈々談判開始スルヤ日本ノ態度全ク之ニ反シ「ユ」「コゼ」ハ自己ノ事ヲ誇ラントシテ虚偽ノ報告ヲ為シ露国側ノ对案ヲシテ甚タシク不利ニ導キタル為懲戒処分ヲ受ケタルニアリ

(イ)沿海州ノ撤兵、通商其他ニ関スル基本協約成立後撤兵スルコトハ這回交渉ノ大趣旨ニシテ七月十二日ノ閣議及外交調査会決定中ニモ「チタ政府ニシテ我条項ヲ承認セバ屢々帝国ガ駐兵理由トシテ声明セル滿鮮ニ対スル脅威ト居留民及交通ノ安全ニ対スル不安トガ除去セラレ自衛ノ為駐兵スルノ必要ナキニ至ルヲ以テ沿海州及北滿ヨリ撤兵ス」トアリ協約成立前撤兵スルハ這回ノ交渉ノ大趣旨ヲ没却スルモノト云フヘシ

(ロ)薩哈連州ノ撤兵、尼港事件解決後ニアラザレバ撤兵スルコト能ハズ是レ保障的占領ノ性質上当然ノ次第ナリ  
二、尼港事件ノ解決ヲ這回ノ通商其他ニ関スル協約締結ト同時ニ行フコトハ承諾シ難シ但「チタ」側ガ誠意責任ヲ以テ解決条件ヲ提示スル場合ニハ之ニ対シ考慮ヲ加フルコトトスベシ

蓋シ尼港事件解決ノ相手方タルベキ露国政府ハ充分実力ト責任ト誠意トヲ有スルモノナラザルベカラズ「チタ」政府ハ此際同事件ノ解決ヲ希望スト雖モ果シテ右資格ヲ具有スルヤ否ヤ甚ダ疑ナキ能ハズ依テ先ヅ通商其他ニ関スル基本協約ヲ締結シ其実行如何ニ依リテ同政府ノ実力

二、「ブリュヘル」ハ日本ガ撤兵サヘスレバ其他ノ条件ノ如キハ日本ノ云フガ儘ノコトヲ承認スルモ可ナリトノ訓令ヲ受ケアリト(条約ノ実行ニ重キヲ置カズトノ意)

三、齊多議會及武市「エス、エル」側新聞論調ハ齊多政府ノ日米ニ対スル不信ノ政策ヲ攻撃シ又大連會議ヲ裏切ルカ如キ不心得ヲ以テ米國ニ臨ムハ不可ナリト論セリ  
東京、大連、各特務 済

九五八 十一月二十五日 欧米局調書(註)

大連會議ニ於ケル我方及極東共和国間意見ノ  
対立点ニ付採ルベキ態度ニ関スル件

今日迄ノ經過ニ徴スルニ大連會議ニ於ケル彼我意見ノ相異中最モ主要ナルモノ三アリ

一、基本協約成立前全部撤兵

二、尼港事件ノ同時解決

三、勞農政府代表者ノ参加

右ニ対シ我方ノ取ルヘキ態度ヲ考フルニ

一、通商其他ニ関スル基本協約成立前露領ヨリ全部撤兵スルコトハ承諾シ難シ

誠意ヲ確ムルヲ必要トス七月十二日ノ廟議決定ニモ「尼港事件ノ解決ハ之ヲ後日ニ譲ルコト」トナリ居レリ要スルニ這回ノ協約締結ト同時ニ尼港事件ヲ解決スルコトハ時機尚早ト云ハザルベカラズ尤モ「チタ」側ヨリ誠意責任ヲ以テ解決条件ヲ示スニ於テハ之ニ対シ相当考慮ヲ加ヘ以テ他日交渉ノ余地ヲ存シ置クコト得策ナリ

三、勞農政府代表者ノ参加ハ目下承諾シ難シ漁業問題ニ付テハ基本協約ニ於テ「チタ」政府ノ関スル限り我要望ヲ容レシムル方針ヲ取り尚同協約成立ノ見込確實ナルニ至ラバ漁業委員会ニ勞農代表者参加ノ件ヲ考慮スルコトトスベシ

勞農代表者ノ参加ヲ直ニ承諾シ難キ理由左ノ如シ  
(1)先ヅ極東共和国ト取極ヲ締結シ次テ之ニ対シ勞農政府ノ諒解ヲ求ムベキコトハ七月十二日廟議ノ決定セル所ニシテ此際右決定ヲ變更シ直ニ勞農政府ト交渉ニ入ルハ時機尚早ナリ

抑モ極東共和国ノ成立ハ勞農政府ガ我国其他トノ直接交渉ノ困難ナルヲ察シ緩衝國ヲ設置スルノ趣旨ニ出デタルモノニシテ帝國政府亦勞農政府トノ交渉ヲ避ケ極



東共和国が非共產主義ヲ採レルニ鑑ミ先ヅ之ト通商撤兵ニ関スル交渉ヲ開始スルニ至リタルモノニシテ右事情ハ勞農政府ノ本質及地位ニ重要ナル變化ナキ限り之ヲ無視スルハ穩当ニアラズ

(2) 勞農側が参加ヲ求ムル真意明カナラズ今直ニ其参加ヲ許ストキハ問題ヲ錯綜セシメ談判ノ進捗ヲ阻害スル虞アリ蓋シ右参加要求ハ勞農政府ガ内外ニ對シ自家ノ地位ヲ強固ナラシメントスル政略ニ基クカ或ハ我國ニ對シ共產革命宣伝ノ機會ヲ作ラントスル魂胆ニ出デタルニアラズヤト疑ハルヲ以テナリ

(3) 従来勞農政府ハ他國トノ條約ヲ無視シタル実例多ク其誠意猝カニ信ヲ置キ難シ左ニ重ナル例ヲ挙ゲンニ

(1) 勞農政府ハ英露通商協約ニ反シ中央亞細亞方面ニ宣伝ヲ行ヒ進ンデ阿富汗ヲ其勢力下ニ置キ更ニ波斯ヲ操縱シ英國トノ條約ヲ破棄セシメテ英國ノ波斯政策ヲ覆シ「カーゾン」卿ヲシテ其多年ノ努力ノ水泡ニ帰シタルヲ嘆ゼシメ又英國議會ニ於テ英露通商協約ハ政治上ニモ通商上ニモ何等ノ價值ナシトノ議論ヲ惹起セシムルニ至レリ新聞紙ノ伝フル所ニヨレバ同

ノ下ニ其参加ヲ許スコトスルモ差支ナカルベシ

要スルニ我方ハ以上三点ニ付強硬ノ態度ヲ持シ交渉断絶ヲ辞セザル決意ヲ示シテ基本協約ノ成立ヲ促進シ若シ先方ニシテ其態度ヲ改メザルニ於テハ我委員ヲ引揚ゲ暫時形勢ノ發展ヲ注視スルコトトスベシ

註 右調書ハ内田外務大臣ノ内意ニ基キ欧米局(第一課)ニ於テ作成シタルモノナリ

九五九 十一月二十六日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府漁業委員ノ来連ニ関シ請訓ノ件

第三八号 (十一月二十七日接受)

「ペトロフ」ハ勞農政府漁業委員「マルフレウスキー」ガ個人トシテ大連ニ来ルコトヲ許容セラレタキ旨重ネテ申出デタリ我方ト接觸ノ機會ヲ捉ヘントスル勞農政府ノ努力及齊多政府ガ勞農政府ノ指揮下ニ在ルカ若クハ之ト協議ヲ為スノ必要ニ迫ラレ居ル事實ハ右ノ申出ニ依リ之ヲ看取スルニ難カラザルモ我方ニ於テハ基本協約ノ締結迄ハ特別委員會ヲ組織セザルノ態度ヲ持スル限リ「マ」ノ来連ニ反對スルノ必要モナク又来連拒絶ニ由リ日本ハ漁業問題ノ交渉ヲ

協約ノ締結者商務大臣「ホーン」氏モ其通商上ノ効果極メテ少ナキニ顧ミ對露政策變更ニ傾ケルモノノ如シト云フ

(d) 芬蘭トノ講和條約ヲ無視シ「ベチェンガ」地方ヲ占領シタリ

(e) 波蘭トノ講和條約ニ反シ同國內ニ共產主義宣伝ヲ計畫セリ

(f) 「エストニア」トノ講和條約ニ拘ラズ同國內ニ共產主義ヲ煽動シ内乱ヲ起サシメントシタリ

(g) 其他「バルチック」沿岸諸邦ノ独立ヲ承認シ乍ラ頻リニ其領域内ニ共產主義ヲ宣伝セリ

前記ノ如ク我方ガ先ヅ「チタ」政府ト交渉ヲ進ムルノ方針ヲ維持スル以上漁業問題ニ付テモ基本協約ニ於テハ同政府ノ関スル限リ我要望ヲ容レシムルコトスル外ナシ尤モ主要漁業地タル勘察加地方ガ勞農政府ノ版圖ニ屬スル關係上結局同政府ト交渉スルノ必要アルベキモ此際漁業委員會ヲ設ケ勞農代表者ヲ参加セシメテ審議スルトキハ交渉永引ク恐アルニ依リ基本協約ノ成立確實ナルニ至ルヲ待チ勞農参加ノ件ヲ考慮シ場合ニ依リテハ一定条件

回避スルモノナリトノ疑念ヲ先方ニ抱カシムルハ不得策ト思考スルニ付「マ」ノ来連ニ同意ヲ与フル方然ルベシト存ズ何分ノ儀御回訓ヲ請フ

明二十七日會議ヲ開キタキ旨「ベ」ヨリ申出アリ本官ハ之ニ同意シ置キタリ

右政務部ニ転電セリ

九六〇 十一月二十七日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第十六回ニ於テペトロフ尼港事件日

本撤兵問題ニ付チタ政府ノ意嚮ヲ述べ次デ基

本條約案審議ノ件

合第五五号(至急) (十一月二十八日接受)

齊多側請求ニ依リ二十七日第十六回會議開催「ペトロフ」ハ前回會議ニ於テ日本側ヨリ提出セラレタル質問ニ對スル齊多政府ノ回答ヲナスヘシト前提シ尼港事件解決ニ関シ日本ノ希望ヲ承知セザルヲ以テ具体案ヲ提出スルヲ困難トスルモ解決条件中ニ領土ノ割譲ヲ入ルルコトニハ絶対ニ承諾ヲ与フル能ハザルト同時ニ經濟的「コンセツション」ヲ提供スルコトニ同意シ得ヘシ(如何ナル地方ニ於テ「コンセ

ツシヨ」ヲ与フルカハ今言明シ能ハズト云ヒタルハ北樺太ニ於テノミ与ヘントスル意向ナルモノト察ス）兎ニ角本問題ノ為ニ特別委員会ヲ組織シ之ヲ審議スルコトト致度シ日本政府ニ於テ大陸ヨリ全部撤兵スルコトニ同意セラレ且右特別委員会ニ於テ尼港事件解決ノ見込付クニ到ラバ基本協約及軍事協定ニ調印シ得ヘシ（北樺太ノ駐兵ハ尼港事件解決迄其儘トスルノ意）尤モ尼港事件解決ノ見込付キタル時基本協約ニ調印スト云フハ我希望ニシテ委員会ノ審議拂ラザル場合ニハ審議中ニ基本協約ニ調印スルコトナルヘシト思考ス尚漁業委員会設置ニ関シテハ基本協約成立ノ見込付キタル時トスルノ意見ニ同意スト述ヘ本官ノ意見ヲ問ヒタルニ付本官ハ日本政府ノ意向ハ尼港事件解決ニ関シ極東共和国政府ニ於テ提案スルニ於テハ之ヲ考量スヘシト云フニ在リシヲ以テ經濟的「コンセンシヨ」ノ提供ニ満足スヘキヤ否又委員会組織ノ意向アリヤ否又基本協約ノ締結ニ依リ大陸全部ヨリ撤兵スルコトニ同意スヘキヤ否ヤ之ヲ承知セサルニ付政府ニ報告ノ上何分ノ儀回答スヘシト答ヘ置キタリ

次テ「ベトロフ」ハ我カ協約案ニ対スル意見ノ發表ヲ今日

制度ヲ採用シタルハ寧ロ確實ナル保障ト見做スベキニアラズヤ尤モ第四条ノ財産ノ意味範圍ヲ明確ニスルコト（土地所有權ハ認メズ）ニハ異議無シト云ヘリ依テ本官ハ共和国内ニ共產主義ヲ唱フル団体アルコト為政者ノ多数及國民議會ノ多数ガ共產主義者ナルコトヲ指摘シ日本國民ハ何時憲法ノ改正ヲ行フヤモ知レズト危惧シ居ル旨ヲ陳ベ露國ハ真先ニ共產主義ヲ實施シタル実例ニ徴シ共產主義ハ単独ニテハ實施シ難シト云フヲ得ズ又共產主義者カ其ノ主義ヲ棄テタルハ當時ノ事情ヲ顧慮シタルニ依ルモノナルヘク一般社會ノ事情變化シテ共產主義實施ヲ可能ナラシムルニ至ラバ再ヒ其ノ本来ノ主義ニ立返ルヘキモノト解セザルヲ得ズ故ニ第二条ト同趣旨ノ条文ヲ存置スルノ必要アリト陳ヘ一先ツ話ヲ打切りタリ

尼港事件解決方其他ニ関スル先方提案ニ対スル帝國政府ノ回答ヲ待タズシテ會議ヲ続行シ我ガ協約案ノ審議ヲ為スコトトシ閉会セリ

九六一 十一月二十七日

松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

浦潮政權ノ非人道的行為ノ阻止ニ付日本軍憲

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九六一

迄差控ヘタルハ撤兵ニ関スル主張著シク懸隔シ居リタルカ為ナリト弁解シタル後齊多政府ハ普通國家間ニ締結セラルルカ如キ正式條約ノ締結ヲ希望シタルモ速ニ日本トノ親善關係ニ入ランコトヲ欲シ最初ノ主張ヲ放棄シ日本提案ヲ交渉ノ基礎トスルコトニ同意ス而シテ日本提案中先ツ第二条ノ如キ共和国ノ主權ヲ束縛スル命令の条文ハ之カ削除ヲ請求セザルヲ得ズ且財産權ハ第四条ニテ保障セラレアルヲ以テ足レリトスヘシト言ヘルニ付本官ハ日本國民ハ共和国内ニ於テ事業ニ着手スルニ當リ何時共產制度ヲ採用セラルルヤモ計リ知レズトノ危惧ノ念ヲ抱クヲ以テ本条ノ保障無キニ於テハ安心シテ共和国内ニ於テ事業ニ従事スルコト能ハズ第四条ハ財産ノ保護ヲ規定スルモ其財産ノ範圍ハ如何様ニモ制限シ得ヘキヲ以テ同条ノミニテハ私有財産制ノ保障トハナラズ故ニ第二条ノ意味ノ条文ヲ必要トスト答ヘタルニ「ベトロフ」ハ極東共和国ハ憲法ヲ以テ私有財産制度ヲ認メ此ノ方針ヲ以テ著々法制ヲ設ケ外國貿易モ最近著シク發展シタルニ鑑ミ日本國民ノ危惧ハ杞憂ニ過ギズ加之共產制度ノ如キ四圍ノ諸國ニ於テ之ヲ實施セザル限り露國ニ於テノミ之ヲ實施スルヲ得ズ共產主義者モ其主義ヲ棄テテ現

#### ノ尽力ヲ煩シ度旨ベトロフヨリ申出ノ件

合第五六号

（十一月二十八日接受）

第十六回會議ノ終ニ於テ「ベトロフ」ハ「浦潮政權ハ最近理由ナキ逮捕銃殺ヲ行ヒツツアルニ付人道上斯カル行為ヲ阻止スル為適當ノ方法ヲ講スル様日本委員ニ交渉セラレタキ旨在浦潮職業同盟組合員四万人ヨリ請願アリタリ就テハ「メルクーロフ」一派ノ政變ヲ起シタル當時ニ於ケル如ク理由ナキ迫害ヲ阻止スル様日本軍憲ノ御尽力ヲ煩シタシ」ト申出テタリ依テ本官ハ浦潮ニ於テ「メ」政權反對ノ企圖アル為同政權ニ於テ對抗手段ヲ執リツツアルコトハ之ヲ聞クモ裁判モナクシテ処罰スルノ事實ハ之ヲ承知セズ併シ事實トセバ人道上相當ノ方法ニ出ヅル様軍司令官ニ電請スヘシト答ヘ最近浦潮附近ニハ馬賊及之ニ類スル露國人ノ出没スルアリ日本人ノ被害モアルニ付殺戮行方不明等ノ事件ヲ以テ全部「メ」政權ノ行為ト断定スルコト困難ナルヘシト附言シ置キタリ

九六二 十一月二十八日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長（大連出張中）宛  
（電報）

勞農政府漁業委員ノ來連ニ関シ回訓ノ件

九六二

一〇一五

第五五号

貴電第三八号ニ関シ

「マ」が個人トシテ大連ニ来ルコトニ同意セラレ差支ナシ  
註 前出九六〇文書

九六三 十一月二十八日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第十七回ニ於テペトロフ基本条約日

本側提案第八條ノ削除ヲ主張シ我方之ニ反対

ノ件

合第五八号

(十一月二十八日接受)

二十八日第十七回會議ニ於テ「ペ」氏ハ書方ヲ變更スル条文ハ後廻シトシ削除ヲ求ムル条文ニ付政府ノ意向ヲ開陳スヘシトテ第八條ヲ挙ケ其理由トスル処ハ該条文ハ片務的ナルノミナラス共和国ノ主權ヲ傷クルモノナリ浦潮ヲ商港トナスト否トハ共和国自ラ決定スヘキモノトシテ外国トノ條約ニ依リ羈束セラルヘキニアラズト云フニアリト陳ヘ共和国ハ平和主義ヲ採用スルモノニシテ唯一ノ海港タル浦潮ヲ外国人ニ對シ閉鎖スルカ如キコト全然無之ニ付斯ル条文ヲ設クルノ必要無ク又貿易ヲ阻害スルカ如キ施設モ勿論之ヲ

九六四 十一月二十九日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛  
(電報)

大連會議ノ進行促進方ニ付訓電ノ件

第五七号

貴電合第五五号及合第五八号ニ關シタ側ハ我提案ノ各箇条ニ對シボツボツ討議ヲ試ミツツアルモ斯克テハ交渉長引クベキニ付貴官ハ此ノ際先方ヲシテ我案ニ對シ総括的ニ文書ヲ以テ至急答案ヲ提出シ且ツ必要ニ応シ説明ヲ為サシムル様取計ハレ度

九六五 十一月二十九日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議第十八回ニ於テペトロフ基本条約日

本提案第十一條ノ鉱業、林業、土地所有權ノ

規定等ノ削除ヲ主張ノ件

合第五九号

(十一月三十日接受)

第十八回會議(二十九日)

「ペトロフ」ハ先ツ第八條ニ付テハ双方ノ主張異ルニ付政府ニ報告スルコトトシ他ノ問題ニ移リ度シト言ヘルニ付本官ハ單ニ報告ニ止マラス妥協点ヲ見出ス為各自意見ヲ政府

為ササルモ此点ハ第六條ノ通商航海條約審議ニ當リ充分協議シ得ヘシトテ同條ノ削除ヲ繰返シ主張セリ本官ハ之ニ對シ片務的條項ノ入ルノ止ムヲ得サル所以ハ我協約案提出ニ先チ陳ヘ置キタルカ共和国ノ如キ特別ノ事情ノ下ニアル國家ニ於テハ何時現時採用シ居ル政策ヲ變更スルコトアルヤモ知ルヘカラサルニ付第八條ノ如キ保障アルニアラサレハ日本國民ハ安心スルヲ得ス片務的ノ形式ヲ忌ムナラハ日本モ敦賀又ハ小樽ニ關シ同様ノ約束ヲナスモ可ナリ第八條ヲ以テ主權ヲ傷クルモノナリトノ議論ハ之ヲ諒解スルニ苦シム通商ノ自由居住權等ヲ外國人ニ許スト否トハ主權ノ自由ナリ條約ニ依リテ之ヲ外國人ニ許ストキハ主權ハ制限セラルヘキモ之自ラ加ヘタル制限ニシテ強制セラレタルモノニ非サルヲ以テ主權ハ毫モ傷ケラルコト無シ之ト同様浦潮港ヲ商港トナスコトヲ約シタリトテ共和国ノ主權ハ決シテ傷ケラレス共和国ノ承諾無シニ商港トナサハ主權ヲ傷クルコトナルヘキニ付日本ハ其承諾ヲ求ムルモノナリ唯第八條ノ書方面白カラストセハ之ヲ變更スルモ可ナリト陳ヘ議論シタルモ何等決スル処ナク閉會セリ

ニ具申スルコトト致シ度シト答ヘタルニ「ペ」ハ通商航海條約審議ノ際浦潮港ニ適用ス可キ規定ノ協議ニ依リ事實上問題ヲ解決スルノ外途無シト思考スト述ヘタル後第十一條ノ審議ニ移リ鉱山業林業等ハ第五條ノ産業ニ含マルルヲ以テ茲ニ重複規定スルノ必要無カル可ク又極東共和国憲法ハ鉱業林業農業ニ關シ何等外國人ニ對シ制限ヲ加ヘス自國人民ト同様ノ待遇ヲ与ヘ居ルヲ以テ益々斯カル条文ヲ設クルノ必要無キニ付是ヲ削除シテ然ルヘシ土地所有權ハ自國人ニモ認メ居ラサルニ付是ヲ外國人ニ認ムル能ハス尚土地租借權ハ憲法ニ依リ三十六年ナルヲ以テ是ヨリ長期ナルヲ得ス(第十一條ノ他ノ部分ニ付テハ本件審議ノ後審議スルコトトシタリ同様削除ヲ要求スルモノト思考ス)ト述ヘタルニ付本官ハ普通ノ用例ニ從ヘハ産業ナル文字ハ土地ト密接ノ關係アル事業即チ鉱業農業等ハ是ヲ包含セス故ニ第五條ト別ニ本條ヲ設クルノ要アリ憲法ヲ以テ保障セラルルヲ以テ足レリトセハ幾多ノ条文ハ皆不要ト為ル可シ憲法ハ何時ニテモ是ヲ改正シ外國人ノ權利ヲ認メスト為シ得ルヲ以テ條約ヲ以テ權利ノ保障ヲ求ムルナリ尚共和国憲法ニ於テハ鉱山森林ニ關シテハ三十六年ノ租借ヲ認メ外國人モ内國人

同様ノ權利ヲ享有スルコトナリ居ルモ農業等ニ関シテハ租借ノ期限ノ定メモ無ク外國人カスカル權利ヲ享有シ得ルヤ否ヤモ不明ナリ故ニ本項ノ必要ヲ認ム土地所有權ニ関シテハ外國人カ土地所有權ヲ享有シタル當時ニ於テ日本領事館日本人等ニ獲得シタル權利アルヲ以テ勘クトモ之ヲ保護スル意味ニ於テ茲ニ之ヲ規定セリ又土地租借權ニ付テハ家屋建物ノ為及農業牧畜等ノ為永租權(五、六十年位)ヲ求ムルモノナリト答ヘタルニ「ペ」ハ然ラハ第五條ニ列挙セハ可ナラスヤ又土地所有權ニ関シテハ領事館敷地等ニシテ日本官庁ノ所有ニ屬スルモノニ付テハ既得權ノ條項ニ於テ何トカ相談致スヘク(永租借トスル考ナルカ如シ)家屋ノ為ノ租借ハ比較的長期ノ租借ヲ認ムル積リニテ目下法律制定中ナリ又農業ノ為ノ土地利用ハ期限ヲ定ムルコトナク實際利用スル間之ヲ租借セシムル方針(期限ヲ附シテ租借ヲ許ストキハ利用セスシテ打棄テ置クノ弊害ヲ生ス)ニテ法規ヲ制定スヘシト謂ヘリ依テ本官ハ日本ハ土地狹隘ナル結果鉱山業等ハ之ヲ外國人ニ許ササルコトナリ居ルニ付第五條ニ此等ヲ列挙スルヲ得ス故ニ別條トシテ茲ニ掲ケタルモノナリ土地所有權ニ関シテハ既得權ヲ認ムルコトモナ

ラハ削除スルモ差支ナシト述ヘタルニ「ペ」ハ共和国ハ日本ニ於テ鉱山權等ヲ得ントスルノ希望ナク而シテ共和国憲法ニ依リテ此等ノ權利ハ外國人ニ認メラルルニ付別ニ條文ニ挙ケストモ可ナラスヤ尚旧時代ノ制限ハ既ニ存セサルニ其ノ制限ヲ撤廃スルコトヲ約ストノ書方ニ同意シ難シト謂ヘルニ付日本臣民ハ旧時代ニ於ケルカ如キ制限ヲ復活セラレンコトヲ危懼シツアルニ付斯ルコトナキ保障ヲ得サルニ於テハ安心スルヲ得ス故ニ本條ノ必要アリ且極東共和国ハ門戸開放主義ヲ執リ此等諸事業ヲ外國人ニ許スト云フニアルヲ以テ日本人ニノミ此種權利權ヲ与フルト云フ形式ヲ避クル為特ニ本項ノ如キ書キ方ヲ採用シタルモノナリ尤モ此ノ形式ニ不満トアラハ御研究ヲ請フト述ヘタルニ「ペ」ハ疲勞ノ様子ニテ閉會ヲ求メタルニ付是ニテ會議ヲ終リタリ

九六六 十一月三十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)十一月三十日ノ大連會議ニ於テ我方提案中ノ  
既得權益河川航行權沿岸貿易條項ニ付討議ノ

件

合第六〇号

(十二月一日接受)

三十日會議ニ於テ「ペ」氏ヨリ第十一條後段ノ審議ニ移ルヘキヤヲ問ヘルニ付本官ハ当初我提案ニ対シ一二ノ削除若クハ修正ヲ求ムトノコトナリシニ付其ノ積ニテ審議ニ入りタル処昨日ノ會議迄ニテ既ニ三條ノ削除ヲ求メラレタリ斯クテハ今後幾多ノ削除及修正ヲ提議セラルルモノト思ハレ審議上頗ル不便ニ付削除セラルヘキ個條修正セラルヘキ個條ヲ列記シ提出セラレ度シ当方ニ於テハ概括シテ之ヲ考量スヘク會議ノ進捗ヲ容易ナラシムヘシト思考スト述ヘタルニ「ペ」ハ何レニシテモ會議ノ進捗ニハ影響無カルヘシト稍難色アリタルモ結局削除ノ條文ハ第二條第八條第十一條(鉱業林業農業ニ関シテハ第五條ヲ修正スルノ意向)及第十二條ノ第二項ニシテ修正スヘキモノ二三個條追加スヘキモノ二三個條(宗教政治思想ノ自由国旗ノ尊重等ナルカ如シ)ナリ尚附屬文書三ツハ全部承諾シ難シト云ヘルニ付本官ハ削除ノ部分ハ其レニテ判明セルモ修正追加ノ部分ヲ全部承知シタキニ付之ヲ文書ニテ通知アリタク本日ハ削除條項中未タ説明無カリシ分ニ付削除ノ理由ヲ承知シタシト述ヘタルニ「ペトロフ」ハ第十二條第二項ニ言及シ例ノ通り「メ」政權ヨリ外國人ノ得タル權利ヲ認ムルヲ得ズト

云ヘルニ付本官ハ其ノ理由ノミニテ本項ヲ削除ストセバ共和国成立前ニ日本人ノ正当ニ得タル權利ヲ承認スルヤ否ヤ不明トナルヲ以テ漫然削除スルヲ得ズ「メ」政權モ事實上ノ權力者タル以上同政權ヨリ得タル權利モ既得權トシテ承認スルヲ至当ト信スルモ極東共和国ノ立場ヨリスレハ之ヲ承認シ難キハ尤モノ次第ナルヲ以テ本項ハ共和国成立前ノ既得權トシテ其ノ意味ヲ表ハス為「合法」ノ既得權トナサハ可ナラン「メ」政權ヨリ得タル權利ハ之ヲ承認セズトスルモ已ニ売買ヲ了シ貨物ハ外國ニ輸出シタル場合ノ如キハ實際上如何ニ之ヲ処置スル考ナリヤト問ヒタルニ「ペ」ハ御申出ノ如キ意味ナラバ本項ヲ削除セズトモ可ナリ其ノ意味ニ修正方考慮スベシ「メ」政權ノ国有財産不法処分ニ付テハ個々ノ場合ニ夫々適當ニ処置スル考ナルモ具体的ニハ申上ケ兼ヌ森林「コンセツション」ノ如キ長期ニ亘ルモノニ付テハ之ヲ其儘承認スルヲ得ズト謂ヘリ仍テ本官ハ「メ」政權カ事實上ノ權力者トシテ存在シ列國中ニハ齊多政府ト同様ノ立場ニ在ルモノト見做スモノモ有リ故ニ日本ハ同政權ノ行為ヲ阻止スルヲ得ス只共和国トノ親善及經濟的接近ヲ欲スルヲ以テ軍ハ多大ノ苦痛ヲ忍ヒテ倉庫ヲ保管シテ国

有財産ノ散逸ヲ防キ日本商民ニ対シテハ「メ」政權トノ取引ヲ避クル様警告セリ然レトモ日本商民ニシテ外人トノ競争上同政權ト取引ヲ為シ又ハ間接ニ森林伐採權ヲ得タルモノアリ斯ル事情ノ下ニ於テ為サレタル行為ニ対シテハ共和国ハ「メ」政權ヲ責ムルコトハ或ハ之ヲ為シ得ヘキモ相手方タル個人会社等ハ之ヲ責ムヘキニ非ス個人ニ関スル限リ既成事実ト看ルノ外ナカルヘシト思考スト述ヘタルニ「ベトロフ」ハ普通ノ売買等ニ付テハ日本商人ヲ責ムル能ハサル可ク森林伐採權等ニ付テハ商人ノ利益ヲ全然無視スル能ハサルニ付共和国法律ニ依ル契約ニ引直スノ外ナカル可シト謂ヘリ

次ニ本官ヨリ沿岸貿易及河川航行權ニ言及シ曩ニ漁業上必要ナル沿岸貿易ハ之ヲ許可スト云ハレタルコトモアルニ漫然削除ヲ主張スルノ謂無キノミナラス共和国ノ船舶業不振ノ現状ニ照シ外国船舶ニ沿岸貿易ノ自由及河川航行權ヲ許スハ共和国ノ經濟發展ニ資スル所以ナルヲ以テ此等權利ヲ日本船舶ニ与フルコト得策ニ非スヤ松花江ニ関シテハ共和国カ日本船舶ニ權利ヲ与フルコトヲ要求スルモノニ非サルヲ以テ毫モ差支無キニ非スヤト云ヘルニ「ベ」ハ漁業ニ必

ハ日本ノ敵國ニ非サルニ恰モ戰敗國ニ對スルカ如キモノニ付到底之ヲ承諾スル能ハスト云ヘリ本官ハ附屬文書ノ審議ニ入ルニ先立チ修正条文及追加条文ノ送附ヲ受ケタシト述ヘ先方ノ同意ヲ得之カ為明日ハ休会スルコトトセリ

九六七

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

極東共和国カ我方ノ西比利亞撤兵ヲ希望スル

ニ於テハ基本協約ノ成立ヲ促進スル要アル旨

ペトロフニ申入方訓令ノ件

第六〇号

貴方會議ノ進行今猶遲々タルノ状態ニ顧ミ之ヲ促進スルヲ必要ト認ムルニ依リ貴官ハ「ベトロフ」ニ對シ本件交渉ハ元來先方ノ希望ニ応シ開始セラレタルモノニシテ我方ハ速ニ協約成立シ沿海州ヨリ撤兵シ得ムコトヲ希望シ從テ既ニ交代期ニ達シタル一部軍隊ノ交代ヲ差控ヘタルハ過般ノ通告ニヨリ既ニ承知セラレタル通りナルカ交渉ノ進行遅々トシテ到底近ク纏ルヘキ見込ナク右交代ハ最早遷延シ難キニヨリ帝國政府ハ茲ニ止ムナク右交代ヲ実行スルニ決定セリ然リト雖浦潮地方駐留軍隊ハ居留民及交通ニ對スル危險並

要ナル程度ノ沿岸貿易ニ就テハ漁業協約ニテ論スルヲ得ヘク其レ以上ニ就テハ後日必要ヲ認メタル時協議スルコトトシタク黑龍江航行權ニ就テハ共和国ハ充分ノ船舶アルニ付(本官ハ其ノ然ラサルヲ指摘シタリ)外国船舶ヲ必要トセス松花江ニ関シテハ支那政府ヨリ嚴重申出ノ次第モ有リ要求ニ応シ難シ日支露三国間ニ協議スルコトトセハ可ナルヘシト云ヘルニ付本官ハ日本船舶ニ權利ヲ与ヘ難シトセハ日露合併事業ヲ認ムルコト如何松花江ニ就テハ共和国ニ責任ヲ負ハスモノニ非サルヲ以テ何等反對ノ理由無キニ非スヤト云ヘルニ「ベ」氏ハ合併事業ニ就テハ個々ノ場合ニ考量スヘク松花江ニ就テハ露支條約違反ナル故応シ難シト答フ依テ本官ハ合併事業ナラハ航行權ヲ認ムト云フ条文アルニ非サレハ合併事業ハ起ラス蓋シ拒否不明ナルニ事業ヲ起ス者無キヲ以テナリ松花江ニ就テハ我方カ求ムル所ハ毫モ露支條約違反トナラス故ニ本件ニ関シ齊多政府ノ再考ヲ求ムト云ヘルニ「ベ」ハ齊多ニ電照スヘシト云ヘリ

次テ「ベ」氏ハ附屬書ニ言及シ尼港事件ニ関スルモノハ今回ノ齊多側提案ニ依リ事實不用ト成リ漁業ニ関スルモノハ漁業協約審議ノ際ニ讓ルヘク軍事ニ関スル附屬書ハ共和国ニ國境ニ對スル脅威存在スル為メ已ムヲ得ス駐留セシムルモノニシテ帝國政府ニ於テハ前記各種ノ危險除去ニ関スル保障ヲ得テ撤兵シ得ルノ日速カナルヲ希望スルモノナルヲ以テ先方カ撤兵ヲ希望スルニ於テハ其前提タル基本協約ノ成立ニ付最善ノ方法ヲ以テ促進スルヲ要シ我方對案ニ付テモ修正ヲ求ムル点アラハ一括文書ヲ以テ速ニ申入ルヘキ旨並ニ我方ニ於テハ駐兵ノ目的ニ顧ミ基本協約ノ成立ニヨリ前記各種ノ危險除去ニ関スル保障ヲ得ザル以上來年度ニ入ルモ猶右軍隊ノ駐留ヲ余儀ナクセラルヘキ旨ヲ通告セラレタク尚薩哈噠州内ノ占領ハ右ト全然別箇ノ問題ナルモ右占領解除ノ前提タル尼港事件解決方法ニ付先方ヨリ充分ノ責任ヲ以テ具體的提案ヲ為スニ於テハ帝國政府ハ之ヲ考慮スルニ吝ナラサル旨ヲ併セテ申入レラレ先方ノ応答振至急電報アリタシ

註 本電報ハ十二月二日閣議決定ヲ經テ發送セラレタリ

九六八

内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

十一月十四日以降ノ大連會議交渉ノ經過ニ付

通報ノ件

## 會議第一〇七号

會議第六号ニ関シ客月十二日齊多軍事委員トシテ陸軍大臣「ブリュヘル」大連到着十四日より會議開催ノ処初メ先方ハ我對案ニ對スル回答ヲ差控ヘ先ツ撤兵問題ニ就キ審議シタシトテ撤兵ニ関スル協定案ヲ提出シ(一)協定署名ト同時ニ極東共和国全領域ヨリ全軍隊ノ撤退ヲ開始スルコト(二)日本軍艦ハ協定署名後四週間ニ國際的慣例ニ從ヒ礼砲ヲ實施シテ領海外ニ退去スルコト(三)日本軍ハ其駐屯区域内ニ於テ極東共和国ニ敵意ヲ有スル諸団体個人及機關ノ武装ヲ解除セシムルコト(四)日本軍ハ堡壘其他諸建築物ヲ毀損破壊スルコトナク極東共和国ニ之ヲ引渡スコト(五)日本政府ハ千九百十八年一月一日以降自國軍隊及軍艦ニヨル輸入物品ニ付關稅ヲ支払ヒ且ツ軍隊輸送賃金ハ之ヲ精算シ支払フヘキコト等ノ要求ヲ為シ通商其他ニ關スル協約ト同時ニ審議且ツ調印センコトヲ求メ我方代表者カ基本協約ニシテ調印セラルル場合ニハ沿海州ヨリ撤兵スヘキコト並薩哈噠占領ハ尼港事件ノ解決ヲ見ザル限り解除シ得ザル旨ヲ以テ反駁シ速ニ先ツ基本協約ノ成立ニ努ムヘキコトヲ説示セルニ對シ先方ハ尼港事件ノ解決ヲ俟タズ無条件ニ薩哈噠ヨリモ撤兵スヘキ

ニ於テ此際北樺太以外ノ領域即チ大陸全部ヨリ撤兵ヲ承諾セラレタクニ港事件ニ就テハ特別委員會ヲ組織シ之ヲ審議スルコトト致度シ尚右委員會ニテ事件解決ノ見込附キタル上基本協約ニ調印シタキ希望ナルモ委員會ノ審議擧取ラザル場合ニハ先以テ基本協約ニ調印スルコトナルヘシト思考スト述ヘ次ニ日本對案十七箇条ヲ交渉ノ基礎トシ之ニ對スル齊多側ノ意見發表ヲ開始スルコトトシ引續キ右對案ノ審議ニ入りタルガ「ペトロフ」ハ一、主權ヲ傷ク二、片務的ナリ三、憲法ニ規定アル故必要ナラズ等ノ理由ニヨリ對案第二條第八條第十一條(鉱業林業農業ニ關シテハ第五條ニ一括規定セムトスル意向ナル由)及第十二條第二項ヲ削除シタキ旨ヲ申出デ尚二三箇条ニ對スル修正及宗教政治思想ノ自由國旗ノ尊重等ニ關スル追加ヲ求メトスル意向ナル趣ニ付過般松島ニ對シ齊多側ニテ修正ヲ求メタキ点ハ一括文書ヲ以テ申入ルヘキ旨「ペトロフ」ニ通告方訓令シ置キタリ

交渉ノ經過右ノ通りナル処我方ニテハ諸般ノ關係上會議ノ促進ヲ計ル必要アルニヨリ此際斷乎タル決心ヲ示スヲ必要ト認メ十二月二日松島ニ對シ別電第一〇八号ノ通り訓令セ

コトヲ主張シ尚漁業問題審議ノ為メ勞農政府代表者ノ参加スル特別委員會ノ即時設置ヲ重ネテ提議セルガ我方代表者ハ之ヲ拒絕シ十六日會議ノ際先方提出ノ軍事協定案ヲ突キ返シタリ尚翌十七日「ペトロフ」ハ齊多外務大臣「ヤンソン」發本大臣宛極東共和国政府ハ其全領域ヨリ日本軍ノ撤退ヲ期待スルコト並極東共和国ニ反抗スル党派ニ對シ日本軍ノ保護ヲ受ケザラシムル為メ必要ノ措置ヲ講ゼラレタキ旨ヲ記載セル十一月六日附公文ヲ松島ニ交附シタリ齊多側ノ態度如斯強硬トナリ來リタル原因ニ付松島ノ上申スル処ニヨレバ一、齊多政府部内ニ於テ硬派勝ヲ制シタルコト二、華府會議ニ望ヲ囑スルニ至リタルコト三、日本ガ近ク撤兵スヘキコトヲ予算編成ノ成行ニ關スル新聞記事ニ依リ推測シタルコト等ニヨルモノト認メラルトノコトナルガ其後先方ヨリ漁業問題ニ關スル勞農政府代表者ヲ一箇人ノ資格ニテ來連セシムルコトヲ申出デ我方ニテ之ヲ承諾シ尚先方ノ請求ニヨリ二十七日ヨリ會議ヲ続行スルコトナリタルガ「ペトロフ」ハ第一尼港事件解決ニ付テハ領土ノ割讓ヲ条件トスルコトハ絶対ニ不可能ナルモ經濟的「コンセツション」ヲ提供スルコトニ同意スヘシ兎ニ角日本政府

リ

註別電第一〇八号ヲ省略ス右ハ十二月二日内田外務大臣發松島  
政務部長宛第六〇号ト同文ナリ

九六九 十二月四日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ於テ日本側基本協約案中曩ニ討議

セラレザリシ条項ニ對スル修正案及追加条項

十二月三日チタ側ヨリ提出ノ件

合第六一号

(十二月四日接受)

十一月三十日ノ會議ニ於ケル我方ノ要求ニ応シ本月三日

「ペトロフ」ハ會議ニ於テ審議セラレザリシ条項ニ對スル

修正案及追加条項ヲ提出セリ其訳文左ノ通り

日本帝國政府及極東共和國政府ハ相互親善關係ヲ樹立シ且  
兩國間ニ於ケル政治經濟關係ヲ發達セシメンコトヲ欲シ之  
カ為正式條約ノ締結セラルルニ至ル迄左記条項ヲ約定セリ  
第一条 兩締約國ノ一方ハ他ノ一方ニ對シ敵對行為若クハ  
其他ノ企圖ヲ為スコトナク他ノ一方ノ内政ニ干渉セス又自  
己ノ領域外ニ於テ他ノ一方ノ領域内ニ確立セラレタル國家  
ノ秩序ニ對シ脅威ヲ加フルカ如キ宣伝ヲ行フコトナカルヘ

ク且各自ノ領域内ニ於テ對手国ノ現政府ヲ顛覆セントスル各種ノ人物団体及機關ノ存在及行動ヲ防圧スルノ措置ヲ執ルヘシ

第三条 兩当事国ノ臣民又ハ人民ニシテ他ノ一方ノ国法ニ從ヒ其ノ領域ニ至リ且居住スルモノハ成規ノ官憲ニ依リ発給セラレタル旅券ヲ所持シ他ノ一方ノ相当代表者ヨリ入国ニ対スル査証ヲ得サル可カラス

第四条 兩当事国一方ノ領域内ニ居留スル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ当該地方法令ニ基キ其ノ身体ノ安全及財産ノ不可侵ニ付保護ヲ享ク可ク第三国ノ臣民又ハ人民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ受ケサルモノトス

第五条 国内商業、外国貿易、産業（広義ニシテ農業鉱山業等原始産業及加工産業ヲ一括ス）財産ノ所有並ニ処分及司法上ノ保護ニ関シテハ兩当事国ノ人民ハ当事国一方ノ立法手續ニ依リ既ニ最惠国人民（原文ニハ「最」ノ字ナシ）ニ附与セラレ又附与セラルヘキ各種ノ權利、免除及特典ヲ享有スルモノトス

前項ノ規定ハ經濟同盟ニ関スル協約ニ依リ一ノ締約国ト合一シタル何レカノ国ノ人民ニ附与セラレタルカ若クハ附与

第十五条 本協約ニ基キ締結セラルヘキ諸協定ハ追加約款トシテ本協約ト等シキ效力ヲ有ス

第十六条 （変化無シ）

第十七条 本協約ハ露語ヲ以テ二通ヲ作成シ共ニ正文トス追加条項

第一 兩当事国一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ領域ニ居留中對手国ノ現存国体ヲ犯ササル限り信教並ニ政見抱持ノ自由ノ權利ヲ享有ス

第二 兩当事国ノ各一方ハ親善国ノ標章トシテ他ノ一方ノ国旗並ニ国章ヲ認メ且尊重ス

第三 本協約締結ト同時ニ極東共和国ノ領域及其領水ヨリ日本帝国ノ各種武力及海軍艦艇ノ撤去ニ関スル協定締結セラルヘシ

九七〇 十二月五日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議交渉促進方ニ付ペトロフニ申入方ノ

訓令執行済ノ件

合第六三三号

（十二月六日接受）

貴電第六〇号ニ関シ

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九七〇

セラルコトアルヘキ免除ニ対シテハ適用ナキモノトス  
日本對案第六條第七條ニ代フルニ次條ヲ以テス

兩当事国政府ハ最惠国約款主義ニ基キ通商、交通及航海並ニ關稅率稅關規則ニ関スル事項ニ付本協約調印後速ニ協定ヲ遂クヘシ但シ一ノ締約国ト經濟同盟ニ依リ連結セラレタル国ノ權利ニ関シテハ前記最惠国約款主義ニ例外ヲ設クヘシ

第九條 （對案ト同一）

第十條 （兩当事国ハ本會議ノ事務ト同時ニ漁業委員會ノ事務ヲ開始スヘキコトヲ承諾セルニ付本條存在ノ理由消滅ス）

第十三條 兩当事国政府ハ追ツテ恒久的の效力アル領事職務條約締結ニ至ル迄ノ間相互ニ他ノ一方ノ領域ニ對シ現行國際條規ニ基キ外交官及領事官ノ享有セル各種ノ權利ヲ有スル外交代表者及領事ヲ派遣スルコトヲ得

前項代表者ノ數及駐在地ニ関シテハ兩締約国政府間ニ於テ之ヲ協定スヘキモノトス

第十四條 本協約ノ規定ハ批准ノ時ヨリ效力ヲ發生シ本協約前文ニ予見スル正式條約締結ニ至ル迄引續キ效力ヲ有ス

我提案ニ対スル先方修正ノ点ハ往電合第六一號ノ通り一括回答ニ接シタルヲ以テ之ニ関スル要求ヲ省キ右貴電ノ趣ヲ「ペトロフ」ニ伝ヘタル処「ペ」氏ハ尼港事件解決ノ為委員會ヲ組織スルヲ得策トストカ共和国ハ經濟上ノ利權ヲ提供スルノ覺悟アルモ（譬ヘハ沿海州ノ森林權若クハ北樺太ノ鉱山油田）日本政府ノ希望セラルル程度ヲ承知セザルニ付具體案ノ提出ヲ困難トストテ不相變ノ説ヲ述ベタルニ付本官ハ委員會ヲ開クコトヲ承諾スルハ即チ共和国政府ヲ尼港事件ノ責任者ト看做スコトトナルヲ以テ主義上我方ノ承諾スル能ハザル所ナリ齊多政府カ自ラ責任ヲ負ヒテ解決案ヲ提出セハ日本政府ハ之ヲ考量スヘシト言フニ在ルヲ以テ本件ノ解決ヲ速ナラシムトセハ共和国ヨリ具體案ヲ提出スル外途ナシ而シテ具體案ハ共和国政府ニテ適當ト思考スル通りニ作成スレバ足リ日本政府ノ希望ヲ知ラストモ之ヲ作成シ得ヘキ筈ナリ此際帝國政府ノ承知シタキ共和国政府ハ具體案ヲ提出スヘキヤ否ヤナリト述ヘタルニ「ペ」ハ渋沢ヲ齊多政府ハ具體案ヲ提出シ得ヘシト答ヘタリ（手許ニ具體案ナキ模様ナルニ付齊多ニ電照ノ上ナラテハ提出不能ト推察ス）

次ニ本官ハ基本協約ノ成立促進ニ言及シタルニ「ペトロフ」ハ自分モ同様ノ訓令ヲ政府ヨリ受ケ居レリ。竝多側ニ於テハ基本協約ノ審議モ相当進捗シタルヲ以テ此際逐条審議ト同時ニ軍事委員會ヲ開キテ軍事協定ヲ審議シ（薩哈連州撤兵ハ後廻トスルモ可ナリトノ意ヲ洩セリ）。漁業委員會モ開クコトトセハ會議ハ大イニ進捗スヘシト思考シ居レリト言ヘルニ付本官ハ基本協約ノ審議相当進捗セリトノコトナルカ本官ノ見ル所ニテハ然ラス帝國政府力重キヲ置ク第二条第八條浦潮要塞ニ関スル附屬文書等ヲ削除シテ是等事項ニ関シ何等ノ保障ヲ与ヘサルニ於テハ日本政府及国民ヲシテ安心セシムルヲ得ス故ニ之ヲ本條約中ニ記入スルヲ好マストセハ他ノ何等カノ形式ニ於テ此ノ保障ヲ与フルニアラサレハ基本協約成立スルトモ実効無カルヘシト述ヘタルニ「ペ」ハ事實ニ於テ日本政府ノ希望セラルル通りナルヲ以テ是等条項ノ挿入ハ不必要ナルノミナラス是等条項ハ共和国々民ノ自尊心ヲ傷クルコト多大ナリ殊ニ第二条ノ如キハ日本ノ命令ニ依リ国体ヲ定ムルノ形トナリ到底承諾シ難シ尚共產制ヲ採ラサルコトハ憲法ニ定メルノミナラス政府ノ宣言及諸外国ヘノ声明中ニモ明記シアルヲ以テ夫レニテ

来レリ

極東共和国政府ハ沿海州駐屯軍ノ交替ヲ行ハントスル日本政府ノ決定ハ親善及通商ニ関スル協約及日本軍撤退ニ関シ大連ニ於テ行ハレツツアル談判ニ適合セザルモノト認メザルヲ得ズ共和国ハ日露兩國国民ノ權利利益ヲ尊重スルノ基礎ニ於テ速ニ兩國關係ヲ調整セントシ努力シ居ルヲ以テ交渉遅延ニ関スル非難ヲ受諾スルヲ得ズ共和国ハ親善及通商並ニ撤兵ニ関スル協約締結ヲ以テ居留日本人及交通ノ安全並ニ日本国境ニ対スル脅威除去ノ完全ナル保障タリトスル日本政府ノ声明ニ対シ全然同意スルモノナリ（本官口上書ニハ親善及通商ニ関スル協約締結セラルル時ハ帝國ノ求ムル保障実現セラルヘキヲ以テ沿海州ヨリ撤兵スルニ至ルヘシトノ意味ヲ記載シアリ）。共和国政府ハ其成立前ニ發生シ且露国領土ニ日本軍隊駐屯ノ結果トシテ出現シタル尼港事件ニ関シテハ責ヲ負フヲ得ズト雖モ全領土ヨリ日本軍ノ完全ナル撤退ノ為努力スルモノナリ（尼港事件ヲ解決シ「サガレン」州ヨリノ撤兵ヲ実現セントスルノ意味ナリ）。共和国政府ハ親善及通商並ニ撤兵ニ関スル協約締結ニ依リ兩國間ニ親善ナル相互關係ヲ確立セントスルヲ以テ日本国ノ經濟

充分ナリト思考スト謂ヘリ依テ本官ハ帝國政府ノ求ムル保障ハ貴方ノ所謂事實上ノ状態ヲ變更セサルヘシトノ保障ナリ我方ハ變更ヲ恐レ居ルナリ共和国ノ体面ヲ損セサル形式ヲ採ラハ可ナルニ非スヤ第二条ノ如キモ決シテ国体ヲ指定スルノ意ニ非ズ現在共和国ノ採用シ居ル国体ノ變更セラレサルコトヲ希望シタル迄ナリ元來日本カ共和国ト商議ヲ開クニ至リタルハ同国力非共產制ヲ採リタル為ナルニ付之ヲ變更セサルコトノ保障ヲ何等カノ形式ニ於テ与ヘムコトヲ希望スルモノナリ就テハ是等ノ点篤ト考量セラレ度シト述ヘテ話ヲ打切り會議再開ハ帝國政府ヨリ何等回訓アリタル後トスヘキヲ告ケ尼港事件解決案提出方念ヲ押シタル上引取リタリ

九七一 十二月八日 松島政務部長（大連出張中）ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

大連會議交渉促進方ニ関スル我方申入ニ対シ

ペトロフヨリ回答越セルニ付請訓ノ件

合第六五号

（十二月九日接受）

往電合第六三号本官申込（要旨ヲ口上書トス）ニ対シ八日「ペトロフ」ハ書記官ヲ遣ハシ左ノ趣旨ノ口上書ヲ送附シ

の要望ニ対シ好意ヲ以テ之ヲ迎フルノ意アリ即チ日本軍隊カ共和国領土ヨリ完全ニ撤退シタル後共和国憲法ノ定ムル基礎ニ基キ「サガレン」島北部ニ於テ産業ノ「コンセツション」ヲ、大陸ニ於テ林業ノ「コンセツション」ヲ日本企業家ニ許可スヘシ共和国代表者ハ本件ニ関シ直ニ意見ヲ交換スルヲ辞セズ（最後ノ点ニ関シ先方書記官ハ島田ニ対シ「コンセツション」ハ特別ナル事態ニ関連シ特ニ日本人ニノミ与フルモノナリ尤モ憲法ニ依リ外国人ニ許与セラルベキ他ノ租借權モ日本人ニ許与セラルヘキハ勿論ナリ）（二）協約締結後ニ非ザレバ「コンセツション」ヲ外国人ニ許与スルコトナシ（三）憲法ノ定ムル基礎ニ基キト云フハ手続ニ関スルコトナリ（四）詳細ハ面談ノ上トシタシトノ説明ヲ与ヘタリ）

右口上書ノ書振乃至説明ハ頗ル曖昧ナルモ右「コンセツション」ニ関シ意味ヲ正確ニスル為深入スルトキハ我方ノ立場ヲ「コンミット」スルモノト思考シタルニ付其儘トシ置キタリ要スルニ尼港事件解決ニ対スル具体案ノ積リニテ提出シタルモノト思考スルニ付右ニ対スル回答振御回訓アリタシ



九七二 十二月十日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

押收物件ノチタ側ヘノ引渡決定ニ関シ再考方  
松村総領事ヨリノ稟請ニ対シ右決定ノ理由ヲ  
回示シ置キタル旨通報ノ件

別電 同日内田外務大臣宛松島政務部長宛電報第六二  
号

第六一号 (極秘)

在浦潮総領事ヨリ押收物件ヲ「チタ」側ニ引渡ストキハ同  
市ハ一時混乱ノ状態ニ陥リ馬賊及不逞鮮人ノ跳梁ヲ誘致ス  
ルハ勿論「メ」政權一味ハ失望ノ極其余憤ヲ我居留民ニ向  
テ洩ラスヘク且其際万一押収彈藥ヲ爆発スルカ如キコトア  
ラハ同市ノ全滅ヲ見ルニ至ルヘキ趣ヲ以テ押收物件ノ処分  
方法再考方稟申アリタルニ対シ別電第六二号ノ通り回電セ  
リ

(別電)

十二月十日内田外務大臣宛松島政務部長宛電報第六二号  
押收物件ノチタ側ヘノ引渡決定ノ理由ニ付松村総領事ニ  
回示ノ件

## 二 関スル日本政府ノ意向訓示ノ件

第六三号

貴電第六一号ニ関シ先方修正案中不当且不完全ノ点鈔カラ  
ズ更ニ修正ヲ加フル必要アルモ差当リ細末ノ点ハ之ヲ措キ  
先ツ主要事項ニ付先方ノ諒解ヲ得ルヲ必要ト認ムルニヨリ  
貴官ハ「ペトロフ」ニ対シ彼我見解ヲ異ニスル主要事項例  
ヘバ我方対案第八条第十一條及要塞撤廃、漁業問題ニ関ス  
ル文書交換ノ如キ「コゼ」「ソーモフ」ノ提案ヲ基礎トシ  
タル次第ニシテ今更先方ニ於テ不同意ヲ唱フベキ筋合ニ非  
ザルコトヲ指摘シ左記ノ趣旨ニ依リ先方ニ説示シ其承諾ヲ  
得ルニ努メラレタシ

一、対案第二条ニ就キ先方ノ主張ハ正当ノ根拠ナキモ先方  
ノ立場ヲ顧慮シ之ヲ前文ニ規定スルコトトシ其末段ヲ  
「両国政府間ニ予備協約ヲ締結スルノ必要アルヲ認メ極  
東共和国政府ガ千九百二十一年三月二十二日齊多憲法制  
定會議ニヨリ議決セラレ且同政府ノ宣言セル非共產制度  
ヲ其全領域内ニ維持スルヲ本協約存立ノ条件トシ茲ニ左  
記条項ヲ約定セリ」ト改メ差支ナシ

二、対案第八条ニ就キ我方ハ単ニ先方ノ政策ニ信頼スルヲ

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九七三

第六二号 (極秘)

本大臣発在浦潮総領事宛第一六五号  
貴電第二二八号ニ関シ

帝国政府カ押收物件ヲ「チタ」側ニ引渡スコトニ方針ヲ決  
定シタルハ我方カ「チタ」政府トノ間ニ大連會議ヲ進メツ  
ツアル以上同政府ニ引渡スヲ至当ト認メタルノミナラズ一  
方御申越ノ如キ危険ヲ考慮ニ入ルト同時ニ若シ之ヲ「メ」  
政權ノ手ニ委スルニ於テハ結局同政權ノ戦鬪力ヲ増大シ同  
政權ト「チタ」側トノ衝突ニ依リ「チタ」側ニ引渡ス場合  
ヨリ更ニ重大ナル危険ヲ惹起シ比較的長期ニ亘リ極東露領  
ヲ混乱ニ陥ラシメ帝国ハ之カ為メ諸方面ヨリ反動派援助極  
東擾乱ノ非難ヲ受ケ極メテ不利益ナル立場ニ陥ルベキヲ慮  
リタル結果ニシテ今猝カニ右方針ヲ變更シ難キ処居留民ノ  
危険ヲ出来得ル丈軽減スルコトニ付テハ充分措置ヲ講シ度  
キニ付貴官ニ於テモ篤ト御考究ノ上御意見御来示アリタシ  
永井ヘ伝ヘラレタシ

九七三 十二月十日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛(電報)

我方提出ノ基本協約案ニ対スルチタ側修正案

得ザルニヨリ文書ヲ以テ之ヲ規定セシムル必要アリ但シ  
先方ニシテ協約ニ規定スルヲ欲セザルニ於テハ附属文書  
ヲ以テ誓約セシムルコトトシ差支ナシ

三、漁業問題ニ関スル対案第十条及之ニ関連スル附属文書  
ハ細目協定ノ為メ追テ開催セラルヘキ特別委員會ノ設置  
及議事事項ニ関スル根本方針ヲ定ムルモノナルヲ以テ之  
ヲ規定スルノ必要ナルヤ勿論ナリ

四、対案第十一条第一項ノ規定ハ単ニ最惠国待遇ヲ求メン  
トスルニ非ズ原則トシテ内国民待遇ヲ認メシメントスル  
モノナルヲ以テ之ヲ第五条ト一括規定スルヲ得ズ尚極東  
共和国憲法ニシテ産業商業上内国民ト同等ノ待遇ヲ外国  
人ニ認メアル以上之ヲ条約中ニ規定スルコト何等差支ナ  
カルベク我方ハ讓歩ノ余地ナシ但シ土地所有權ニ関スル  
要求ハ之ヲ放棄シ土地租借權モ止ムナキ場合ニハ先方申  
出ノ通り之ヲ三十六ヶ年(期限後更新ヲ許スコト)トナ  
スコトトシ差支ナシ尤モ極東共和国法律ニヨリ将来土地  
所有權並前記期間以上ノ租借權ヲ認ムル場合ニハ本邦人  
モ之ニ均霑スヘキ旨留保ヲ要スルヤ勿論ナリ沿岸貿易及  
黒電江航行權ニ就テハ先方カ合弁経営ヲ承認スルニ於テ

ハ讓歩シ差支ナシ但シ協約中ニ明記スルヲ要ス

五、對案第十二條第二項ニ就キ先方ニ於テ當該既得權ヲ極東共和国法律ニヨル契約ニ引直シ之ヲ承認セムトスル以上右ノ趣旨ニヨリ修正ヲ加フルコトニ同意シ差支ナシ但シ右權利ハ可成大連會商開始前ニ獲得セルモノ全部ヲ包含セシムルヲ要ス

六、附屬文書ニ就キ前顯漁業問題ニ關スルモノノ外要塞撤廃ニ關スル分ハ往電第三〇号中段所載ノ次第モアリ我方ニテハ何等カノ誓約ヲ取附クルヲ必要トス又沿海州撤兵ヲ協約中ニ規定セムトスル先方提議ハ到底之ヲ承諾シ難キモ協約ト同一效力ヲ有スル文書ニテ往電第二二号第二ノ趣旨ニヨリ通告スルコトニ取運バレタシ

七、尼港事件ニ就キ先方カ具體的提案ヲナスニ於テハ之ヲ考慮スヘキコト既報ノ通りナルガ先方提案ガ不充分ニシテ同事件ノ解決ヲ見ルニ至ラザル場合同地方ノ占領ヲ繼續スルハ勿論ナルヲ以テ差當リ右ノ趣旨ヲ先方ニ通告シ追テ解決不成立ノ場合ニハ尼港事件善後問題ハ本協約交渉ヨリ之ヲ除外シタル旨ヲ声明スルニ止メ差支ナシ

尚先方修正案第五條所載經濟同盟ノ具體的意義ニ付先方ニ

応答ノ件

合第六八号

(十二月十三日接受)

大臣來電第六三号ニ関シ

十二月十二日會議ヲ開キ右電報ノ趣旨ヲ「ノート」ニ認メ先方ニ手交スルニ際シ十一月二十七日以來四回ノ會議ニ於テ本官ノ述べタル処ニ依リ帝國政府ノ意向ハ略明瞭ナルノミナラズ十二月五日ノ會見ニ於テ本官ハ齊多側修正案ハ帝國政府ノ承諾スル能ハザル処ナルベキ旨述べ置キタルガ今回政府ヨリノ電報ニ依レバ右本官ノ予想ノ通ニシテ玆ニ誤解ヲ避クル為文書ニ認メタルニ付御一読ヲ請フ尚本件ニ就テハ之迄貴我共充分意見ヲ闡ハシタルニ付更ニ之ヲ繰返スノ必要無シト思考スルモ唯我文書ノ意味不明瞭ナル点アラバ説明シ度シト述べタルニ先方ハ要塞撤廃ニ關シ書面ヲ以テ保障ヲ与フベシト云フハ如何ナル形式ニ依ルモノナリヤト問ヘルニ付基本協約附屬文書トシテ齊多側一方ノミノ署名ニ依ル文書ニテ足レリト答ヘ尼港事件解決問題ニ就テハ「ペトロフ」ハ本月八日ノ「ノート」ニテ同事件解決具體案ヲ提出シタル積ナリト云ヘルニ付本官ハ貴方ニ於テハ或ハ之ヲ以テ具體案ノ提出ト思考セラレタルナラムモ本官ノ

就キ確メラレタル上回報アリタシ

九七四 十二月十日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議軍事委員ブリューヘルノチタ帰還ニ  
付報告ノ件

合第六六号

(十二月十日接受)

「ブリューヘル」ハ夫人及隨員二名ト共二十日夜出發「チタ」ニ向フ其ノ理由トシテ「ブ」ノ語ル所ニ依レバ陸軍關係事項ニ關シ國民議會ニ報告ヲナス為至急帰還スベキ旨政府ノ命令ヲ受ケタルガ為ニシテ全然当地ヲ引上グルニアラズ「チタ」ニ於ケル用事済ミ次第再ビ來連スベシトノコトナルガ沿海州方面ニ於ケル白色「バルチザン」ノ勢力増加其ノ他ノ事態ハ「ブ」ノ帰還ヲ求メタル主要ノ原因ナリト思考ス

右哈爾濱へ転電セリ

九七五 十二月十三日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

基本協約案ニ對スルチタ側修正案ニ關スル日  
本政府ノ意向ヲペトロフニ伝ヘ同人ノ質疑ニ

見ル処ニテハ右「ノート」ハ帝國政府ノ所謂具體案ニ非ズ尤モ右「ノート」ノ内容ハ帝國政府ニ電報シ置キタルニ拘ラズ當方文書記載ノ通申シ來リタルニ徴スレバ政府ハ右本官ノ電報接到前既ニ本官ニ電訓シタルモノナルヤモ知レズト答ヘタリ

次デ「ペトロフ」ハ日本政府ノ具體案トハ如何ナルモノナリヤト質問セルニ付本官ハ齊多政府ガ責任ヲ以テ尼港事件ヲ解決スベク其條件ハ是レはレナリト明確ニ提議スルコトナリ右提議ニシテ帝國政府ヲ満足セシムル場合ニハ帝國政府ハ之ニ對シ満足ノ意ヲ述べ尼港附近ノ占領ヲ解除スベキ旨ヲ声明スルニ至ルベク撤兵ノ細目ハ軍事協定ヲ以テ之ヲ定ムルコトトナルベシト述べタル処「ペ」ハ日本政府ハ「ノート」ノ交換ニ依リ事件ヲ解決セムトスルモノト察セラルルモ齊多側ハ前回ノ申出ヲ動機トシテ兩國代表者間ニ交渉ヲ開始シ尼港事件ノ解決及薩哈噠州ノ撤兵ニ關シ一ノ協約ヲ締結セムトスル考ナリシガ先日ノ我方「ノート」ニ對スル日本政府ノ意向ヲ知リタル上更ニ協議スルコトトシタシト言ヘルニ付本官ハ形式ニ關シ日本政府ハ如何ナル意向ヲ有スルヤヲ承知セザルニ付一應貴方「ノート」ニ對ス

ル政府ノ回答ヲ俟ツコトトスベキ旨並日本政府ハ貴方「ノ  
ート」ノ提案ニ満足スベキヤ否ヤ本官ノ保証スル限りニア  
ラザル旨ヲ答ヘ置キタリ

我提案第十条ニ関シ「ペ」ハ其後考ヘ直シタル結果削除セ  
ズシテ之ニ代フルニ基本協約審議ト同時ニ漁業協約ヲ審議  
スル意味ノ条文トスルコトニシ度シト言ヘルニ付本官ハ我  
提案通ニテモ別ニ差支ナキ旨説明シタルニ「ペ」ハ他ノ条  
文程重要問題ニモアラザルニ付深ク討議セザルヘシトテ之  
ヲ打切りタリ

經濟同盟ニ関シ「ペ」ハ関税ニ関シ国境ナキ国ヲ意味ス現  
時ニ於テハ勞農露國ヲ指スモノナリト説明シ本官ノ想像シ  
タル通ナリ

九七六 十二月十四日

内田外務大臣ヨリ  
在英国林大使宛(電報)

大連會議ノ最近ノ進展狀況ニ付通報ノ件

第五九八号

往電合第三九七号ニ関シ

齊多側ハ主トシテ同電後段ノ趣旨ニヨリ按排シタル修正案  
ヲ提出シ且ツ松島カ交代兵ノ件ヲ申入レタルニ對シ齊多政

ヲ以テ在中國小幡公使ヘモ電送セラレタリ

九七七 十二月十四日

松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

基本協約案ニ関スル日本政府ノ意向ヲ伝ヘタ

ルニ對シベトロフヨリ回答ノ口上書受領ノ件

別 電 同日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第七

〇号

右口上書訳文

合第六九号

(十二月十四日接受)

十四日「ベトロフ」ハ本官ヲ來訪シ別電合第七〇号訳文ノ  
如キ口上書ヲ提出シ我提案第二条ニ関シテハ共產主義ノ如  
キハ到底実行不可能ナルコトナルノミナラズ日本国民ニ各  
種ノ權利ヲ認ムル条項ニ依リ已ニ共產主義ヲ実行セザルコ  
トヲ保障シタルモノト認メ得ベキニ非ズヤ而シテ同条ノ意  
味ヲ協約前文ニ入レテ協約存立ノ条件トナスコトハ日本側  
ニ於テハ意味ヲ弱メル積リナリシナランモ条件トスルトキ  
ハ却テ意味ヲ強クスル結果トナルト謂ヒテ切ニ之ガ削除ヲ  
求メタリ右ニ對シ本官ハ現ニ共產主義ヲ採用シ居ラザルヲ  
以テ帝國政府ハ本交渉ヲ開始シタル次第ナルガ日本国民ハ

府ハ交渉遅延ニ對スル批難ヲ受諾スルヲ得ズ尼港問題ニ関  
シテハ責任ヲ否認スルモ全領土ヨリ日本軍撤退ノ後共和国  
憲法ノ規定ニ基キ「サガレン」島ノ北部ニ於テ産業上ノ  
「コンセツション」及大陸ニ於テ林業上ノ「コンセツショ  
ン」ヲ日本企業家ニ許与スヘク共和国代表者ハ本件ニ関シ  
直ニ意見ノ交換ヲ開始スルヲ辭セストノ口上書ヲ送付シ來  
レル処彼我ノ意見相違セル事項中先ツ主要ノ点ニ付諒解ヲ  
進ムルヲ必要ト認メ本月十日松島ニ對シ非共產主義維持ノ  
コトハ前文ニ規定シ土地所有權ニ関シテハ三十六年ノ永租  
權ヲ以テ満足スルコト沿岸貿易黑竜江航行權等ハ合弁事業  
ヲ認ムルニ於テハ讓歩シ差支ナキコト尼港問題ニ就テハ曩  
ニ申入レタル通り先方ヨリ責任ヲ以テ具體的提案ヲ為スト  
キ之ヲ考慮スヘキモ右解決不能ノ場合ニハ同問題ハ本協約  
ヨリ之ヲ分離シタル旨聲明スルニ止ムルコト等尚其他ハ我  
方從來ノ主張ヲ貫徹スルニ力ムヘキ旨電訓セリ

在歐各大使波蘭瑞典ニ転電アリタシ

註 十二月八日内田外務大臣發合第三九七号ヲ省略セリ右ハ大連

會議ノ經過ヲ通報セルモノナリ

尚右第五九八号ト同趣旨ノ通報ハ十二月十五日發第七二三号

共和国憲法ノ改正ニ依リ共產主義ヲ採用スルニ至ランコト  
ヲ危惧シ居ルニ付何等カノ形ニ於テ保障ヲ与ヘラルルコト  
ヲ要ス元來本件ハ帝國政府ノ重キヲ置ク点ナルニ付單ニ削  
除スルコトニハ承諾ヲ与ヘザル可シト思考ス就テハ第二条  
ノ意味ヲ前文ニ入ルルコトニ関シ齊多政府ノ意向ヲ問合セ  
ラレ度ク(已ニ電報シ置キタリトノコト)又「条件トシ」  
トノ字句ニ故障アラバ例ヘバ「非共產主義ヲ維持スルニ鑑  
ミ」トナスコトニシテハ如何ト述ベタルモ「ペ」ハ本件承  
諾ハ齊多政府ノ最モ困難トスル所ナリト繰返シ居タリ

沿岸貿易ニ関シテハ別電記載ノ外漁業上必要ナル程度ノ沿  
岸貿易ヲ日本船舶ニ許可スルコト差支ナシト言明シ松花江  
航行權ニ付テハ齊多ヨリ未タ回訓ナシト謂ヘリ

既得權ニ関シテハ我方提案ノ趣旨ヲ容レタルモノナリト説  
明セリ

最後ニ要塞撤廢ノ附屬文書ニ関スル日本側提案ハ齊多政府  
ニ問合セ中ニ付今日ハ回答ヲ差控フ可シ尤モ自分一己ノ考  
ニ依レバ自主的形式ニ依ル場合ニハ政府ニ於テ或ハ承諾ス  
ルヤモ計ラレズ尚第二条ニ関シ日本側ニテ讓歩セラルルト  
キハ本附屬書ニ関シ齊多側ニ於テ相當讓歩スルヤモ知レズ

ト謂ヘルニ付本官ハ第二条及本附属書ハ日本政府ノ重要視  
スルモノナルニ付兩者トモ何等カノ形式ニ依リ保障ヲ与フ  
ル様政府ニ具申セラレタシト要求シ置キタリ

(別電)

十二月十四日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第七〇号

チタ側口上書訳文

合第七〇号 別電

齊多側口上書左ノ通

一、日本側対案第二条ハ前文ノ一部分ヲ独立条項ノ形式  
ヲ以テスルモ内政ニ干渉シ且國際的關係ノ一切ノ原則ニ反  
スル片務の誓約ナルヲ以テ之ヲ本協約ニ加フベカラザルモ  
ノトス故ニ極東共和国政府ハ本件ニ関シ該条項ヲ協約ヨリ  
削除スヘシトスル最初ノ決意ヲ固執スルモノナリ

二、第八条ニ関シ極東共和国代表ハ讓歩スルノ意アリ即チ  
本条項ヲ左ノ通修正スルコトヲ提議ス

「極東共和国政府ハ浦潮ニ於テ施行シ居ル港湾及其ノ他ノ  
諸規則ヲ改正シ且該規則中外國人ニ対シ商業及航海上困難  
ヲ感ゼシムルモノヲ削除スルコトニ同意ス」

三、漁業問題ニ関スル第十条及附属文書ニ関シ極東共和国

五、極東共和国代表ハ第十二条ヲ左ノ通修正スルコトニ同  
意ス

「両締約国ハ本協約締結後日本帝國政府ト承認セラレタル  
旧露國諸政府トノ間ニ締結セラレタル条約協約其他ノ協定  
ニシテ極東共和国ノ領土ニ關係アルモノノ改訂ニ着手スヘ  
シ但シ改訂ノ際兩締約国カ条約ニ依リ獲得シタル權利及利  
益ハ締約国ノ法律ニ抵触セサル限り之ヲ保存セシムヘシ兩  
締約国ハ大連會議開始前ニ其市民カ獲得シタル權利ハ其實  
質若クハ獲得ノ方法カ其發生シタル領土ノ国法ニ抵触スル  
ニ非ザレハ其儘之ヲ承認スルコトヲ約ス」

六、極東共和国代表ハ撤兵ニ関スル提案ノ代リニ日本國政  
府カ協約ノ附属トシ且協約ト同一ノ效力ヲ有スヘキ誓約的  
「ノート」ヲ發スルコトニ同意ス該「ノート」ハ一般協約  
締結ト同時ニ沿海州ヨリ日本軍撤退ニ関スル協定ヲ締結ス  
ルモノナルコトヲ明記スルコトヲ要ス

九七八 十二月十七日

内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛  
(電報)

日本軍撤退後日本居留民保護ノ為露國民誓ノ

補助機關トシテ日本人配置ニ付チタ側ニ申入

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九七八

代表ハ之ヲ左ノ如ク合體記述セムトス

「兩締約国政府ハ日露漁業協約ノ規定ニシテ兩國漁業者相  
互ノ為ニ苦痛ヲ感ゼシムルモノハ水産物保護ノ条項ニ関セ  
ザル限りハ之ヲ削除スルコトニ同意シ本協約ノ審議ト同時  
ニ該協約改訂若シクハ該協約ニ代ルヘキ暫定協定ヲ締結セ  
ムカ為協議ヲ開始スルコトヲ約ス右協議ノ為組織セラルヘ  
キ委員会ノ事務ニハ利害關係國タル「ソビエツト」露國ヲ  
参加セシムヘシ」

四、第十一条ニ関シテハ極東共和国代表ハ讓歩ニ同意シ左  
ノ通り修正セムコトヲ提議ス

「極東共和国政府ハ共和国ノ法律ニ出発シ締約国双方ノ有  
利ナル原則ニ基キ且共和国ノ法律ヲ遵守スル条件ノ下ニ日  
本ノ工業家ニ対シ鉱業及林業ノ「コンセンション」並ニ其  
他ノ租借權ヲ許与ス極東共和国政府ハ航海發達ノ目的ノ為  
ニ日本國臣民(原文ニハ市民トアリ)ニ対シ沿岸貿易ノ會  
社ニ参加スルノ權ヲ許与ス」

日露汽船会社ニ黑龍江航行ノ權ヲ許与セシメントスル問題  
ハ極東共和国ノ利益ニ反スルニ依リ協約ヨリ削除スルヲ要  
ス

方訓令ノ件

第六五号

帝國軍隊撤退後日本居留民ノ保護ハ齊多政府ニ於テ之ニ當  
ルベキハ勿論ノ儀ナルモ爾後充分ニ政情ノ安定ヲ見ルベキ  
ヤ之ヲ確断スルヲ得ズ我居留民間ニモ今ヨリ危惧ノ念少カ  
ラザルニ付彼等ノ保護方法ニ就テハ出來得ル限り措置ヲ講  
ズル必要アル処其一方方法トシテ日本居留民ノ多数存在スル  
地ニ警察事務ニ通ゼル若干日本人ヲ露國民警ノ補助機關ト  
シテ配置スルコト有效ナルベク現ニ支那商務會ハ浦潮齊多  
ニ於テ此種方法ヲ講シ居レリ依テ貴官ハ「ペトロフ」ニ対  
シ露國側行政費ノ充分ナラザル今日多数ノ警官ヲ各地ニ配  
置スルコトハ困難ナルベク一方風俗習慣ヲ異ニスル日本居  
留民ノ保護取締ハ日本人ノ補助ニ俟ツヲ便トスヘキハ明瞭  
ノ儀ナルニヨリ支那商務會ノ例ニ倣ヒ政情充分ニ安定スル  
迄多数日本人ノ居住スル地方ニ居留民五十名乃至百名ニツ  
キ一人位ノ割合ニテ右居留民ノ餼金ニヨリ雇入レタルモノ  
ヲ義勇民警トシテ露國民警ノ指揮監督ノ下ニ附属セシムル  
コト彼我ノ為メ便宜ナルヘキ旨ヲ説示シ右ニ就キ文書交換  
ニヨリ先方ノ承諾ヲ取付クル様取計ハレ度尤モ我方ニテハ

極東共和国全部ニ涉リ補助民警制度ノ実行ヲ見ルニ至ルヲ希望スル次第ナルモ差当リ撤兵ノ善後措置トシテ浦潮「ニコリスク」「スパスカヤ」「グロデコオ」等現ニ日本軍ノ駐在スル地域ニ於テ其実現ヲ見ル分ニテ差支ナシ

九七九 十二月十九日 松島政務部長(大連出張中)ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本軍撤退後日本人ノ露国民警補助ニ関シベ  
トロフニ申入ノ件

合第七一号

(十二月十九日接受)

貴電第六五号ニ関シ

十八日「ペトロフ」ニ面会シ貴電ノ趣旨ヲ認メタル書付ヲ示シ先ツ同氏ノ之ニ対スル意向ヲ尋ネタルニ確タル記憶ナキヲ以テ即答シ難キモ外国居留民ノ自衛団ニ関シテハ何カ法令アル筈ニ付同法令ニ準拠セバ本件日本側ノ希望モ或程度迄満足セシメ得ヘシト信スト述ヘタル後日本側ニ於テ治外法權ヲ得ルコトナキヤヲ懸念スルノ口吻ヲ洩シ又日本軍撤兵ニ際シテハ秩序ノ維持ハ民警ノミニテハ足ラズ兵力ヲ使用スル必要アリト言ヘルニ付本官ハ義勇民警ハ共和国官憲援助ヲ目的トシ其ノ指令ノ下ニ活動スベキヲ以テ治外法

権問題ニハ毫モ触ルル所ナキ旨並撤兵ノ際執ルヘキ措置ニアラズシテ撤兵後秩序ノ確立スルニ至ル迄ノ便宜措置ナル旨説明シタルニ「ペトロフ」ハ我方ノ趣旨ノアル所ハ充分諒解セルニ付政府ニ稟請シ追而何分ノ儀回答スヘキ旨及警察事務ノ円滑ヲ期スル為ニハ尠クトモ通訳ノ為相当ノ日本人ヲ雇傭スルノ必要アル旨述ヘ居タリ  
尚話ノ序ヲ以テ本協約ニ関シ齊多ヨリ回訓ナキヤヲ尋ネタルニ要塞撤廃問題ニ関シテハ未タ回訓ナキモ非共產制維持ニ関シテハ文書ヲ以テスル誓約ニハ到底応ジ難キ旨重ネテ電訓アリ又松花江航行權問題ニ付テハ支那政府ヨリ本問題ニ付テハ他国政府ト協約スルヲ許サストノ最後通牒的警告ニ接シ居ルヲ以テ遺憾ナガラ日本政府ノ希望ニ応ジ難シト答ヘタリ  
貴電第六五号政務部ヘ転電セリ

九八〇 十二月二十七日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

大連會議ニ於ケル日本政府ノ要求条件ヲ伝フ  
ル新聞報道報告ノ件

第四二九号 (十二月二十八日接受)

「クロニクル」特派員 Charles Dailey 二十六日東京發電  
要領

余ハ大連會議ニ提出シタル日本政府ノ要求条件ノ text ヲ入手セリ条件中重ナルモノ次ノ如シ

(一) 極東共和国ハ反過激派主義ヲ把持スルコトヲ声明スベシ

(二) 極東共和国ハ日本ト前露国トノ間ニ協定シタル取極ヲ承認スベシ(此ノ一項最重要ニシテ日本ト「ケレンスキー」「コルチャック」「メルクロフ」等トノ間ニ取極メタル日本ノ特殊優先權ニ関スル秘密協約ヲ含ム)

(三) 極東共和国ハ日本ニ支那同様「アムール」河航行權ヲ承認スベシ

(四) 極東共和国ハ日露漁業協約期限滿了迄右漁業ニ関スル暫行協定ヲナスベシ

(五) 極東共和国ハ日本政府ノ代表者ヲ齊多浦潮「ハバロフスク」「ニコライエフスク」等ノ重要地点ニ駐在セシムルコトヲ承認スベシ

(六) 極東共和国ハ「メルクロフ」政府ト平和ノ協定ヲナシ沿海州ノ秩序ヲ維持スベシ

一九 日本国及極東共和国兩政府間大連會議關係一件 九八一

(七) 極東共和国ハ外国人ノ生命財産ノ絶対安全ヲ保障スベシ  
(八) 極東共和国ハ浦潮ノ要塞ヲ破壊シ是ヲ自由港トスベシ其他外国人ノ三十六年間ノ借地權鉅山採掘權外国労働者使用權等ニ関スル要求ヲ含ミ全部十七箇条ヨリ成ル齊多政府ハ前記八箇条ヲ絶対ニ拒絶セル為交渉目下行惱ミ居レリ云々  
大使ヘ電報ス

九八一 十二月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
松島政務部長(大連出張中)宛  
(電報)

大連會議ニ於テ双方ノ意見一致セザル諸点ニ  
関シ先方ヲ説得方ニ付訓令ノ件

附記 大正十一年一月三日松島政務部長宛内田外務大臣宛電報合第七二号  
訓令ノ趣旨ヲ認メタル文書ヲペトロフニ手交ノ件

第六九号

貴電合第六五号及合第七〇号ニ関シ主要事項中彼我ノ意見猶一致セサル点ニ付左記ノ趣旨ヲ先方ニ申入レ其了解ヲ得

ルニ努メラレタシ

一、貴電合第七〇号斉多側口上書第一項非共產制度維持ニ就テハ先方憲法ノ規定等ノミニ信頼スルヲ得ザルノミナラズ極東共和国現在ノ政体維持ヲ協約ノ存立ノ条件トナスコトハ政体ニ変更アル場合該協約ノ廃棄ヲ予想スルノミニシテ何等内政干渉ト目スヘキニ非ズ殊ニ貴案「非共產主義ヲ維持スルニ鑑ミ」トナスニ於テハ規定ノ形式ヲ充分ニ緩和スル次第ナルヲ以テ右以上ノ讓歩ハ不可能ナリ

二、口上書第二項ニ就キ直ニ漁業委員会ノ組織ニ着手スルニ異存ナキ次第ハ過般訓令ノ通りナルモ漁業問題ノ審議ニハ相当ノ日子ヲ要スヘク從テ基本協約ト同時ニ漁業協約ヲ締結セムトスルトキハ徒ニ基本協約ノ成立ヲ遅延セシムヘキニヨリ我方ハ到底之ニ同意スルヲ得ズ又労働政府ノ正式代表者ヲ右委員会ニ参加セシムルコトハ差当リ同意シ難シ

三、口上書第四項末段黒竜江航行權ノ許与ハ極東共和国ノ利益ニ反スルヲ以テ之ニ同意シ得ストノコトナルモ極東共和国内交通ノ改善ハ結局露国人ノ利益トナルヘク從テ

ニ認メベトロフニ手交シタル件

合第七二二号

(一月三日接受)

貴電第六九号ノ趣旨ヲ文書ニ認メ客年十二月三十一日「ペトロフ」ニ手交シタル処

(一) 非共產制維持ノ件ニ付テハ相變ラズ削除ヲ主張シタルガ本官ノ堅ク持シテ動かザルヲ見ルヤ相互的形式ヲ採用シ兩國ノ現行制度ヲ變更セザルコトヲ約束スルコトトセバ斉多側ニ於テモ異存ナカルベシト信ズ文句ハ篤ト考量ノ上追テ書付ヲ以テ申進ズベシト云ヘリ

(二) 漁業協約ニ関シテハ追テ労働代表ノ参加ヲ承諾セラルルナラバ異存ナシト云ヒ

(三) 黒竜江及松花江航行權問題ニ就テハ斉多政府ハ依然反対意見ヲ有スルモ更ニ請訓スベシト答ヘ

先方ノ理由ハ之ヲ首肯スルヲ得ズ又松花江航行權ニ就テハ直ニ此カ許容ヲ要求セルニ非ズ關係第三国ノ同意ヲ条件トシ右支那政府ノ同意ニ就テハ我方ヨリ交渉スヘキヲ予想セルモノナルヲ以テ貴電第七一号末段ノ如キ理由ヲ以テ本件ニ不同意ヲ唱フルハ理由ナキ次第ニシテ我方ハ本件要求ヲ拋棄スルヲ得ズ

四、口上書第五項前半ニ付「……条約協約其他ノ協定ニ就テハ兩当事国政府間ニ追テ協議スルコトトス」ト改メ差支ナシ

五、要塞撤廃ニ就テハ往電第六三号訓令末段ノ理由ニヨリ我方ニテハ讓歩スルヲ得ズ

六、貴電第六五号尼港事件善後方法ニ関スル先方ノ提議ハ該事件ニ関スル責任ヲ回避セムトスルモノナルヲ以テ我方ハ之ヲ責任アル具体的提案トシテ考慮スルヲ得ズ從テ先方ノ再考ヲ促スノ外ナシ

(附記)

大正十一年一月三日松島政務部長発内田外務大臣宛電報合第七二号

大連會議ニ於テ彼我意見不一致ノ事項ニ関シ訓令ノ趣旨ヲ文書

(四) 要塞ノ撤廃ニ就テハ(一)ノ点ニ付日本側ニ於テ讓歩セラルルナラバ斉多側ハ朝鮮国境ニ於テ新ニ要塞ヲ建造セズ現存要塞ハ之ヲ復旧セザルベキ旨声明シ得ベシ但シ同声明ハ基本協約ノ附属文書トナスコトナク本件ニ関スル特別會議録ヲ作製シ其中ニ右声明ヲ載スルコトトシタシト云ヒ

(五) 尼港事件ニ関シテハ斉多政府ハ「レスボンシビリチー」ヲ負フ能ハザルモ「オブリゲーション」ヲ取り之ヲ解決シ得ベク改メテ提案スベシト云ヘリ

第四項声明案及第五項提案共一兩日中ニ送附スベシトノコトナリシヲ以テ待チ居タルモ今ニ送付ナキニ付不取敢右電報ス